

Title	障害と家族形成に関するアンケート調査報告書
Author(s)	竹田, 恵子
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90052
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

障害と家族形成に関するアンケート調査報告書

2023年3月31日

大阪大学人間科学研究科招へい研究員

竹田恵子

目次

1. 概要	-----	p.1
2. 年齢による比較	-----	p.5
3. 性別による比較	-----	p.15
4. 障害の発生時期による比較	-----	p.23
5. 障害種別による比較	-----	p.31
6. 年金の受給による比較	-----	p.71
7. 再生産意識による比較	-----	p.79

(付録) 質問票

1. 概要

1-1. 目的

障害者の家族形成に必要な環境や支援を考えるための材料となる結果を得るため、障害者の家族形成に関係する要因を整理し、これを計量的に明示することを目的とする。

1-2. 方法

調査の趣旨を理解し、自発的に協力できる18才以上の障害者を対象としたアンケート調査を実施した。回答時期は、2022年4月1日～2022年8月31日とした。

当事者団体（名称は次ページ記載）の協力のもとで所属会員等へ調査内容が告知され、協力者は①ウェブ上で回答、②質問紙への直接の記入（質問票は郵送）、③電子メールにて回答のいずれかを選ぶ方法をとった。なお、ウェブ上での回答には、株式会社マクロミルのQuestant（クエスタント）を利用した。

質問内容（詳細は巻末の付録を参照のこと）

- ・家族形成に関する質問（6問）
- ・育児協力者に関する質問（12問）
- ・障害者の育児と社会資源等に関する質問（6問）
- ・回答者のプロフィールに関する質問（8問）

1-3. 協力者

225名の協力者を得た。協力者のプロフィールは、表1の「全体」を参照のこと。

表1 協力者のプロフィール

属性カテゴリ	全体 n=225		非再生産群 n=51		再生産群 n=40		再生産済み群 n=111		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
年齢層	30歳代以下	43	19.1	8	15.7	20	50.0	8	7.2
	40歳代	53	23.6	17	33.3	7	17.5	23	20.7
	50歳代	58	25.8	19	37.3	1	2.5	33	29.7
	60歳代以上	71	31.6	7	13.7	12	30.0	47	42.3
性別	女性	101	44.9	24	47.1	17	42.5	49	44.1
	男性	122	54.2	25	49.0	23	57.5	62	55.9
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	無回答	2	0.9	2	3.9	0	0.0	0	0.0
先天/後天	生まれつき	97	43.1	27	52.9	15	37.5	44	39.6
	中途障害	122	54.2	22	43.1	25	62.5	64	57.7
	答えられない	6	2.7	2	3.9	0	0.0	3	2.7
障害年金の受給	受給している	128	56.9	35	68.6	26	65.0	54	48.6
	受給していない	92	40.9	14	27.5	14	35.0	55	49.5
	答えられない	5	2.2	2	3.9	0	0.0	2	1.8

また、分析を深めるため、自分の子どもを持つことに関する設問（Q2）の回答を手掛かりに協力者を「子どもを持つつもりはない（非再生産群、51名）」、「いずれ子どもを持ちたい（再生産群、40名）」、「すでに子どもがいる（再生産済み群、111名）」の3群に分けた検討も行った。各群の年齢層、性別、先天または後天の別、障害年金受給の有無の構成は表1の「非再生産群」、「再生産群」、「再生産済み群」を参照のこと。

1-4. 結果の概要（全体の傾向）

(1) 障害者の家族形成を妨げるもの

「あなたは、あなたの障害が結婚の妨げになると思ったことはありますか」という質問へ「ある」と回答した者は153名（68.0%）、「ない」と回答した者は56名（24.9%）だった。

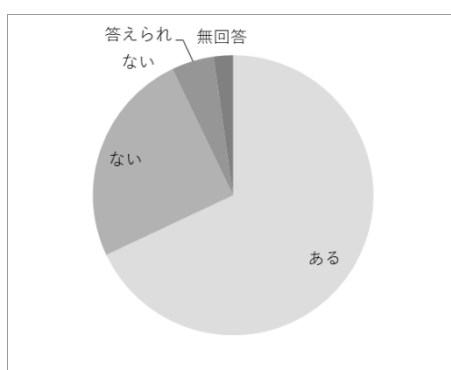


図1 「あなたは、あなたの障害が結婚の妨げになると思ったことはありますか」への回答結果

また、医学的な情報を参考にして子を持つかどうか考えたことがある者は79名（35.1%）、子どもを持つことによって自分の健康が悪化するのではないかと怖れたことのある者は43名（19.1%）、自分の障害が遺伝するのではないかと恐れたことのある者は113名（50.2%）だったことから、子を持つかどうかの決め手として、医学的な情報は一定の影響を持っていることがうかがえた。ただし、正確かどうか疑わしいローカルな医学的情報をもとに「子どもを持たない方がよい」と言われたことのある者は36名（16.0%）だったことから、障害を理由に家族形成を妨げられるという外部からのあからさまな差別的圧力は、徐々に影を潜めつつあることが示唆される。

とはいえ、障害へ医学的な権威付けを意図的に施し、当事者の家族形成を妨げようとする風潮は、昨年度に実施したインタビュー調査にもあらわれており、数が少ないとして軽視すべきではないと考えられる。その理由として、家族形成に関する考え方があげられる。

アンケートで家族形成に関する考え方を尋ねたところ、「いずれ子どもを持ちたい(再生産群)」は 40 名 (17.8%)、「子どもを持つつもりはない(非再生産群)」は 51 名 (22.7%)、「まだわからない」は 20 名 (8.9%)、「すでに子どもがいる(再生産済み群)」は 111 名 (49.3%) だった (図2)。

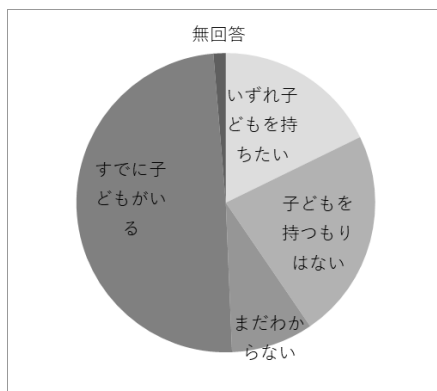


図2 「あなたは、自分の子どもを持つことをどうお考えですか」への回答結果

近年の非婚化や少子化の影響も考慮する必要があるものの、非再生産群が2割程度いることがわかった。問題は、非再生産群が、どういう人たちなのかということであろう。

分析の結果、非再生産群には、生まれつきの障害を持つ割合が高く、障害年金を受給している割合も高いということがわかった。また、非再生産群には、医学的情報を参考に子を持つかどうか考え、子を持つことで自分の健康が悪化すると懸念し、疑わしい医学的情報をもとに誰かに「あなたは子どもを持たない方がよい」と言われた経験を持つ割合も高かった。つまり、非再生産群には、実際に家族形成へ取りかかる前に、周囲からの軋轢や差別的言動が向けられることによって、必要以上に自らの障害の悪化や妊娠・出産・育児への懸念を多く持たされてしまうのではないかと推測される。

これを裏付けるかのように、非再生産群は障害者が育児をするとき、家族や各種専門家のほかに近隣住民や職場の人の協力も必要だと考える割合が他群よりも高かったことがあげられる。非再生産群からみれば、障害者が育児をするには、多くの支援がなければ難しいと映るのだろうと推測される。

しかし、現実の社会では、そのような充実した支援は見込めないと、非再生産群に諦められていることも伺えた。その理由として、非再生産群はバリアフリー・障害者雇用・医療制度・障害者の性と生殖の権利が整っても、「障害者の家族形成は増えない」と考える割合が高かったことがあげられる。支援制度の不十分さはもとより、周囲の無理解と心ない差別が、障害者の家族形成を妨げていることをあらわす結果である。

(2) 子育て経験者の明るい態度

その一方で、すでに子どもを持っている再生産済み群は、自分の障害が結婚の妨げになると考える割合が他群よりも低かった。また、再生産済み群では、育児協力を周囲の人たちに期待する割合が他群に比べて全般的に低い傾向にあったことも注目すべきである。もちろん、様々な状況があるので一概には言えないが、自分の障害が結婚の妨げになるとは考えないことで、結婚、妊娠、出産、育児へと道が開ける可能性がみえる。そして、これはあくまで仮説だが、いったん家族形成を始めてしまうと、周囲の協力も思ったほどには必要なかった、という実体験がアンケート結果にあらわれた可能性が示唆される。

しかし、家族形成は障害の有無を問わず、たいへんな取り組みである。一見、明るそうな再生産済み群の回答には、もう一つの傾向があった。それは、「障害者福祉が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思う」という割合が、他群よりも高かったという結果である。やはり、社会的な支援が手厚ければ手厚いほど、障害者の家族形成は進むだろうと考えられているのである。

(3) 専門家への期待

子育て支援に期待するアクターとして、家族・友人・近隣住民・職場の人・医療従事者・教育関係者・福祉支援者・福祉行政に携わる地域窓口の担当者・近くに偶然居合わせた人、インターネットを介して知り合った人をあげたところ、家族が最も期待されていたが、その次に期待されていたのは友人・近隣住民・職場の人ではなく、医療従事者・教育関係者・福祉支援者・福祉行政に携わる地域窓口の担当者といった専門家だった。

地域社会との繋がりが強かった昔と現代では、子育てのあり方も異なっている。地理的に近くにいる友人・近隣住民・職場の人に気軽に頼れない現代では、専門家の支援は重要になりつつある。より一層の子育て支援の充実が求められるが、専門家の手は、現行の制度の壁に阻まれることもある。専門家をうまく動かせるような制度をつくり出すことが先決であると考えられる。

(4) 協力者の属性による違いについて

障害と家族形成の関係をより深く検討するため、協力者の年齢、性別、障害の発生時期（生まれつき／中途障害）、障害種別、障害年金の受給の有無にも着目した。それぞれの集計結果は後述を参照のこと。

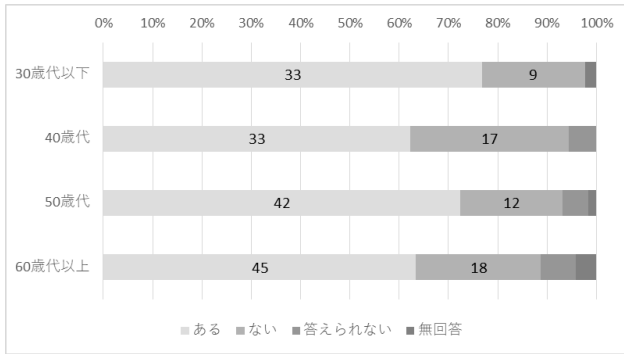
* * *

本報告書は JSPS 科研費 JP18K12928（課題名：障害者の子を持つ困難に影響を与えるローカルノレッジとしての医学的観点の解明）の助成を受けて作成された。

2. 年齢による比較

2-1. 家族形成に関する意識と年齢の関係

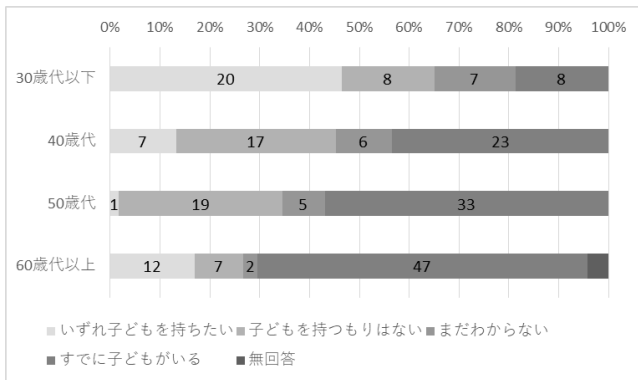
Q1_あなたは、あなたの障害が結婚の妨げになると思ったことはありますか。



棒グラフは上から順に、
 ・ 30歳以下
 ・ 40歳代
 ・ 50歳代
 ・ 60歳代以上 の度数を表示

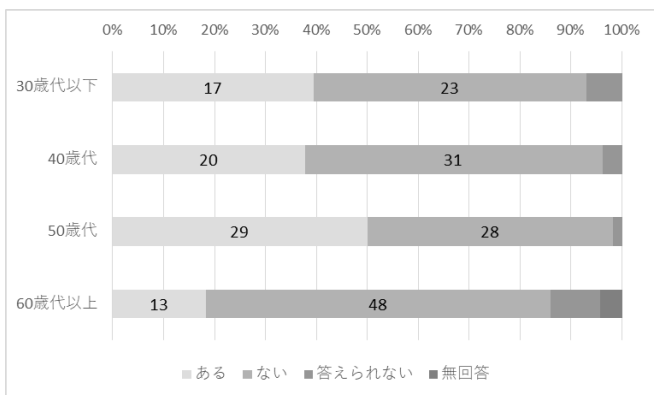
n.s.

Q2_あなたは、自分の子どもを持つことをどうお考えですか。



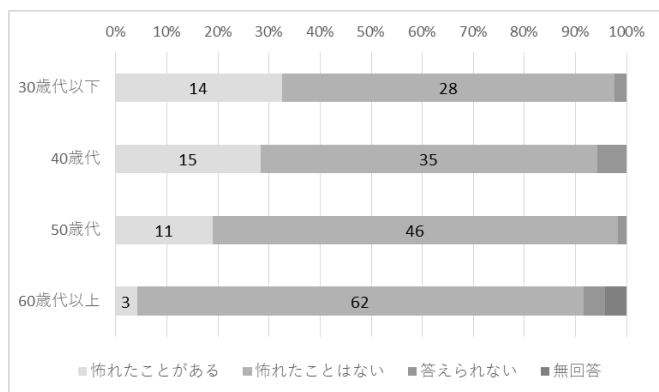
$\chi^2 = 58.1, df=9, p<0.001$

Q3_あなたは医学的な情報（本、ウェブサイトの記事、医療従事者の説明など）を参考にして、子どもを持つかどうか考えたことはありますか。



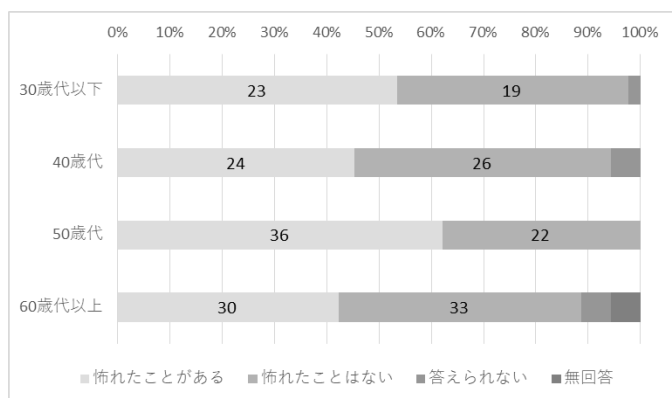
$\chi^2 = 20.0, df=6, p<0.01$

Q4_あなたは自分の子どもを持つことによって、「あなた自身の健康が悪化するのではないか」と怖れたことはありますか。



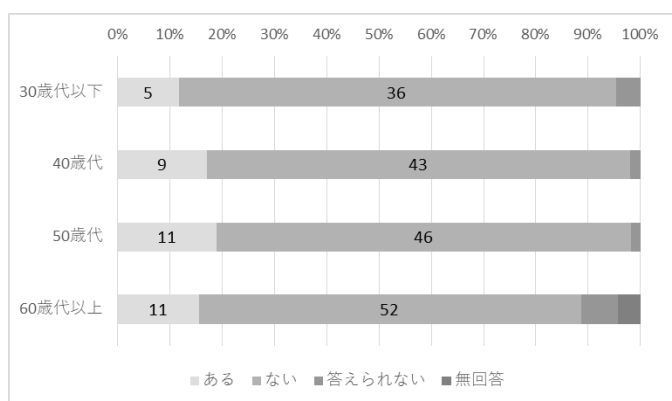
$\chi^2 = 17.5, df=3, p<0.001$

Q5_あなたは、「自分の障害が子どもに遺伝するのではないか」と怖れたことはありますか。



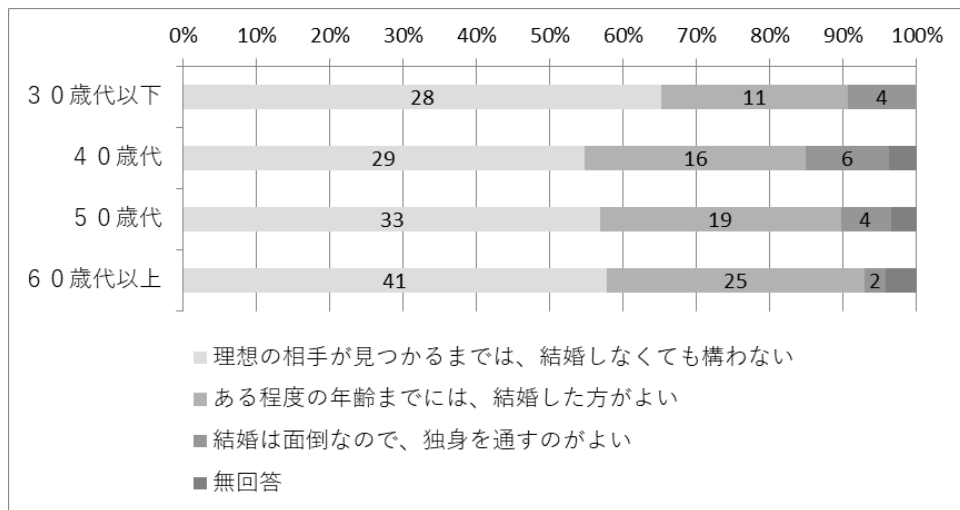
n.s.

Q6_正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことはありますか。



n.s.

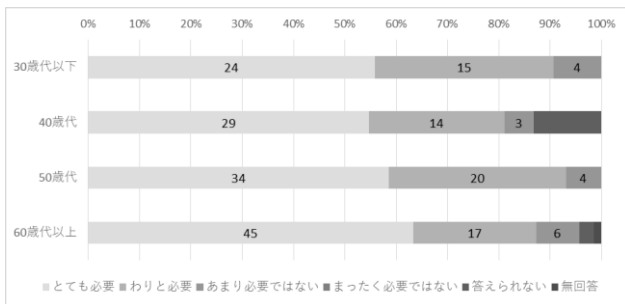
Q31_結婚に対するあなたのお考えに近いものを以下から1つ選んでください。



n.s.

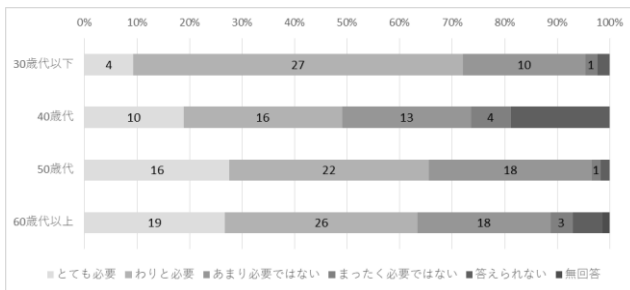
2-2. 育児協力者と年齢の関係

Q7_障害者が育児するとき、「家族」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



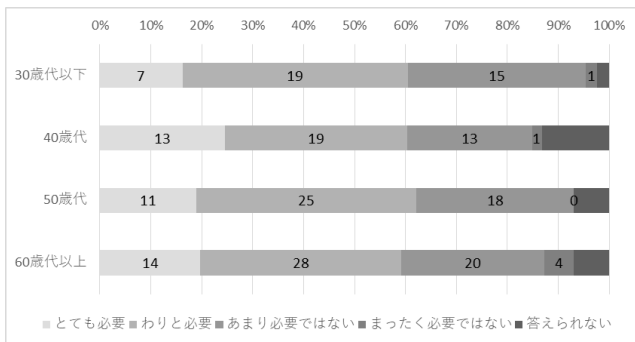
n.s.

Q8_障害者が育児するとき、「友人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



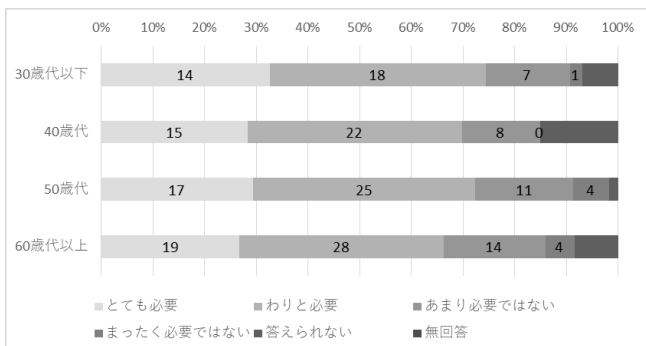
n.s.

Q9_障害者が育児するとき、「近隣住民」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



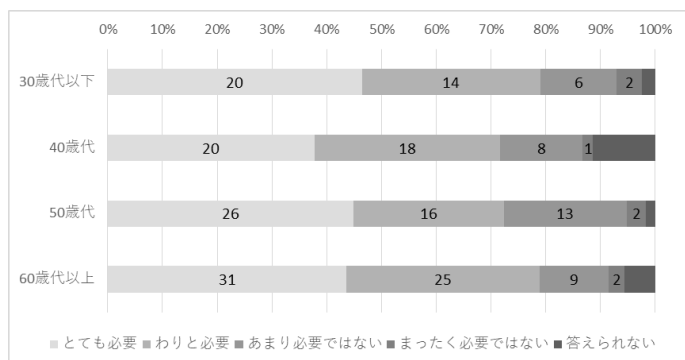
n.s.

Q10_障害者が育児するとき、「職場の人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



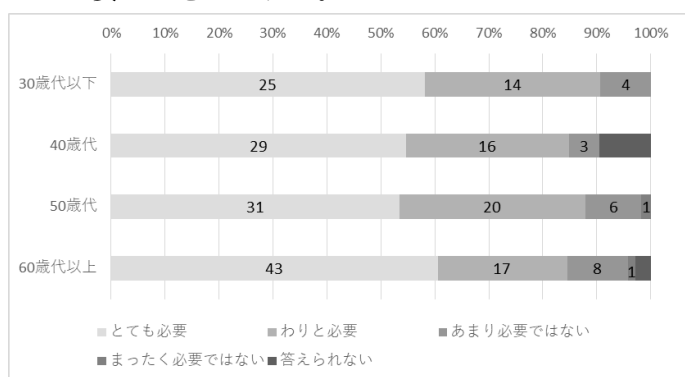
n.s.

Q11_障害者が育児するとき、「医療従事者（つまり、医師、看護師、保健師、薬剤師、理学療法士など）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



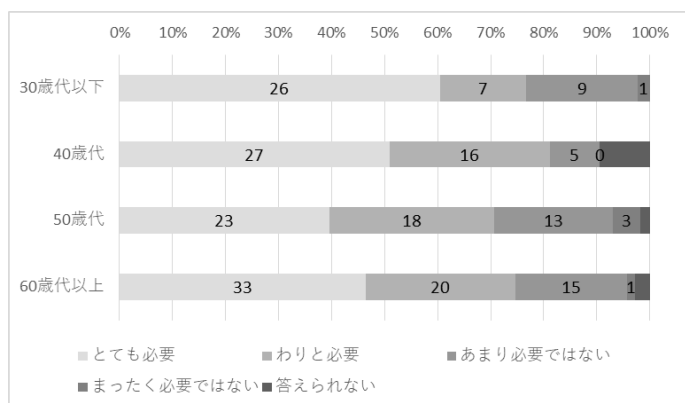
n.s.

Q12_障害者が育児するとき、「教育関係者（つまり、保育園や小中学校などの教職員）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



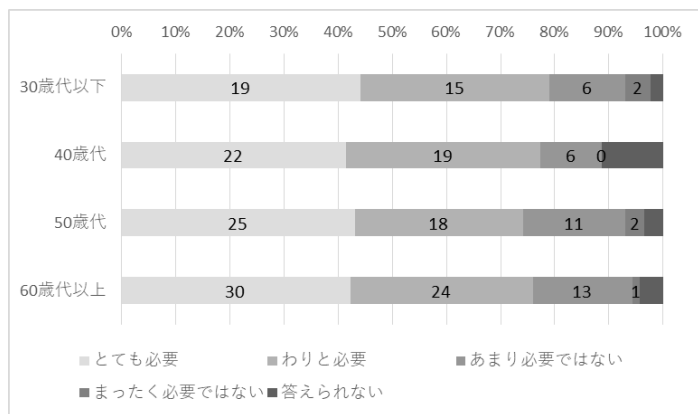
n.s.

Q13_障害者が育児するとき、「福祉支援者（つまり、ヘルパー、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなど）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



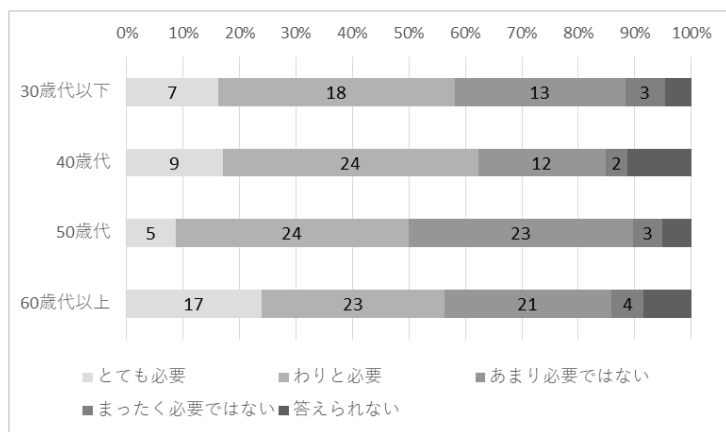
n.s.

Q14_障害者が育児するとき、「福祉行政に携わる地域窓口（つまり、市区町村の保健福祉課など）の担当者」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



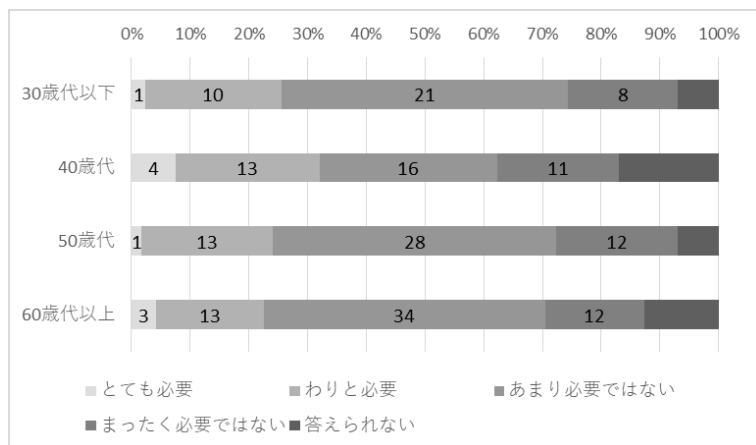
n.s.

Q15_障害者が育児するとき、「近くに偶然居合わせた人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



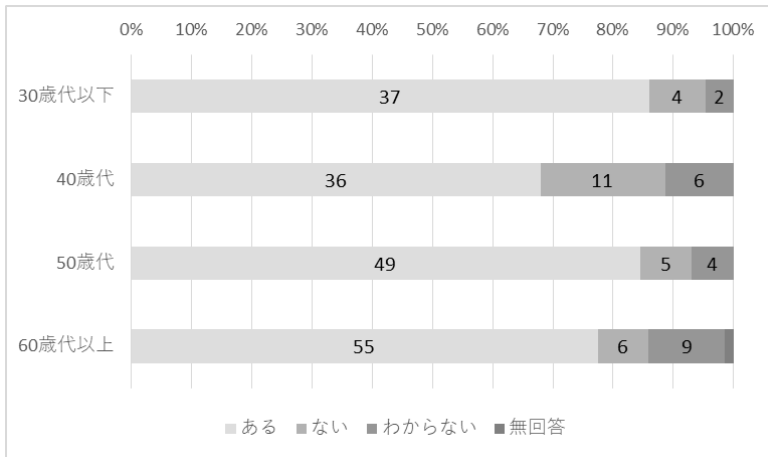
n.s.

Q16_障害者が育児するとき、「インターネットを介して知り合った人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



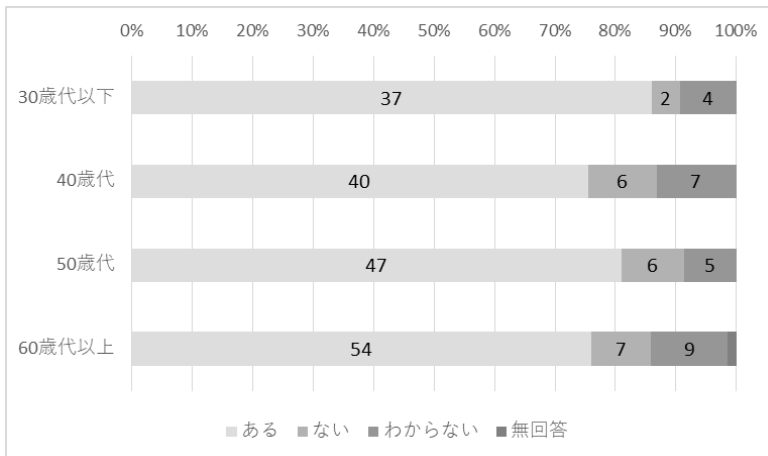
n.s.

Q17_あなたは障害の「種類」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことはありますか。



n.s.

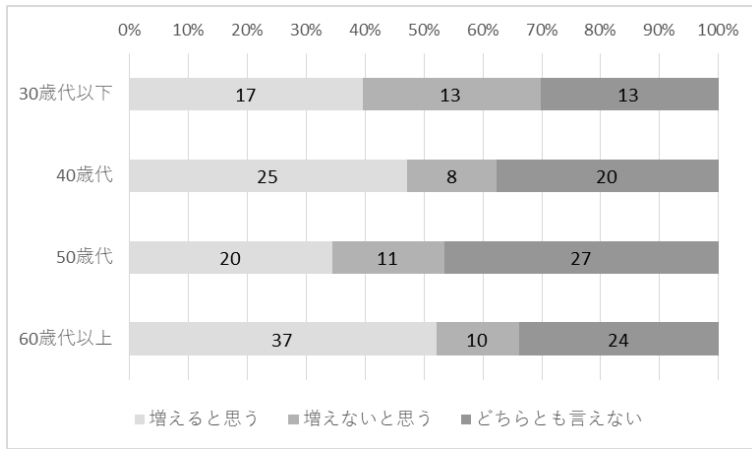
Q18_あなたは障害の「程度」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことはありますか。



n.s.

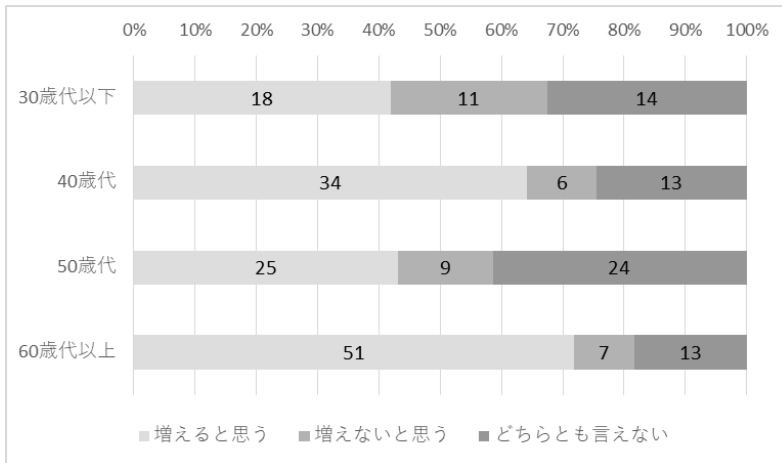
2-3. 社会資源と年齢の関係

Q19_あなたはバリアフリーが進めば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



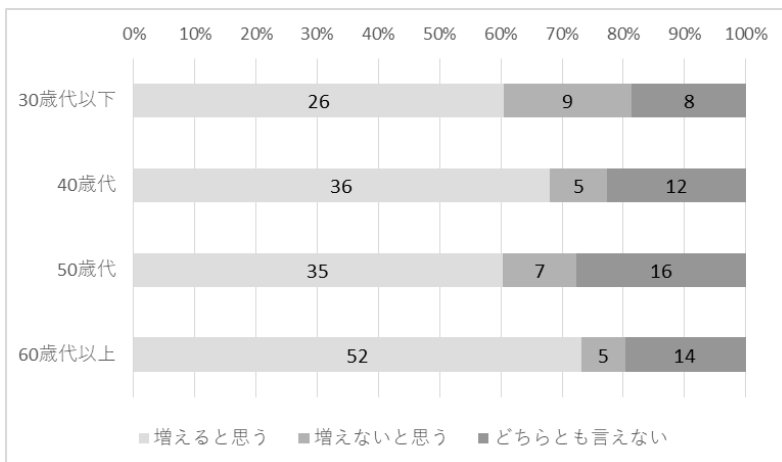
n.s.

Q20_あなたは障害者雇用が促進すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



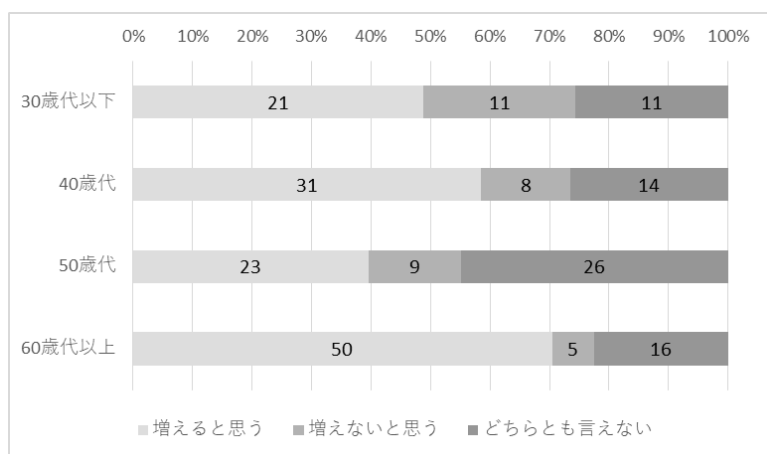
$\chi^2 = 18.8, df=6, p<0.01$

Q21_あなたは障害者福祉が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



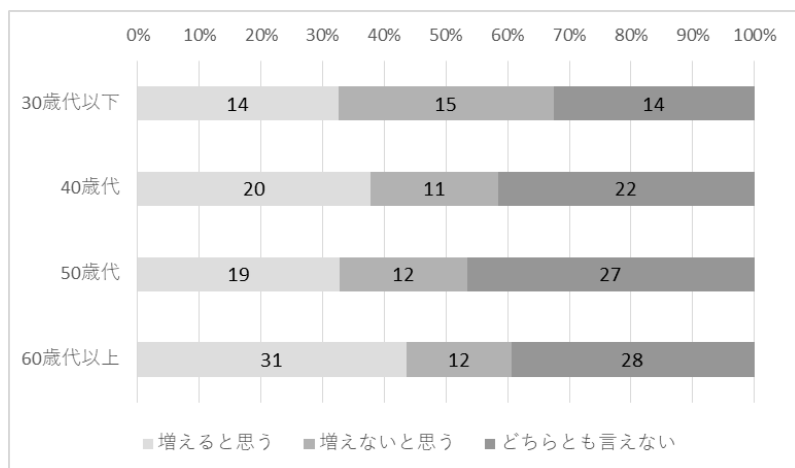
n.s.

Q22_あなたは医療制度が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



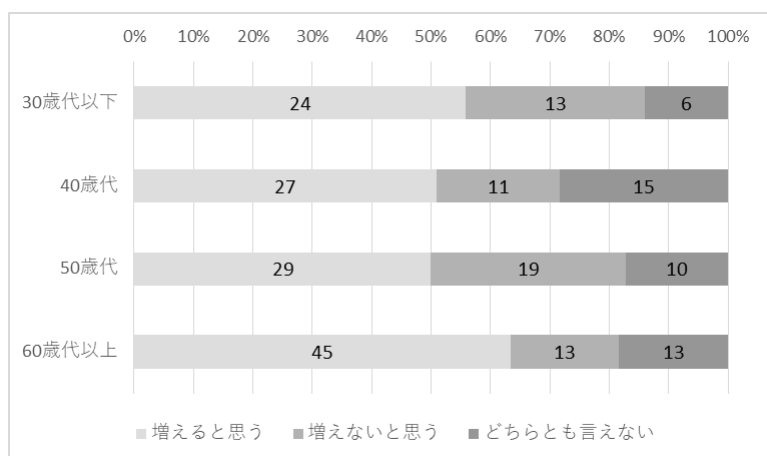
$\chi^2 = 18.4, df=6, p<0.01$

Q23_あなたは統合教育（つまり、障害児と健常児と一緒に教育を受けること）が普及すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



n.s.

Q24_あなたは、障害者の性と生殖に関する権利（つまり、性と子どもを産むことに関する障害者個人の自由と権利）が守られるようになれば、子どもをもつ障害者が増えると思いますか。



n.s.

2-4. 小括

家族形成に関する意識について

- ・30歳代以下に「いずれ子どもを持ちたい」と考える者が多かったが、年齢層が高くなるほど「すでに子どもがいる」と答える割合が増える。
- ・子どもを持つことによって、自分の健康が悪化すると考える割合は、若い年齢層ほど高かった。
- ・障害が遺伝することを恐れる者の割合は年齢に無関係で、半数程度存在した。
- ・正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことがある者の割合は、すべての年齢層で2割弱存在したが、30歳代以下が最も少なかった。
- ・「理想の相手が見つかるまでは、結婚しなくても構わない」と考えるのは、30歳代以下が最も多かった。

育児協力者について

- ・障害者が育児するとき、最も協力が期待されていたのは、全ての年齢層で「家族」であった。しかし、その次に協力を期待されていたのは、「友人」や「近隣住民」「職場の人」ではなく、「医療従事者」「教育関係者」「福祉支援者」「福祉行政に携わる地域窓口の担当者」などの専門家であった。
- ・すべての年齢層で、障害の種類や程度によって、障害者が育児をするのは難しいと思う割合が高かった。

社会資源について

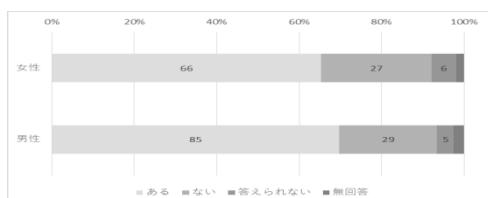
- ・バリアフリー、障害者雇用、障害者福祉、医療制度、統合教育といった社会資源が充実すれば、子どもを持つ障害者が増えると考える者の割合は、40歳代と60歳代以上が30歳代以下と50歳代に比べて高い傾向にあった。
- ・障害者の性と生殖に関する権利が守られるようになれば、子どもを持つ障害者が増えると考える者の割合は、60歳代以上が他の年齢層よりも高い傾向にあった。

注) 上記の小括はあくまでグラフから読み取れる傾向である。統計的に有意であるか否かは、各グラフの横に表示した注記を参照のこと。たとえば、「n.s.」は「統計的な有意差はなし」、「 $\chi^2=11.6$, $df=2$, $p<0.05$ 」は「5%水準で有意差あり」である。

3. 性別による比較

3-1. 家族形成に関する意識と性別の関係

Q1_あなたは、あなたの障害が結婚の妨げになると思ったことはありますか。

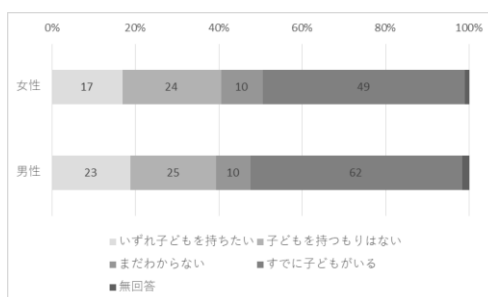


n.s.

棒グラフは上から順に、

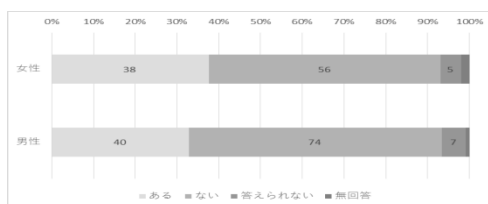
- ・女性
- ・男性 の度数を表示

Q2_あなたは、自分の子どもを持つことをどうお考えですか。



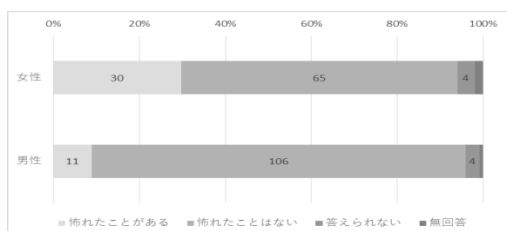
n.s.

Q3_あなたは医学的な情報（本、ウェブサイトの記事、医療従事者の説明など）を参考にし、子どもを持つかどうか考えたことはありますか。



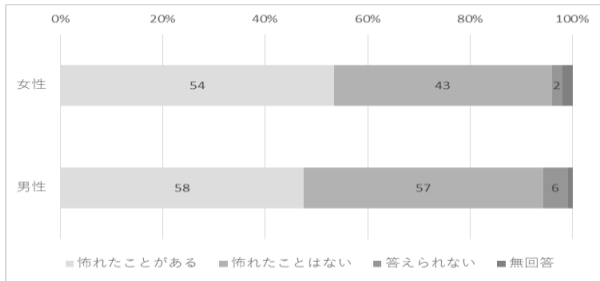
n.s.

Q4_あなたは自分の子どもを持つことによって、「あなた自身の健康が悪化するのではないか」と怖れたことはありますか。



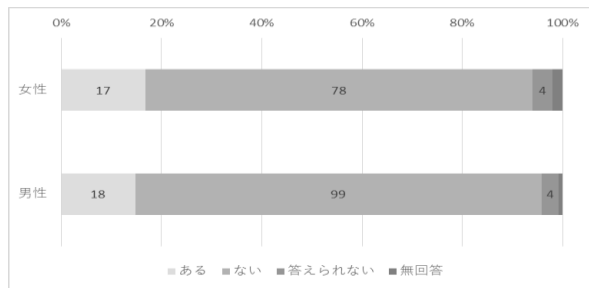
$\chi^2 = 16.5, df=1, p<0.001$

Q5_あなたは、「自分の障害が子どもに遺伝するのではないか」と怖れたことはありますか。



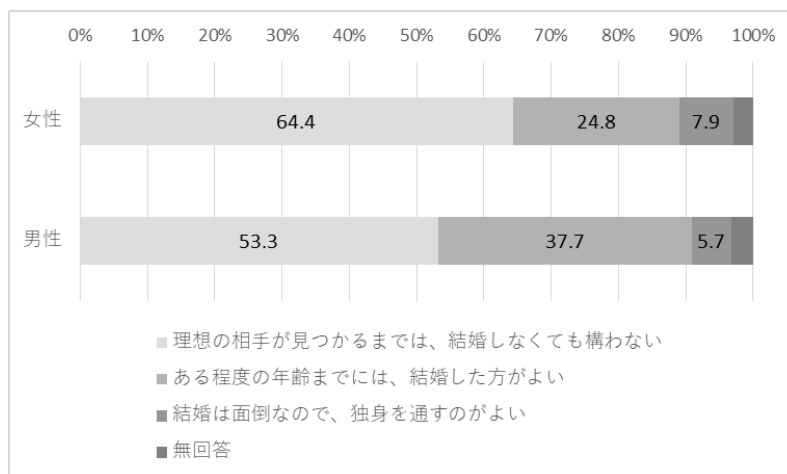
n.s.

Q6_正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことはありますか。



n.s.

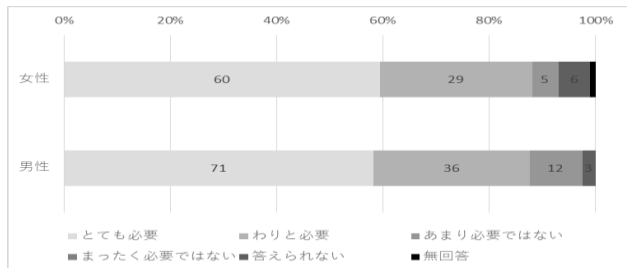
Q31_結婚に対するあなたのお考えに近いものを以下から1つ選んでください。



n.s.

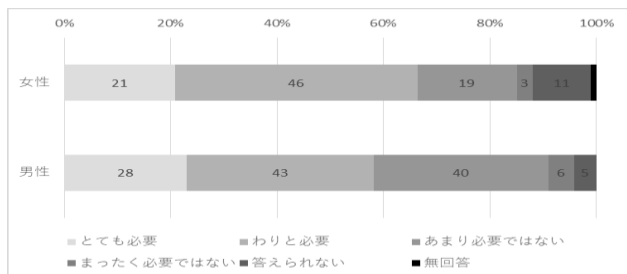
3-2. 育児協力者と性別の関係

Q7_障害者が育児するとき、「家族」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



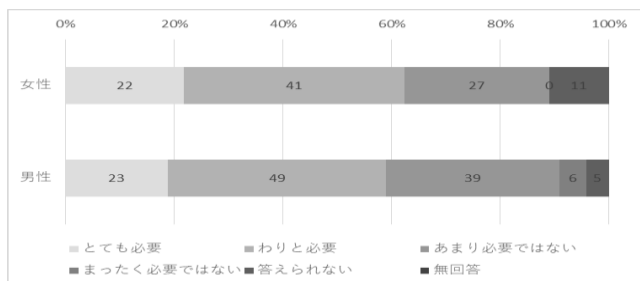
n.s.

Q8_障害者が育児するとき、「友人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



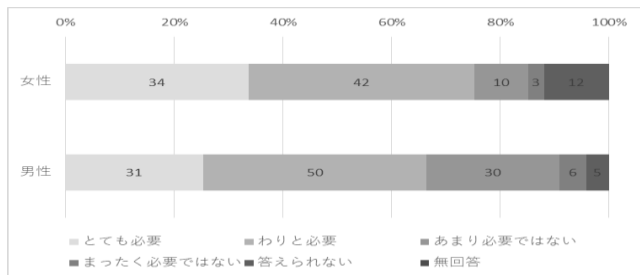
n.s.

Q9_障害者が育児するとき、「近隣住民」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



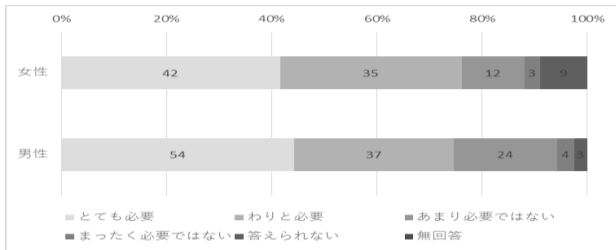
n.s.

Q10_障害者が育児するとき、「職場の人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



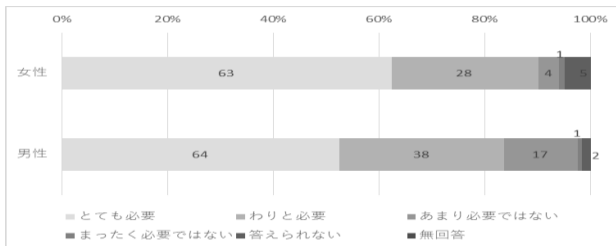
$\chi^2 = 8.2, df=3, p<0.05$

Q11_障害者が育児するとき、「医療従事者（つまり、医師、看護師、保健師、薬剤師、理学療法士など）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



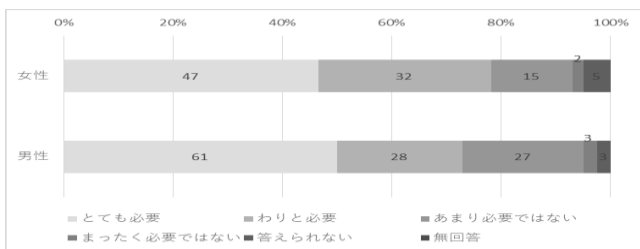
n.s.

Q12_障害者が育児するとき、「教育関係者（つまり、保育園や小中学校などの教職員）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



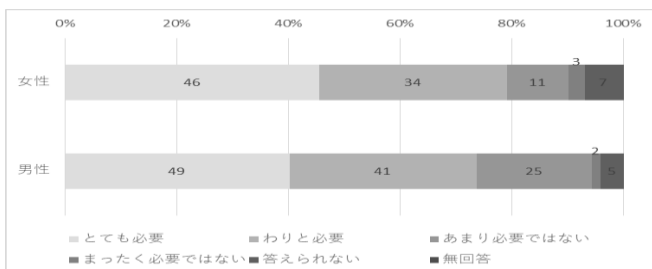
n.s.

Q13_障害者が育児するとき、「福祉支援者（つまり、ヘルパー、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなど）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



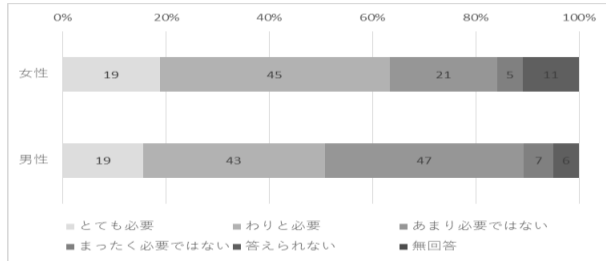
n.s.

Q14_障害者が育児するとき、「福祉行政に携わる地域窓口（つまり、市区町村の保健福祉課など）の担当者」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



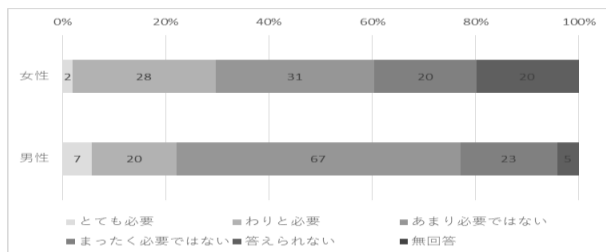
n.s.

Q15_障害者が育児するとき、「近くに偶然居合わせた人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



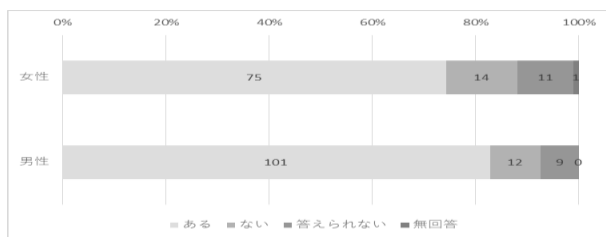
n.s.

Q16_障害者が育児するとき、「インターネットを介して知り合った人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



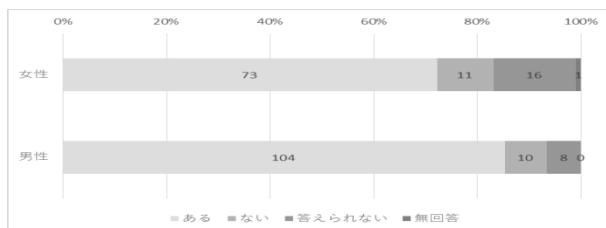
$\chi^2 = 11.4, df=3, p<0.01$

Q17_あなたは障害の「種類」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思いますか。



n.s.

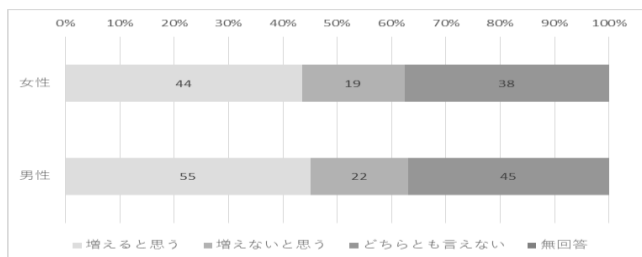
Q18_あなたは障害の「程度」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思いますか。



n.s.

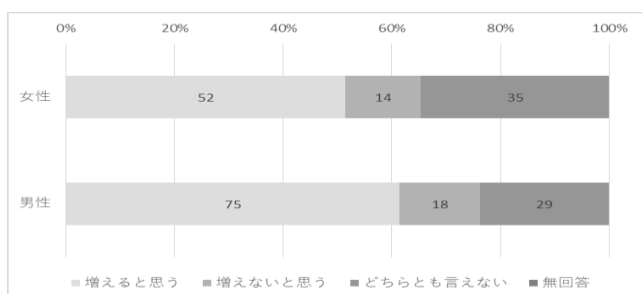
3-3. 社会資源と性別の関係

Q19_あなたはバリアフリーが進めば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



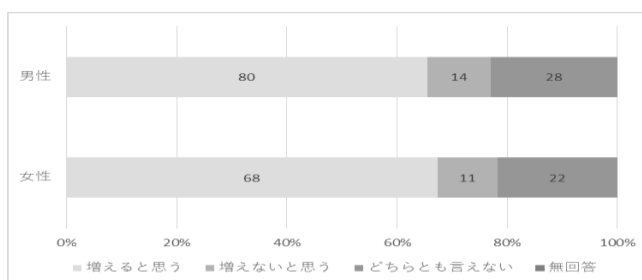
n.s.

Q20_あなたは障害者雇用が促進すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



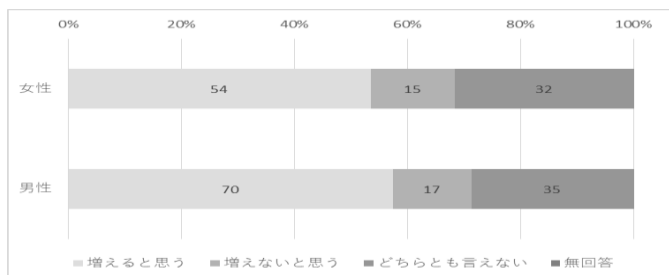
n.s.

Q21_あなたは障害者福祉が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



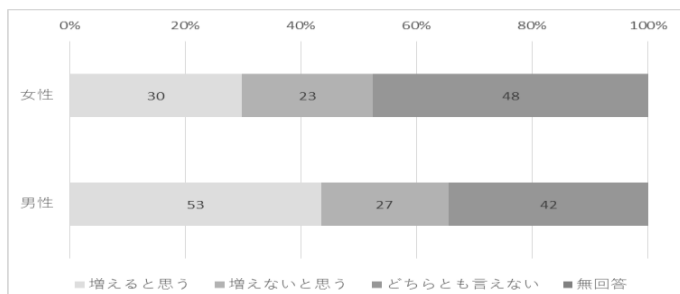
n.s.

Q22_あなたは医療制度が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



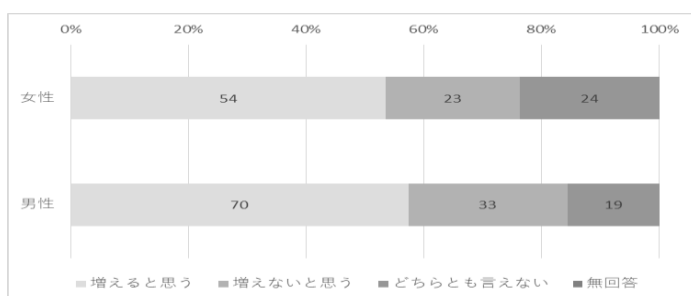
n.s.

Q23_あなたは統合教育（つまり、障害児と健常児と一緒に教育を受けること）が普及すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



n.s.

Q24_あなたは、障害者の性と生殖に関する権利（つまり、性と子どもを産むことに関する障害者個人の自由と権利）が守られるようになれば、子どもをもつ障害者が増えると思いますか。



n.s.

3-4. 小括

家族形成に関する意識について

- ・障害が結婚の妨げになるという考えには性別による差はなかった。
- ・自分の子どもを持つかどうかという考えには、性別による差はなかった。
- ・医学的な情報を参考に自分の子どもをもつかどうか考えことがある者の割合に、性差はなかった。
- ・自分の子どもを持つことによって、自分の健康が悪化するのではないかと恐れたことがある者の割合は、男性よりも女性の方が高かった。
- ・障害が遺伝するのではないかと恐れた者の割合には、性差はなかった。
- ・正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことがある者の割合に、性差はなかった。
- ・「理想の相手が見つかるまでは、結婚しなくても構わない」、「結婚は面倒なので、独身を通すのがよい」と考える者の割合は、男性よりも女性の方が高く、「ある程度の年齢になるまでには、結婚した方がよい」と考える者の割合は女性よりも男性の方が高かった。

育児協力者について

- ・障害者が育児するとき、最も協力が期待されていたのは、両性ともに「家族」であった。しかし、その次に協力を期待されていたのは、「友人」や「近隣住民」ではなく、「医療従事者」「教育関係者」「福祉支援者」「福祉行政に携わる地域窓口の担当者」などの専門家であった。
- ・育児で職場の人や教職員の協力が必要だと思うのは、女性の方が男性より多い。
- ・統合教育が普及すれば障害者の家族形成が進むと考えるのは、女性よりも男性の方が多い。
- ・両性ともに、障害の種類や程度によって、障害者が育児をするのは難しいと思う割合が高かったが、男性の方が女性よりもそう思う割合が若干高めだった。

社会資源について

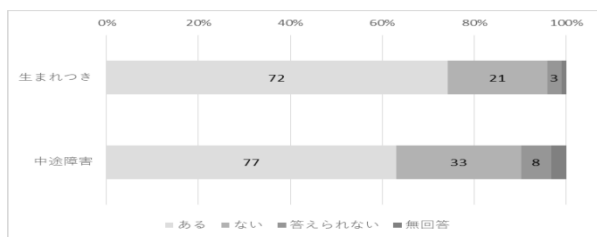
- ・障害者雇用、統合教育が充実すれば、子どもを持つ障害者が増えると考える者の割合は、女性よりも男性の方が高い傾向にあった。

注) 上記の小括はあくまでグラフから読み取れる傾向である。統計的に有意であるか否かは、各グラフの横に表示した注記を参照のこと。たとえば、「n.s.」は「統計的な有意差なし」、「 $\chi^2=11.6, df=2, p<0.05$ 」は「5%水準で有意差あり」である。

4. 障害の発生時期による比較

4-1. 家族形成に関する意識と障害の発生時期の関係

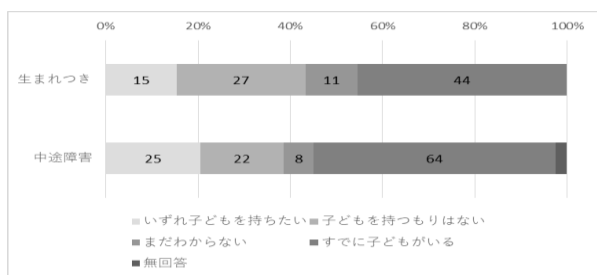
Q1_あなたは、あなたの障害が結婚の妨げになると思ったことはありますか。



棒グラフは上から順に、
・生まれつき
・中途障害 の度数を表示

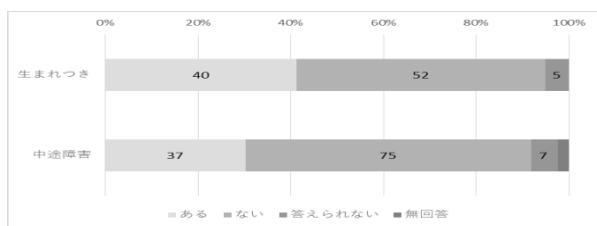
n.s.

Q2_あなたは、自分の子どもを持つことをどうお考えですか。最も近いものを1つ選んでください。



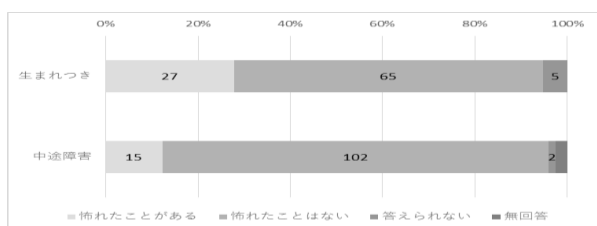
n.s.

Q3_あなたは医学的な情報（本、ウェブサイトの記事、医療従事者の説明など）を参考にして、子どもを持つかどうか考えたことはありますか。



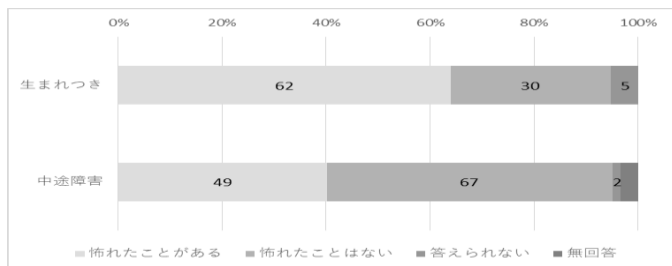
n.s.

Q4_あなたは自分の子どもを持つことによって、「あなた自身の健康が悪化するのではないか」と怖れたことはありますか。



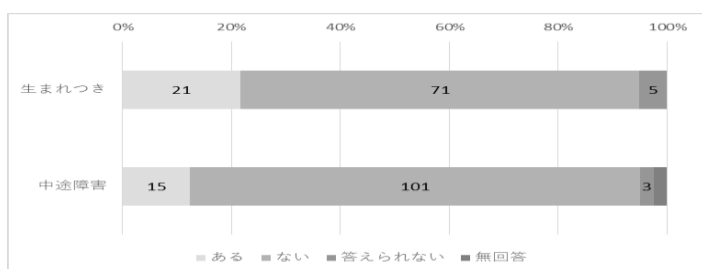
$\chi^2 = 8.8, df=1, p<0.01$

Q5_あなたは、「自分の障害が子どもに遺伝するのではないか」と怖れたことはありますか。



$\chi^2 = 13.0, df=1, p<0.001$

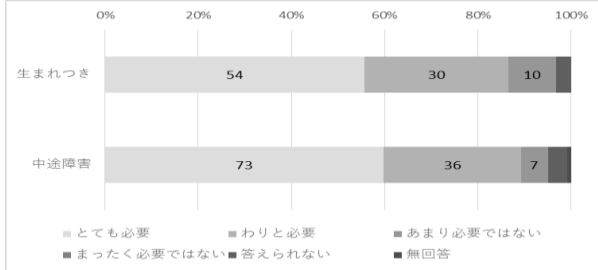
Q6_正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことはありますか。



n.s.

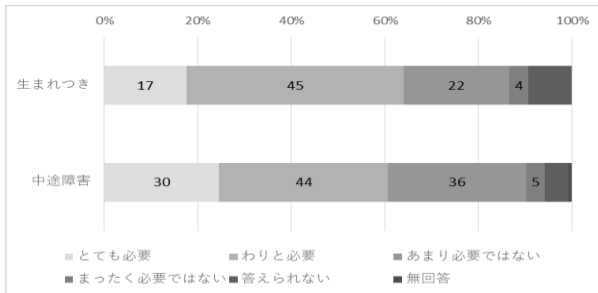
4 - 2. 育児協力者と障害の発生時期の関係

Q7_障害者が育児するとき、「家族」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



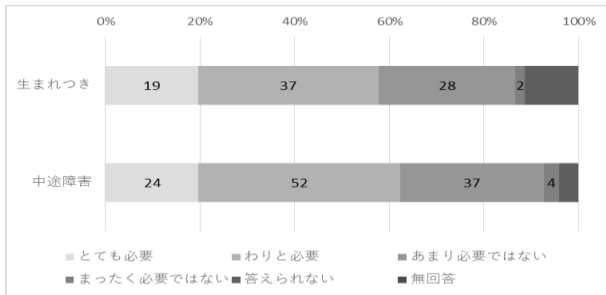
n.s.

Q8_障害者が育児するとき、「友人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



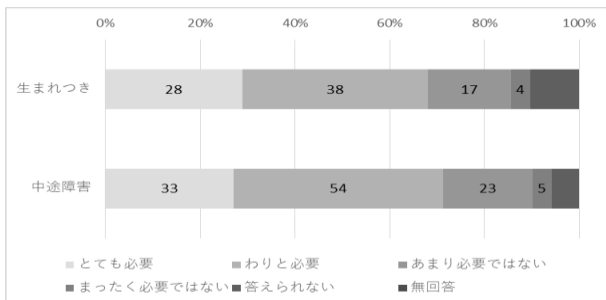
n.s.

Q9_障害者が育児するとき、「近隣住民」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



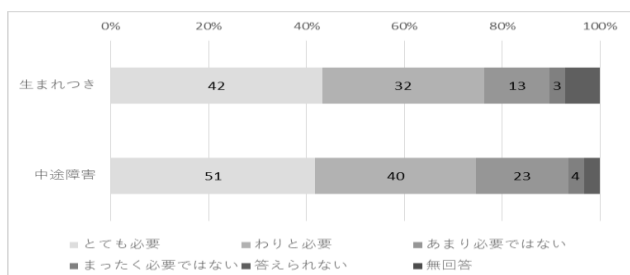
n.s.

Q10_障害者が育児するとき、「職場の人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



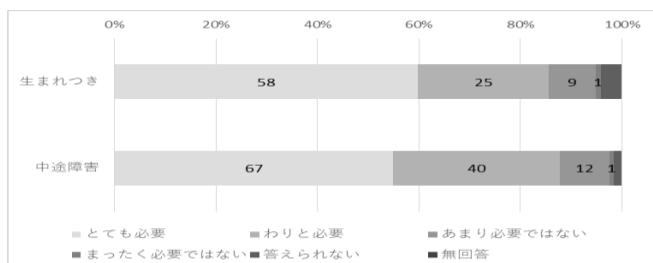
n.s.

Q11_障害者が育児するとき、「医療従事者（つまり、医師、看護師、保健師、薬剤師、理学療法士など）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



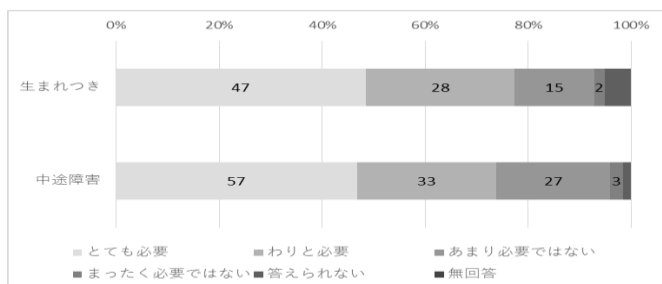
n.s.

Q12_障害者が育児するとき、「教育関係者（つまり、保育園や小中学校などの教職員）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



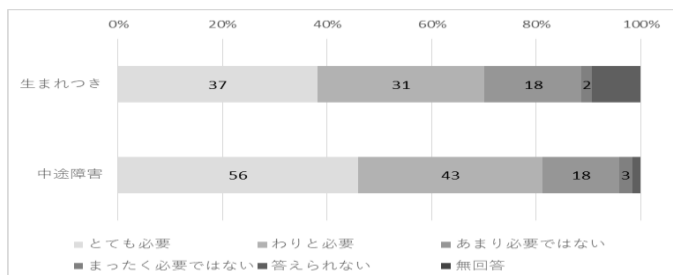
n.s.

Q13_障害者が育児するとき、「福祉支援者（つまり、ヘルパー、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなど）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



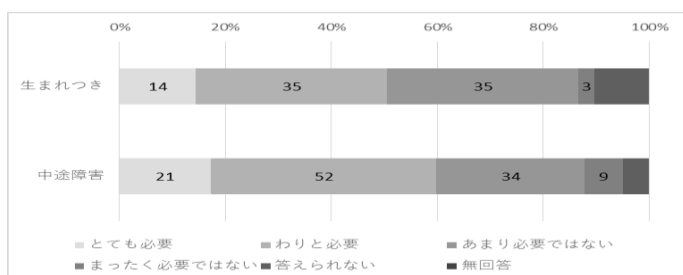
n.s.

Q14_障害者が育児するとき、「福祉行政に携わる地域窓口（つまり、市区町村の保健福祉課など）の担当者」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



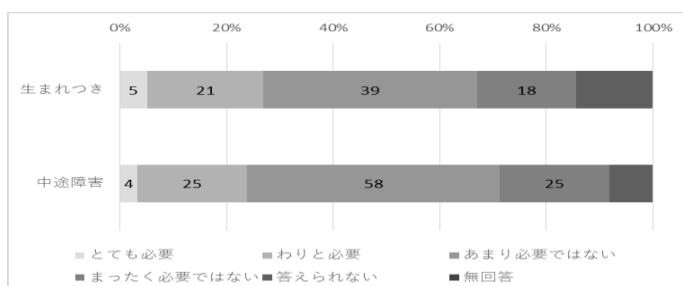
n.s.

Q15_障害者が育児するとき、「近くに偶然居合わせた人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



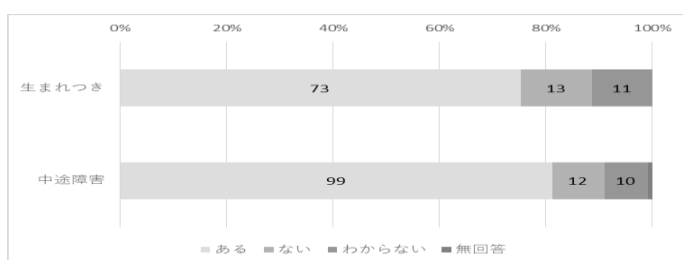
n.s.

Q16_障害者が育児するとき、「インターネットを介して知り合った人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



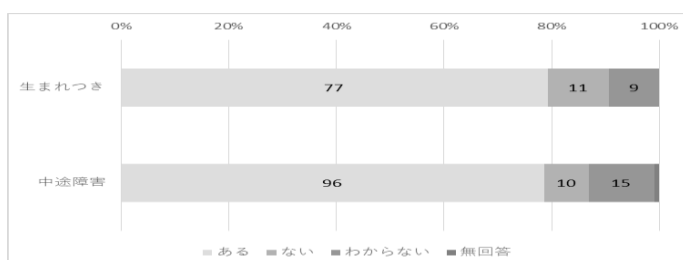
n.s.

Q17_あなたは障害の「種類」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思いますか。



n.s.

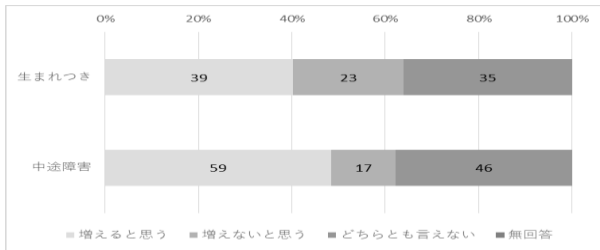
Q18_あなたは障害の「程度」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思いますか。



n.s.

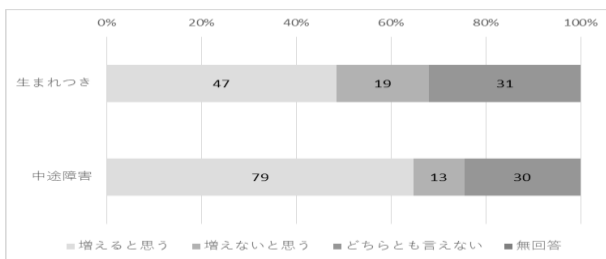
4-3. 社会資源と障害の発生時期の関係

Q19_あなたはバリアフリーが進めば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



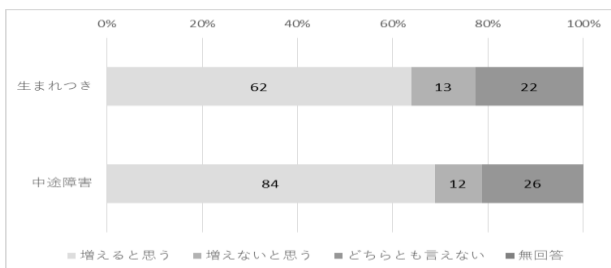
n.s.

Q20_あなたは障害者雇用が促進すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



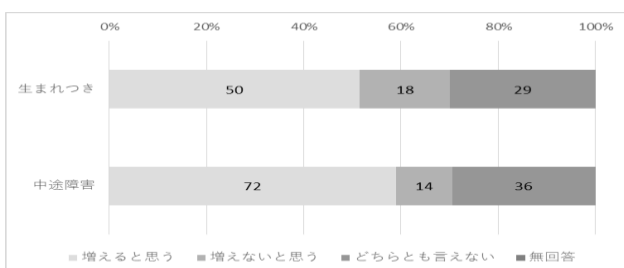
$\chi^2 = 6.50, df=1, p<0.05$

Q21_あなたは障害者福祉が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



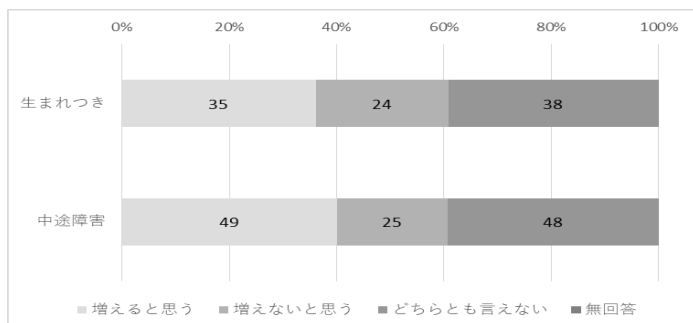
n.s.

Q22_あなたは医療制度が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



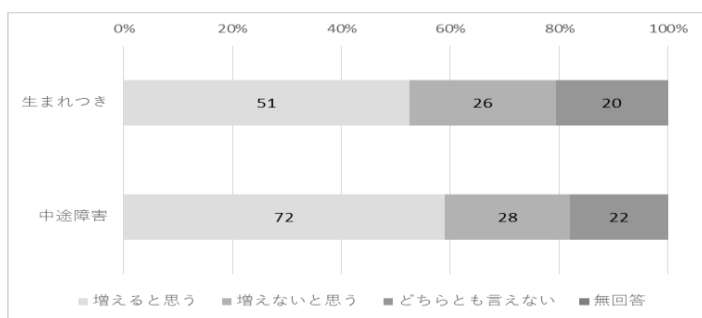
n.s.

Q23_あなたは統合教育（つまり、障害児と健常児と一緒に教育を受けること）が普及すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



n.s.

Q24_あなたは、障害者の性と生殖に関する権利（つまり、性と子どもを産むことに関する障害者個人の自由と権利）が守られるようになれば、子どもをもつ障害者が増えると思いますか。



n.s.

4-4. 小括

家族形成に関する意識について

- ・障害が結婚の妨げになると考える者の割合は、生まれつきのほうが中途障害よりも高かった。
- ・生まれつきでは、「いずれ子どもを持ちたい」と考える者の割合が中途障害よりも低く、「子どもを持つつもりはない」と考える者の割合が高かった。また、中途障害では、「すでに子どもがいる」と答える者の割合が生まれつきよりも高かった。
- ・医学的な情報を参考に子どもを持つかどうか考えたこともある者の割合は、生まれつきのほうが高めだった。
- ・自分の子どもを持つことによって、自分の健康が悪化するのではないかと恐れたことがある者の割合は、中途障害よりも生まれつきの方が高かった。
- ・障害が遺伝するのではないかと恐れた者の割合は、中途障害よりも生まれつきの方が高かった。
- ・正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことがある者の割合は、中途障害よりも生まれつきの方が高かった。

育児協力者について

- ・障害者が育児するとき、最も協力が期待されていたのは、生まれつき、中途障害ともに「家族」であった。しかし、その次に協力を期待されていたのは、「友人」や「近隣住民」ではなく、「医療従事者」「教育関係者」「福祉支援者」「福祉行政に携わる地域窓口の担当者」などの専門家であった。
- ・中途障害は生まれつきよりも、「友人」「福祉行政に携わる地域窓口の担当者」の協力を期待する者の割合が高めだった。

社会資源について

- ・バリアフリー、障害者雇用、障害者福祉、医療制度、統合教育、障害者の性と生殖に関する権利が充実すれば、子どもを持つ障害者が増えると考えられる者の割合は、生まれつきよりも中途障害のほうが高い傾向にあった。

注) 上記の小括はあくまでグラフから読み取れる傾向である。統計的に有意であるか否かは、各グラフの横に表示した注記を参照のこと。たとえば、「n.s.」は「統計的な有意差なし」、「 $\chi^2=11.6, df=2, p<0.05$ 」は「5%水準で有意差あり」である。

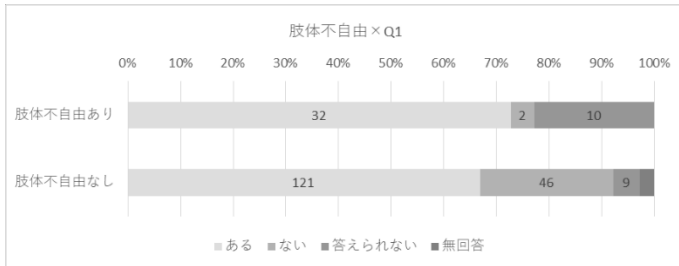
5. 障害種別による比較

障害種別ごとの人数は以下の通り。

肢体不自由あり	44
肢体不自由なし	181
視覚障害あり	58
視覚障害なし	167
聴覚障害あり	62
聴覚障害なし	163
言語障害あり	40
言語障害なし	185
精神障害あり	21
精神障害なし	204
内部障害あり	21
内部障害なし	204
その他障害あり	11
その他障害なし	214

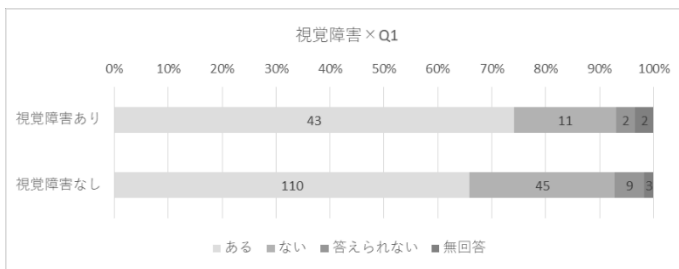
5 - 1. 家族形成に関する意識と障害種別の関係

Q1_あなたは、あなたの障害が結婚の妨げになると思ったことはありますか。



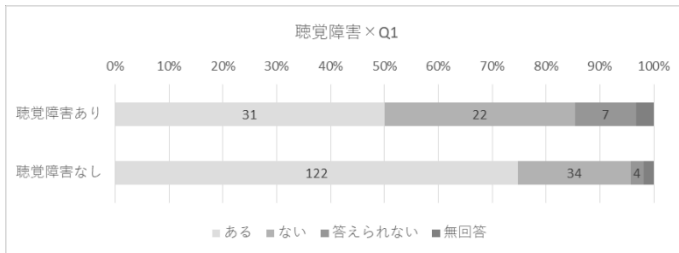
棒グラフは上から順に、
 ・ 肢体不自由あり
 ・ 肢体不自由なし の度数を表示

$\chi^2 = 7.3, df=1, p<0.01$



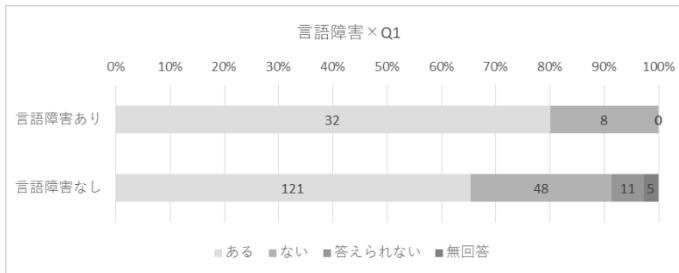
棒グラフは上から順に、
 ・ 視覚障害あり
 ・ 視覚障害なし の度数を表示

n.s.



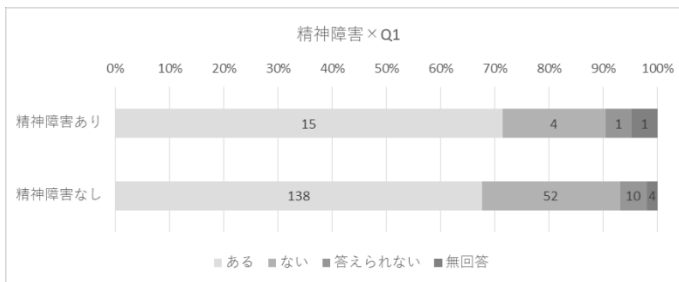
棒グラフは上から順に、
 ・ 聴覚障害あり
 ・ 聴覚障害なし の度数を表示

$\chi^2 = 7.8, df=1, p<0.01$



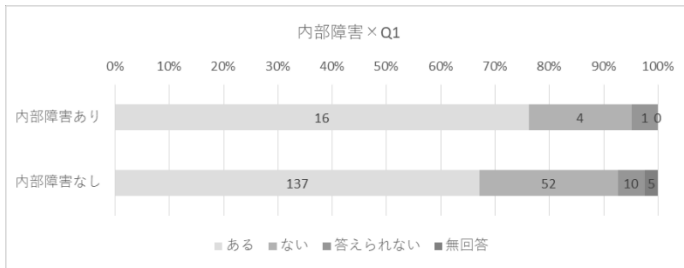
棒グラフは上から順に、
 ・ 言語障害あり
 ・ 言語障害なし の度数を表示

n.s.



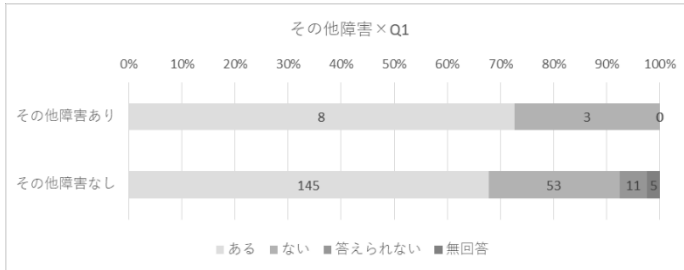
棒グラフは上から順に、
 ・ 精神障害あり
 ・ 精神障害なし の度数を表示

n.s.



棒グラフは上から順に、
 ・ 内部障害あり
 ・ 内部障害なし の度数を表示

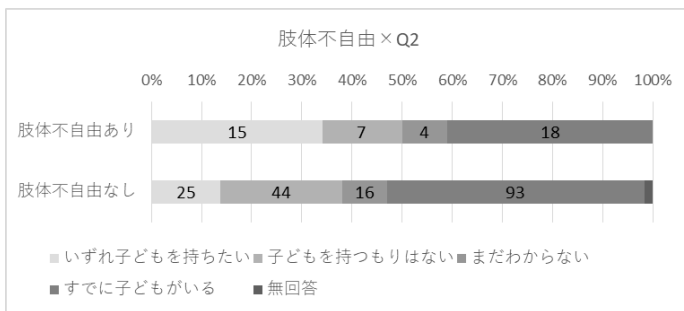
n.s.



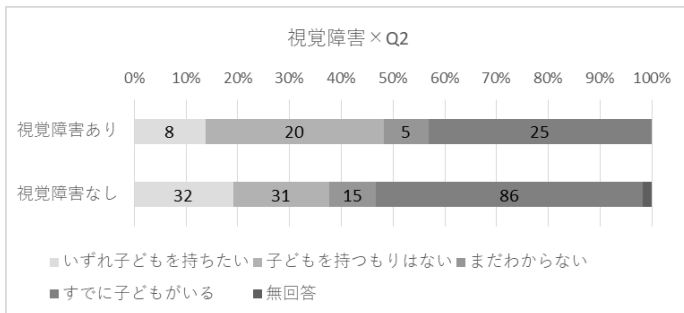
棒グラフは上から順に、
 ・ その他障害あり
 ・ その他障害なし の度数を表示

n.s.

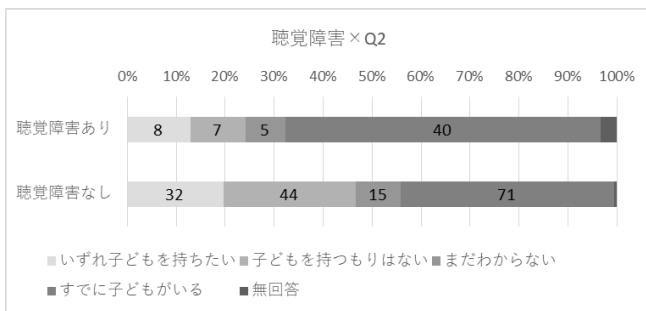
Q2_あなたは、自分の子どもを持つことをどうお考えですか。最も近いものを1つ選んでください。



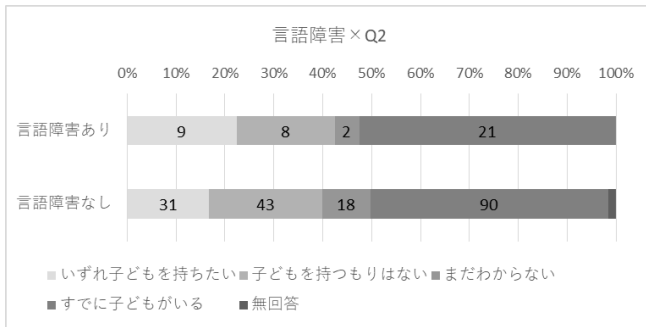
$\chi^2 = 10.0, d3=1, p<0.05$



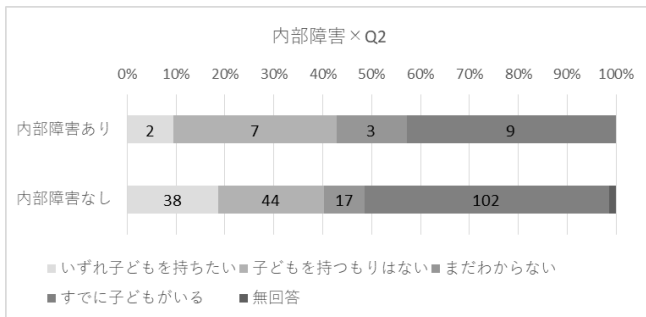
n.s.



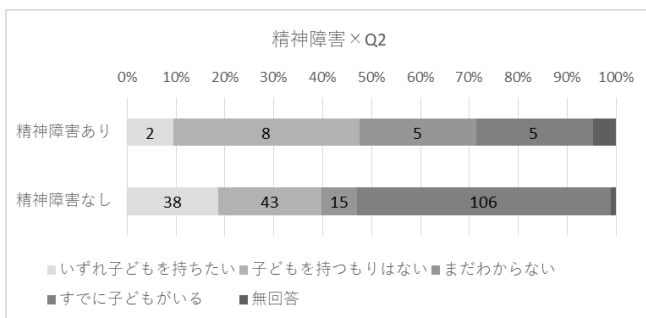
$\chi^2 = 10.1, d3=1, p<0.05$



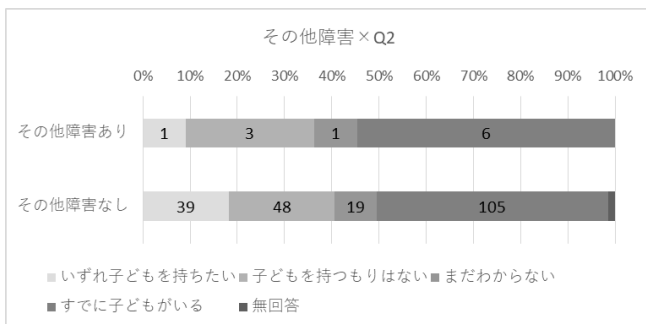
$\chi^2 = 5.5, d3=1, p<0.05$



n.s.

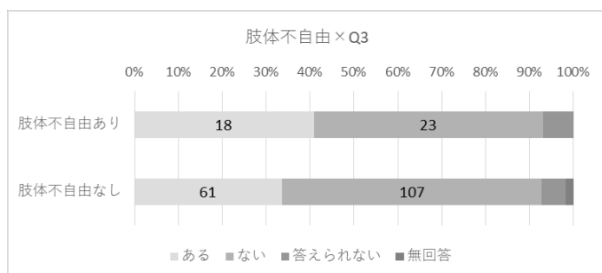


$\chi^2 = 12.5, d3=1, p<0.01$

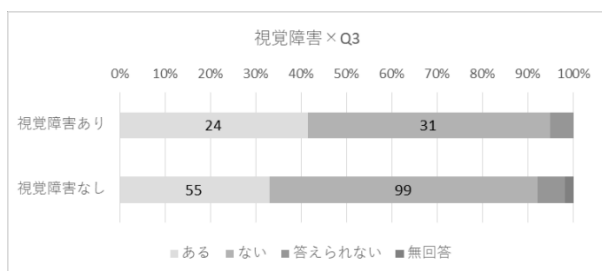


n.s.

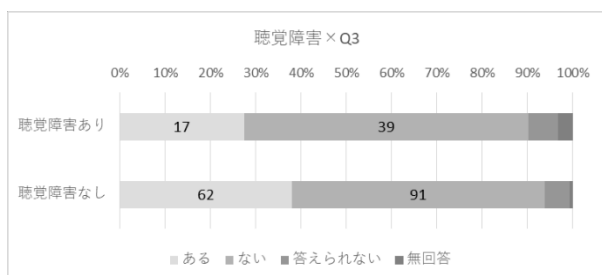
Q3_あなたは医学的な情報（本、ウェブサイトの記事、医療従事者の説明など）を参考に
して、子どもを持つかどうか考えたことはありますか。



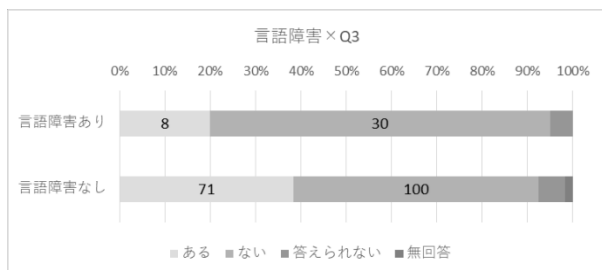
n.s.



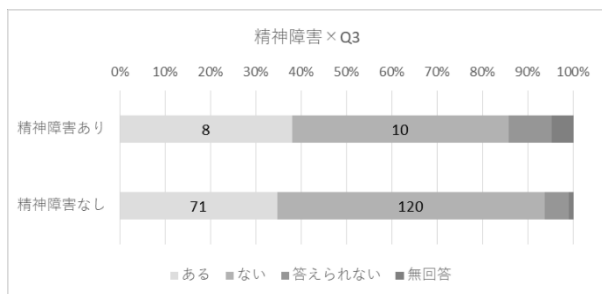
n.s.



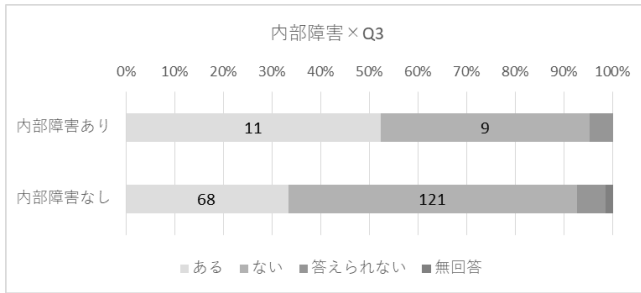
$\chi^2 = 5.5, df=1, p < 0.05$



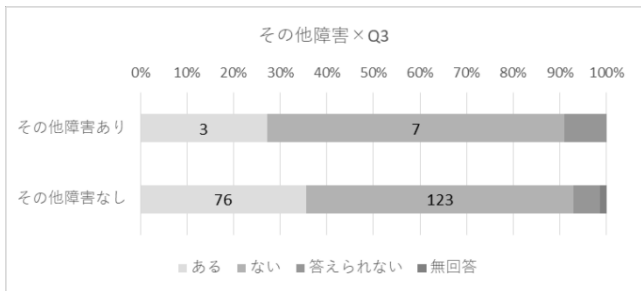
n.s.



n.s.

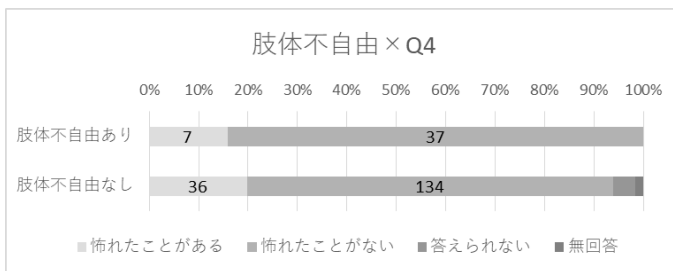


n.s.

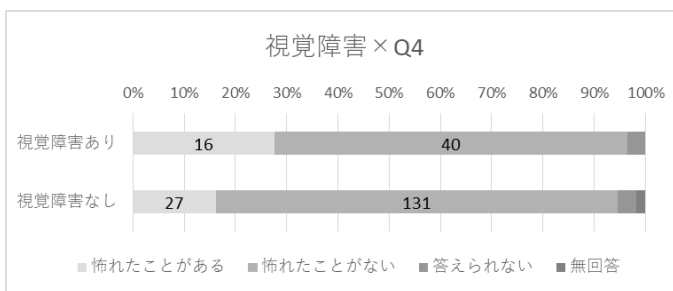


n.s.

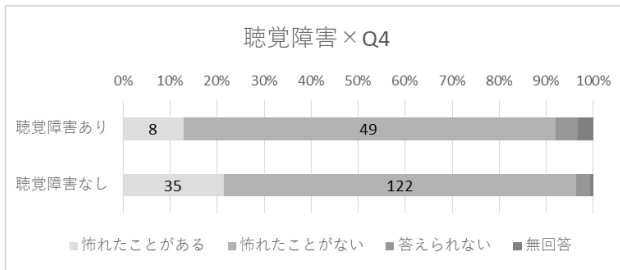
Q4_あなたは自分の子どもを持つことによって、「あなた自身の健康が悪化するのではないかと怖れたことはありますか。」



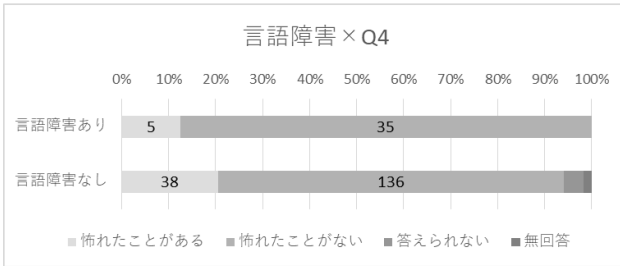
n.s.



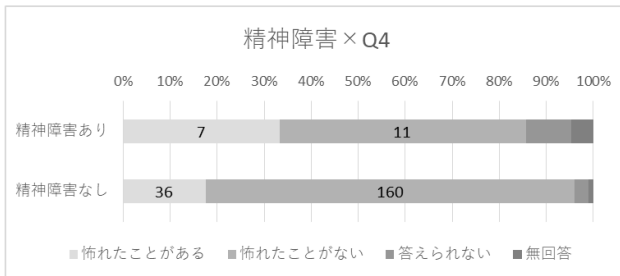
n.s.



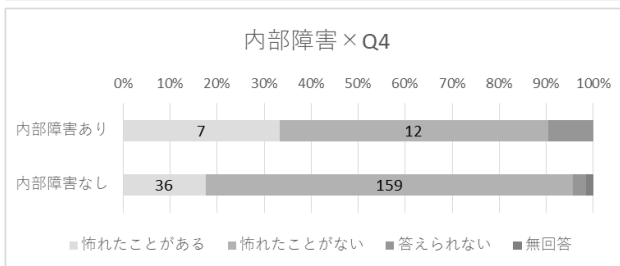
n.s.



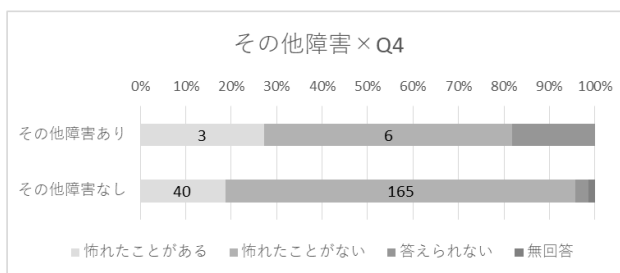
n.s.



$\chi^2 = 4.3, df=1, p<0.05$

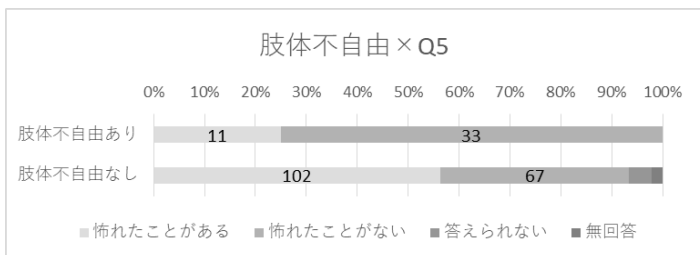


n.s.

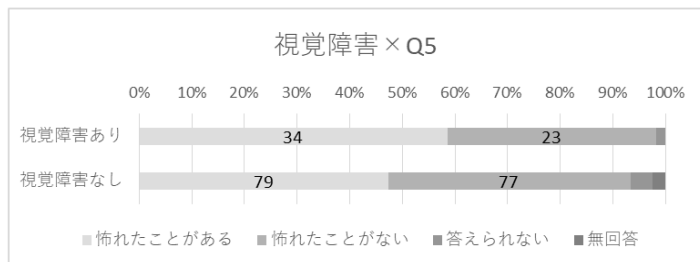


n.s.

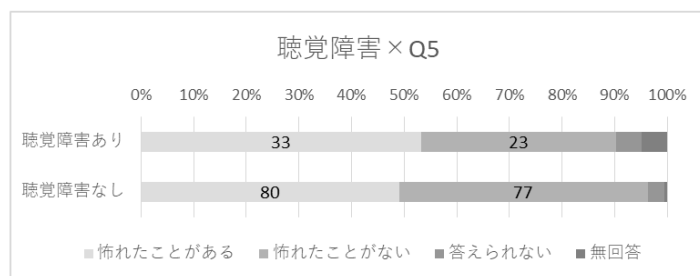
Q5_あなたは、「自分の障害が子どもに遺伝するのではないか」と怖れたことはありますか。



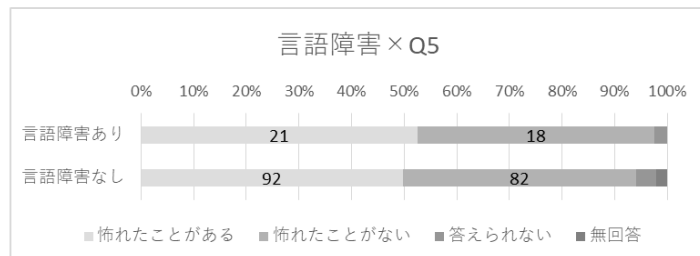
$\chi^2 = 17.5, df=1, p<0.001$



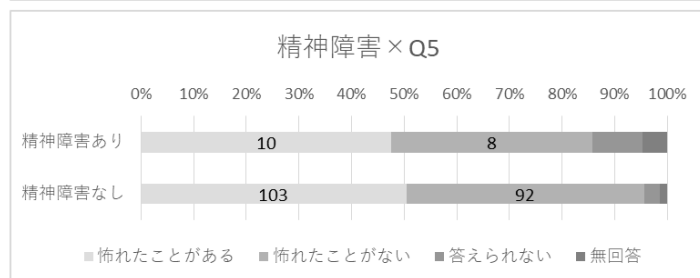
n.s.



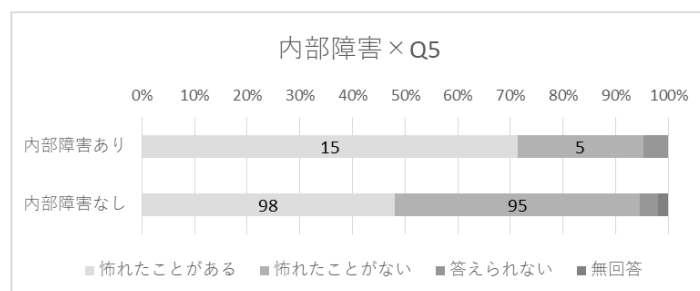
n.s.



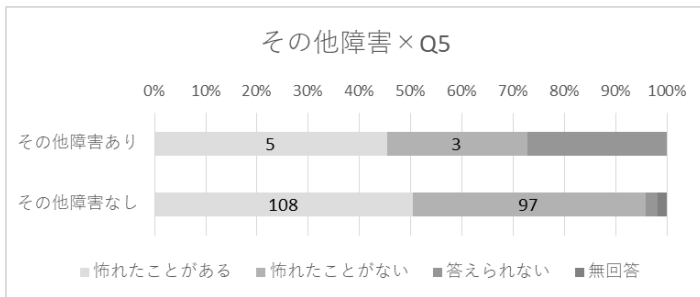
n.s.



n.s.

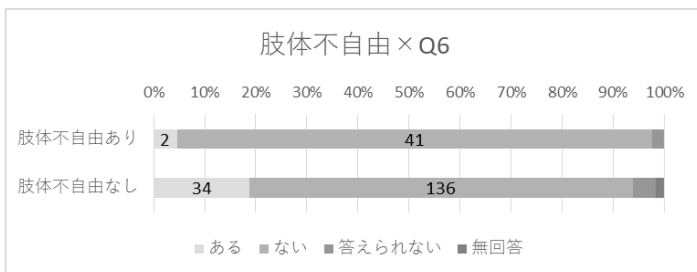


$\chi^2 = 4.3, df=1, p<0.05$

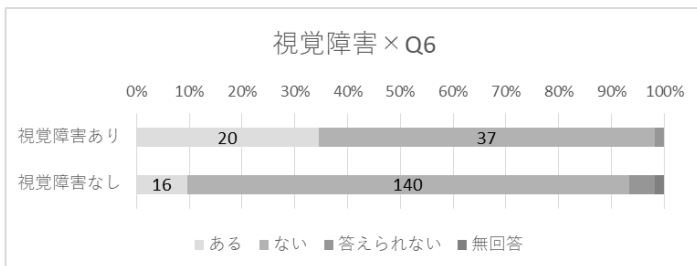


n.s.

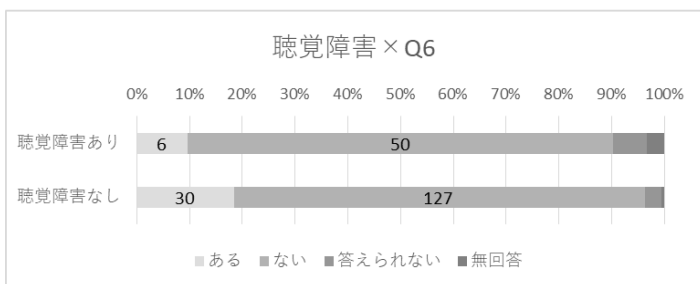
Q6_正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことはありますか。



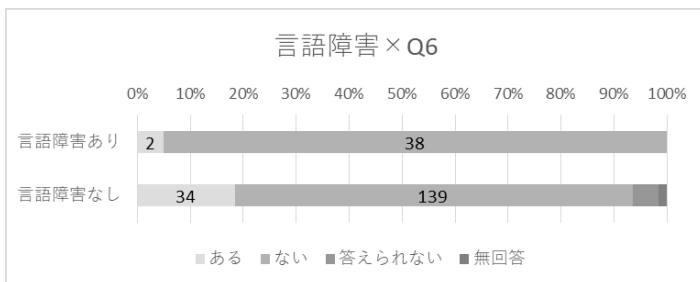
$\chi^2 = 5.8, df=1, p<0.05$



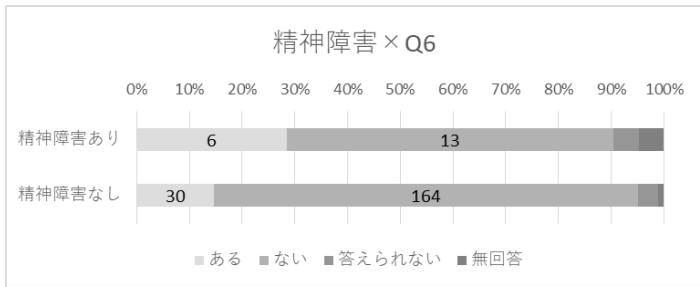
$\chi^2 = 18.3, df=1, p<0.001$



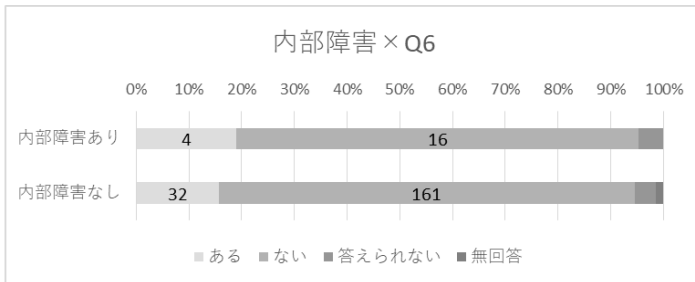
n.s.



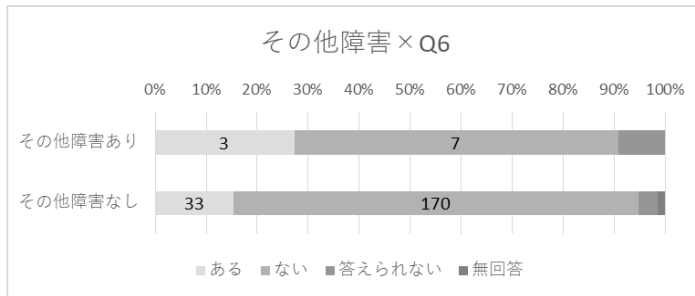
$\chi^2 = 5.0, df=1, p<0.05$



n.s.



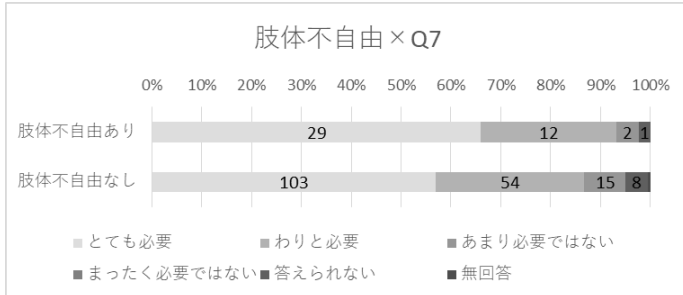
n.s.



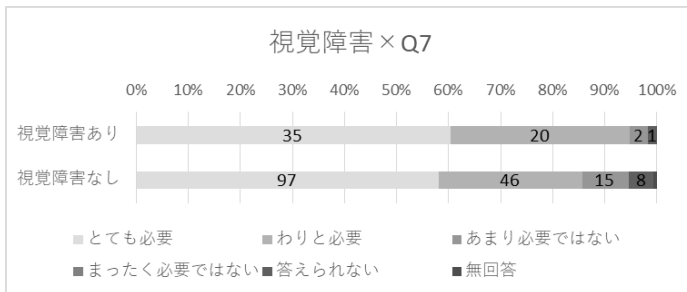
n.s.

5 - 2. 育児協力者と障害種別の関係

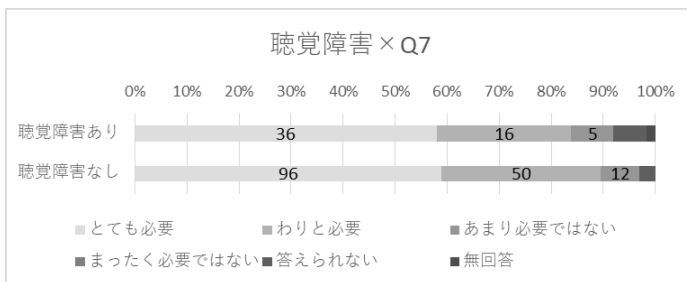
Q7_障害者が育児するとき、「家族」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



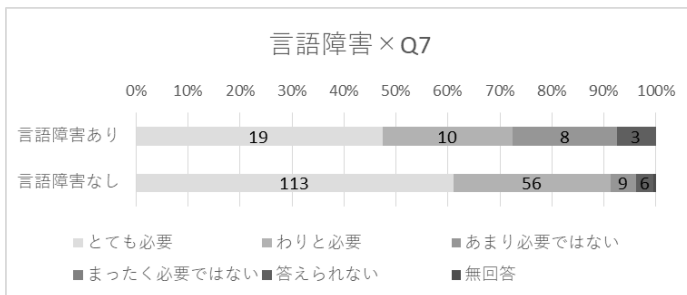
n.s.



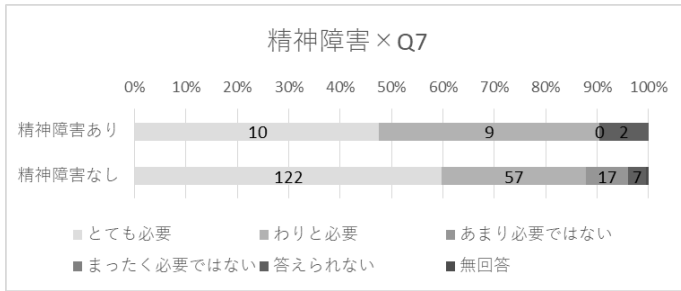
n.s.



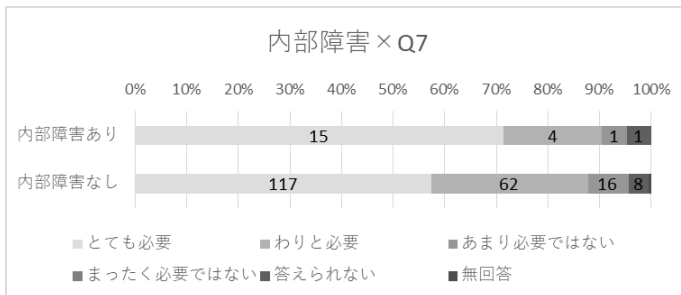
n.s.



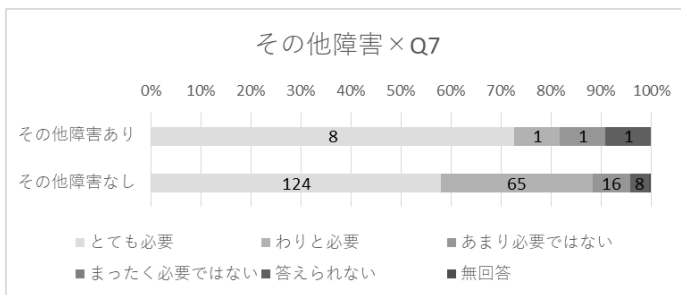
$\chi^2 = 11.6, df=2, p<0.01$



n.s.

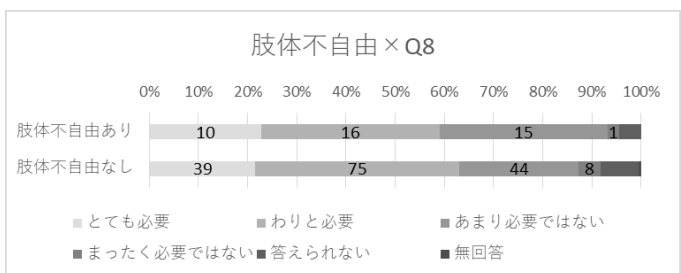


n.s.

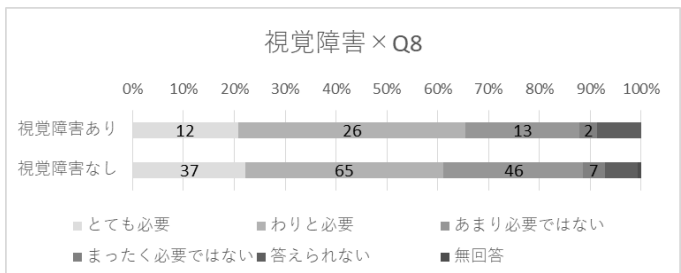


n.s.

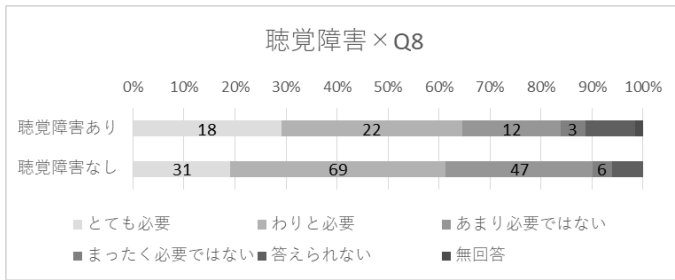
Q8_障害者が育児するとき、「友人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



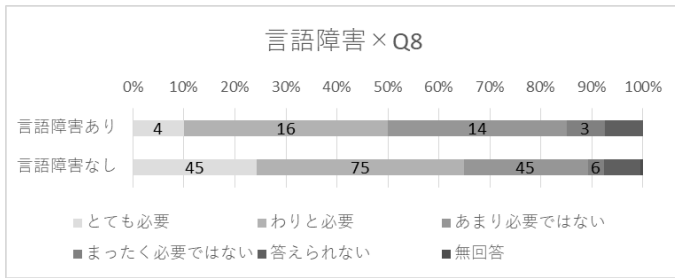
n.s.



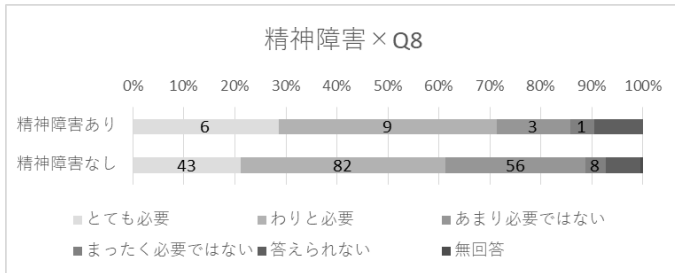
n.s.



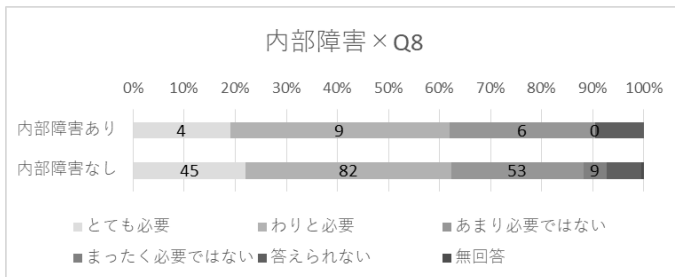
n.s.



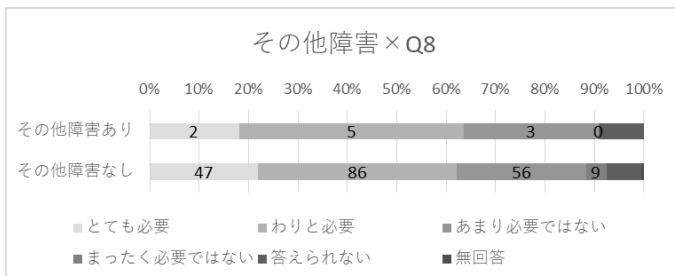
n.s.



n.s.

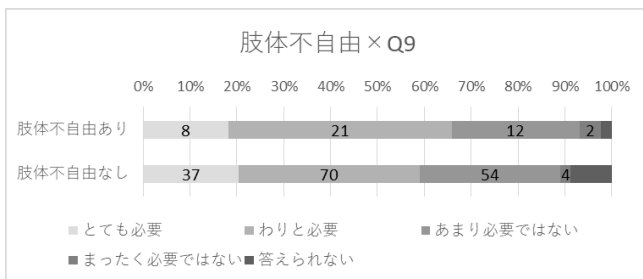


n.s.

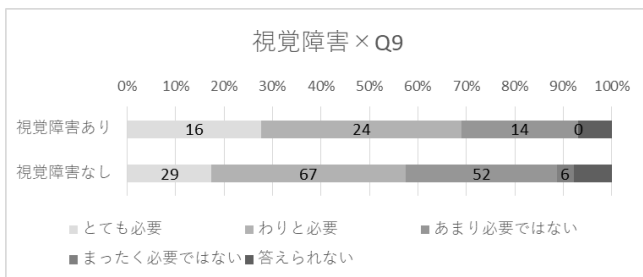


n.s.

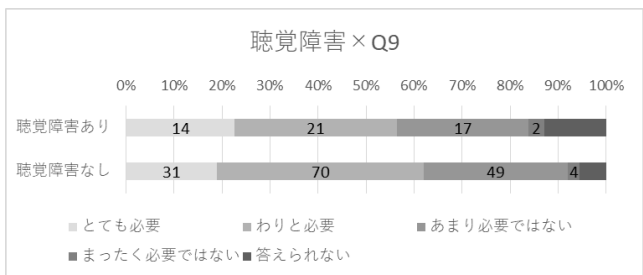
Q9_障害者が育児するとき、「近隣住民」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



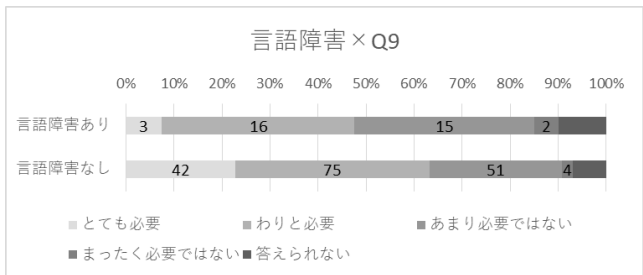
n.s.



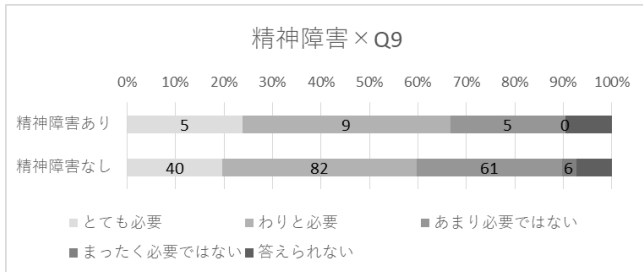
n.s.



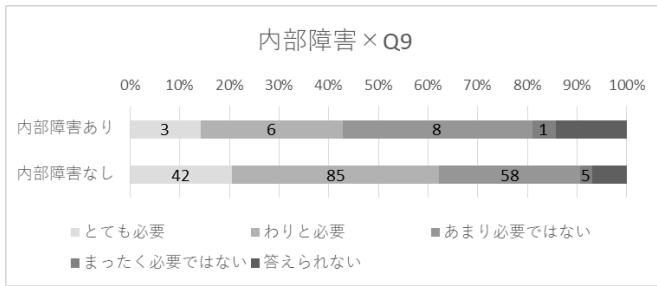
n.s.



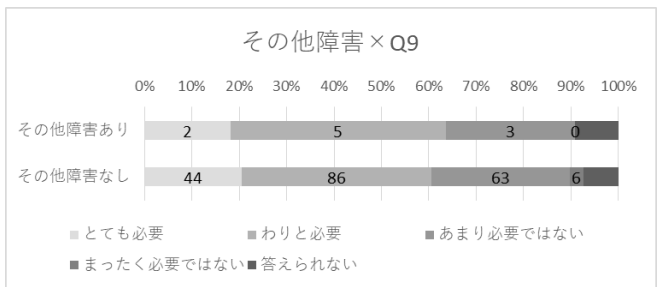
n.s.



n.s.

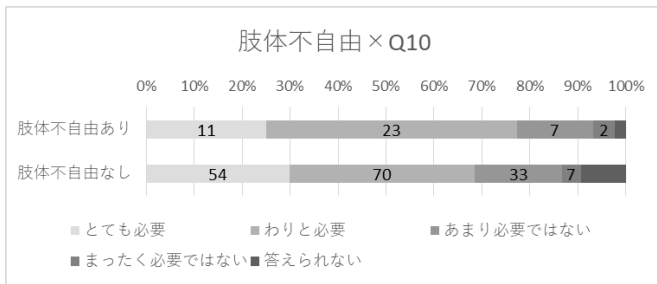


n.s.

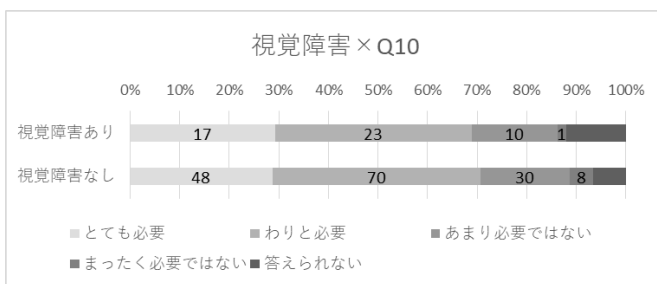


n.s.

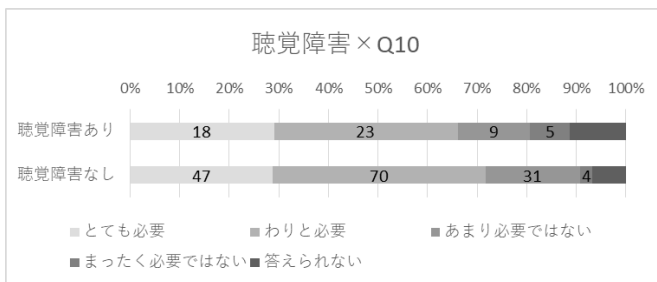
Q10_障害者が育児するとき、「職場の人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



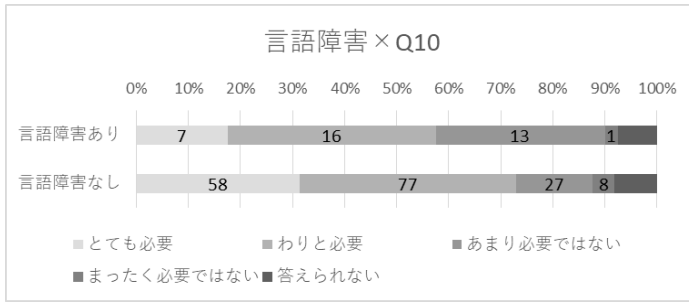
n.s.



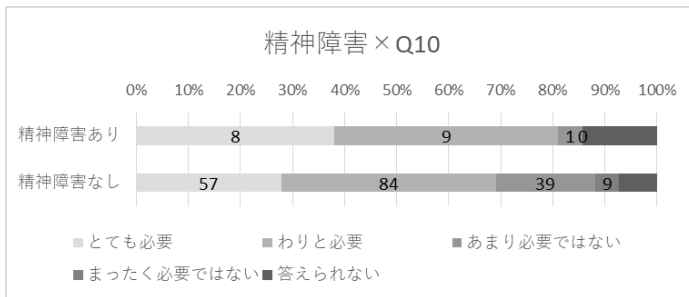
n.s.



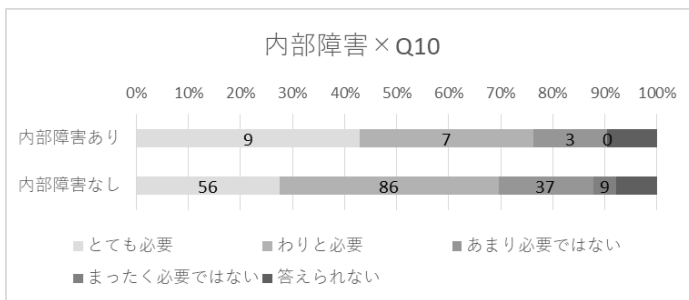
n.s.



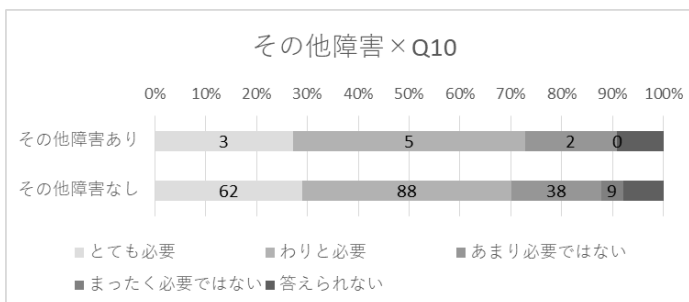
$\chi^2 = 8.4, df=3, p<0.05$



n.s.

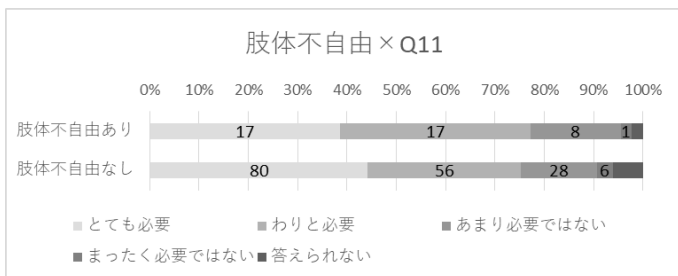


n.s.

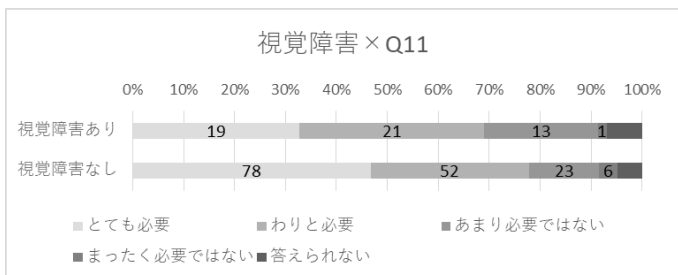


n.s.

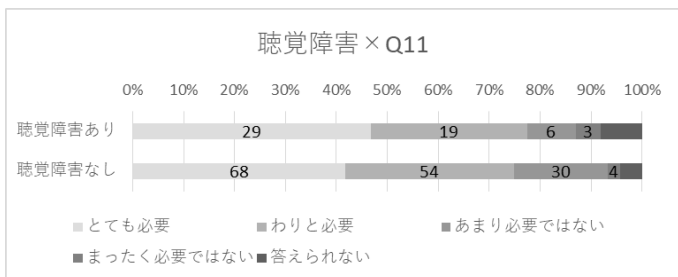
Q11_障害者が育児するとき、「医療従事者（つまり、医師、看護師、保健師、薬剤師、理学療法士など）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



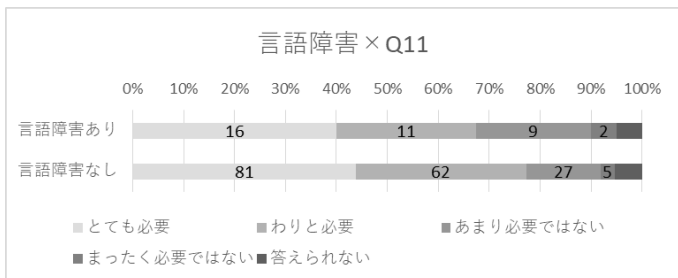
n.s.



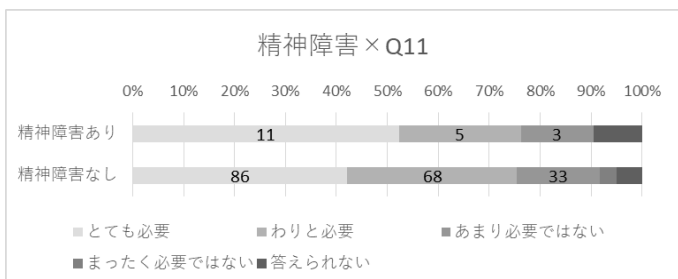
n.s.



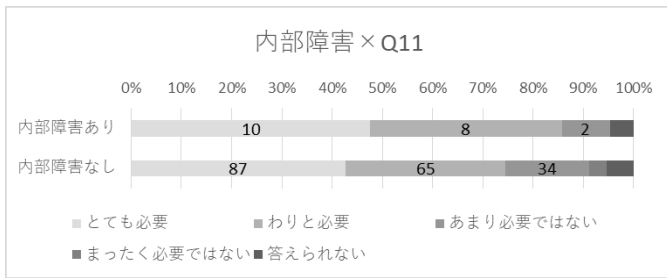
n.s.



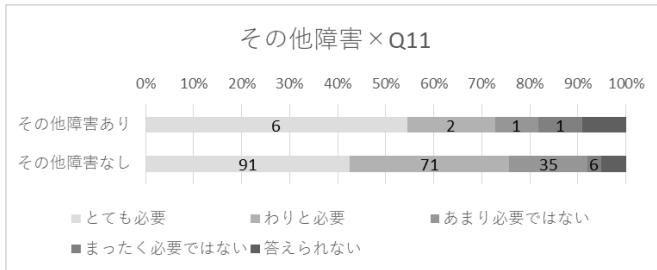
n.s.



n.s.

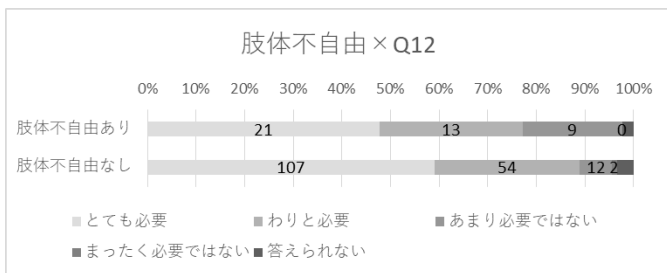


n.s.

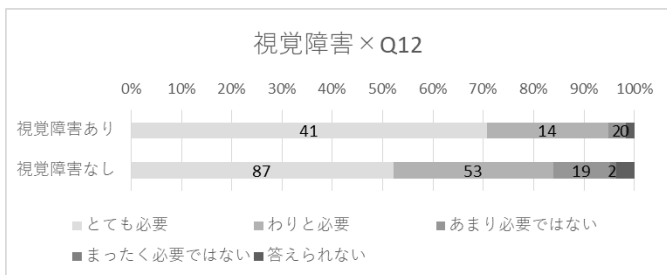


n.s.

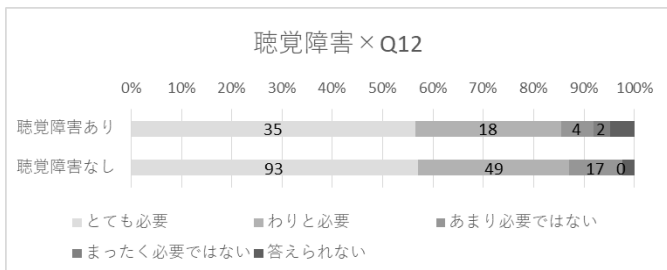
Q12_障害者が育児するとき、「教育関係者（つまり、保育園や小中学校などの教職員）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



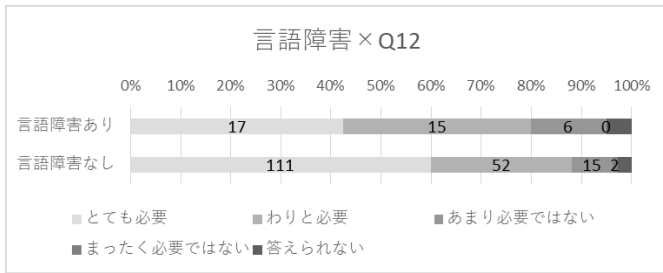
n.s.



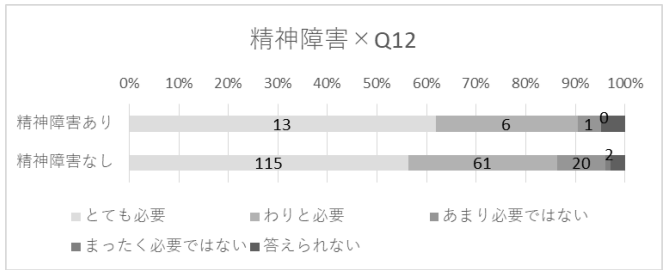
n.s.



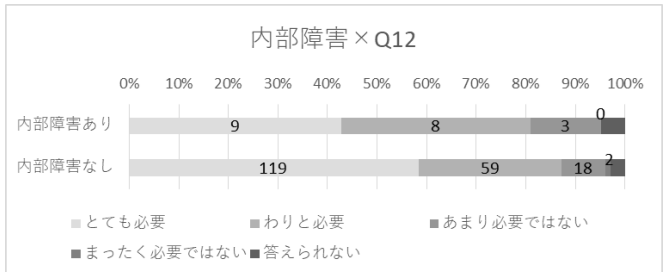
n.s.



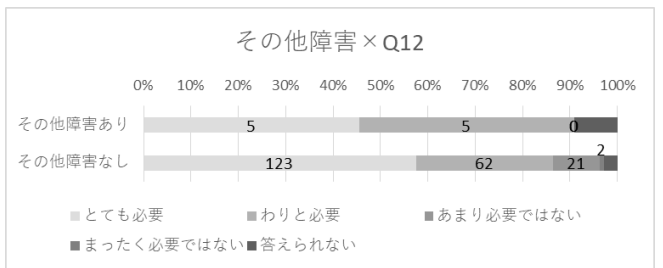
n.s.



n.s.

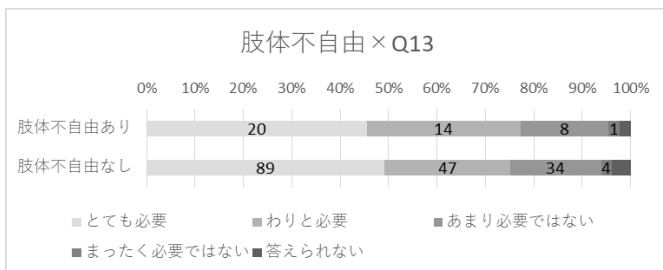


n.s.

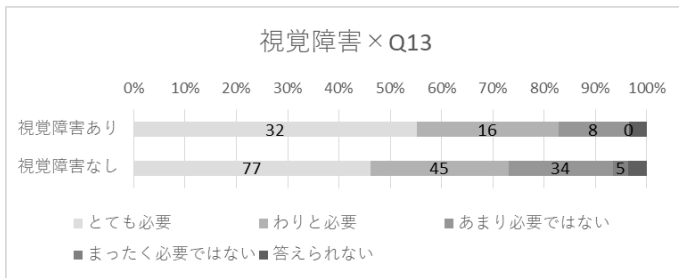


n.s.

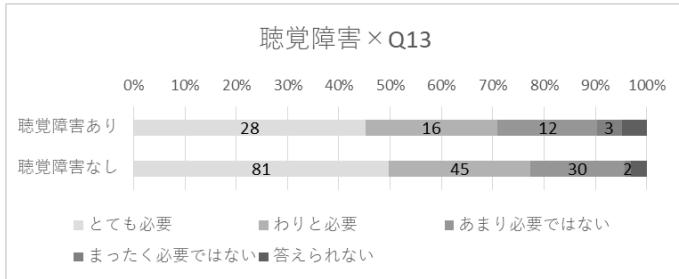
Q13_障害者が育児するとき、「福祉支援者（つまり、ヘルパー、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなど）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



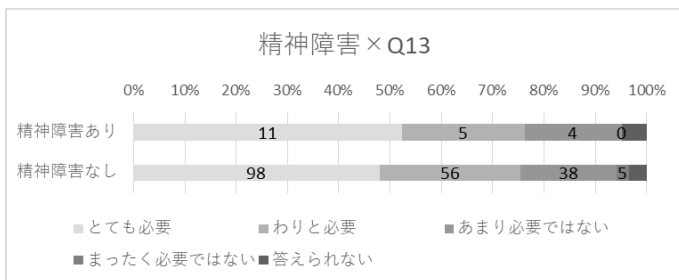
n.s.



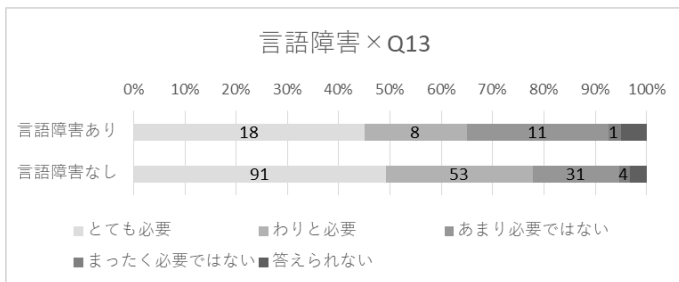
n.s.



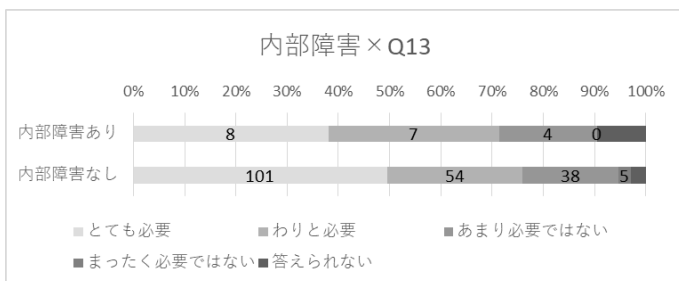
n.s.



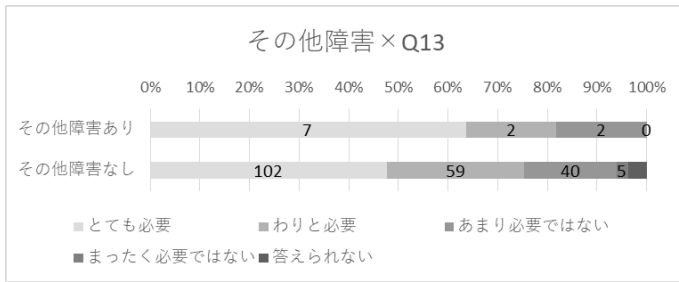
n.s.



n.s.

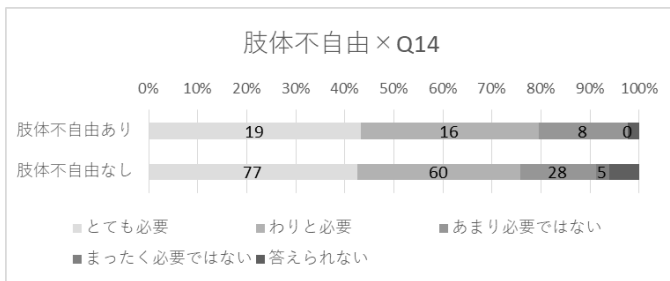


n.s.

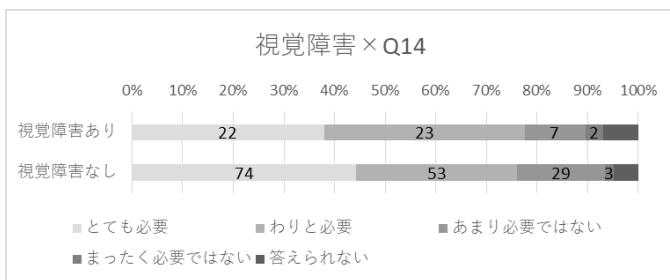


n.s.

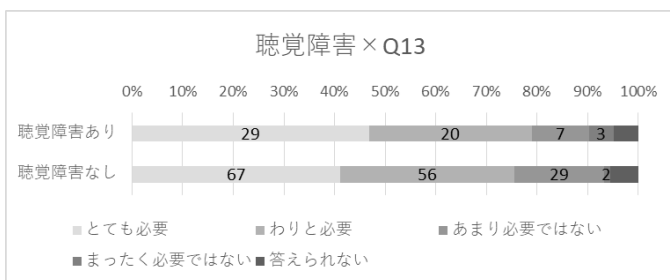
Q14_障害者が育児するとき、「福祉行政に携わる地域窓口（つまり、市区町村の保健福祉課など）の担当者」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



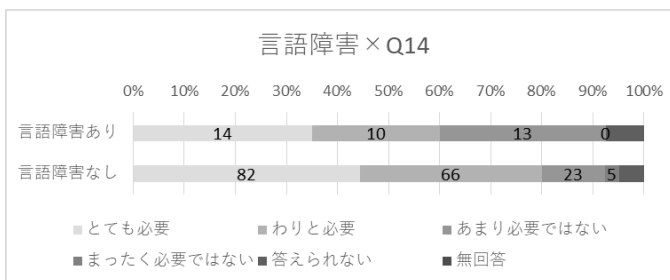
n.s.



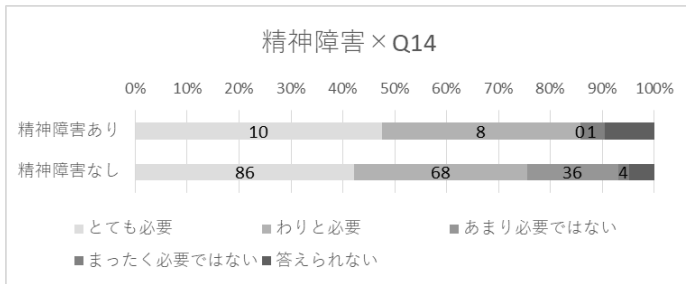
n.s.



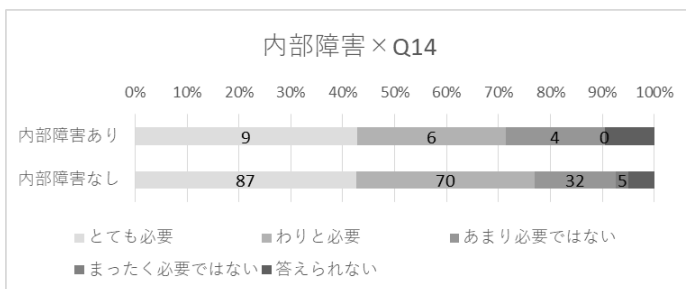
n.s.



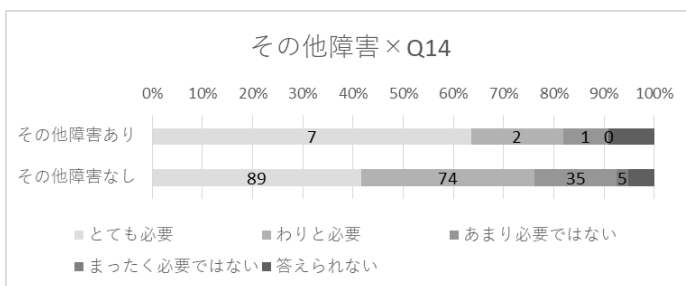
n.s.



n.s.

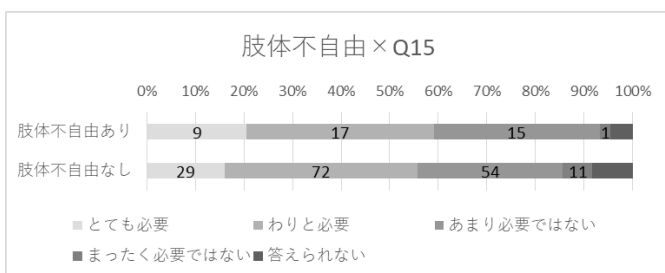


n.s.

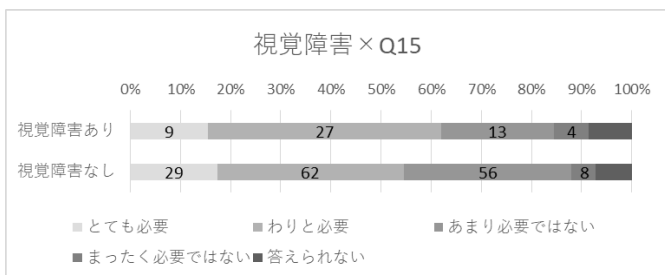


n.s.

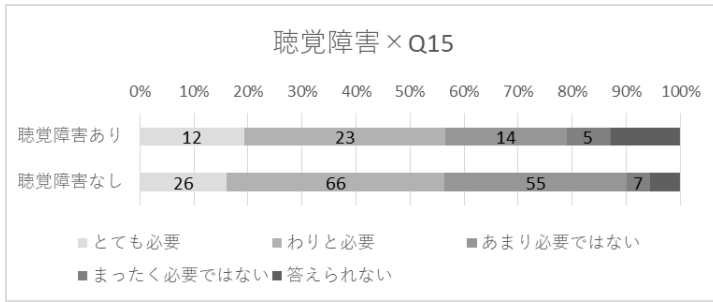
Q15_障害者が育児するとき、「近くに偶然居合わせた人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



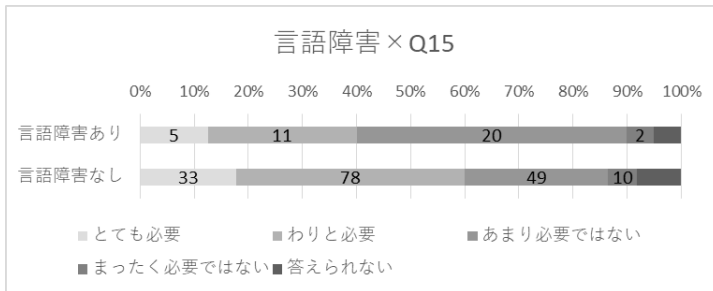
n.s.



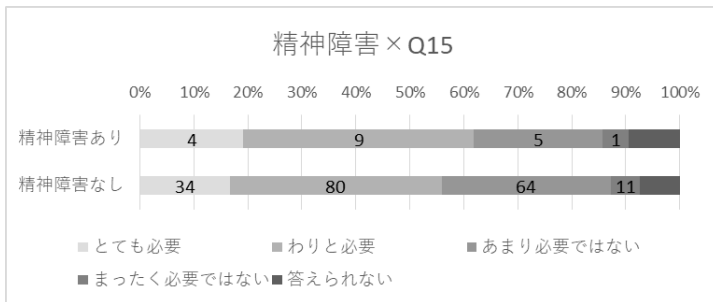
n.s.



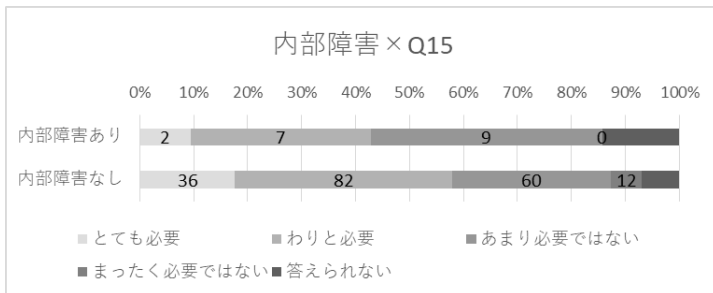
n.s.



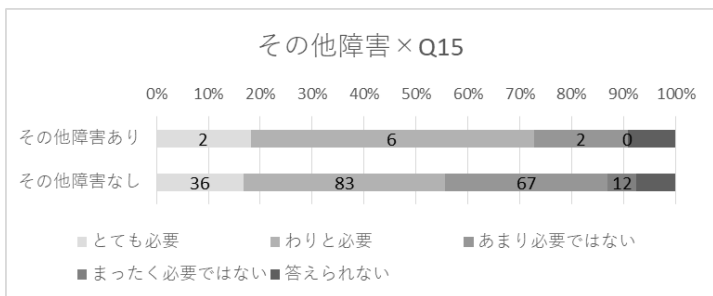
n.s.



n.s.

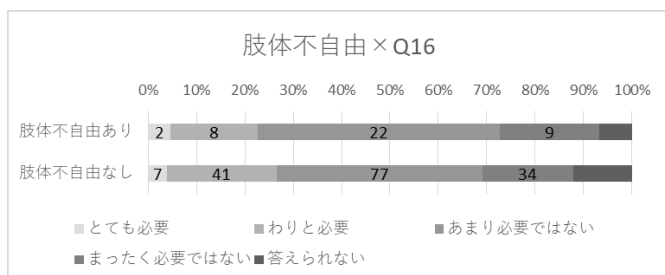


n.s.

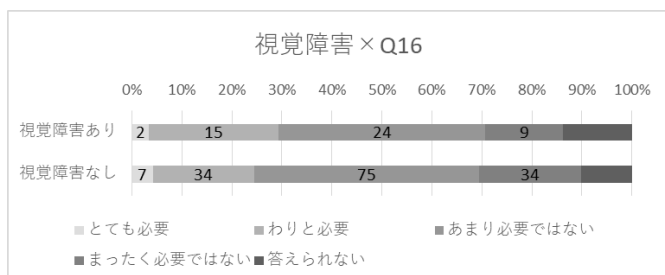


n.s.

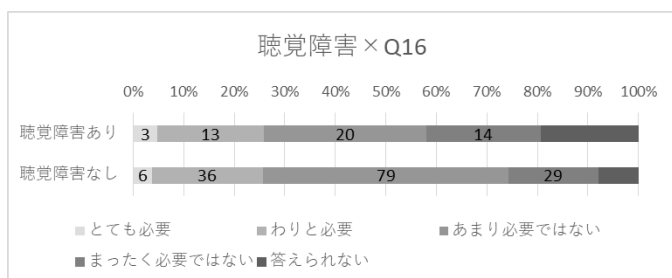
Q16_障害者が育児するとき、「インターネットを介して知り合った人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



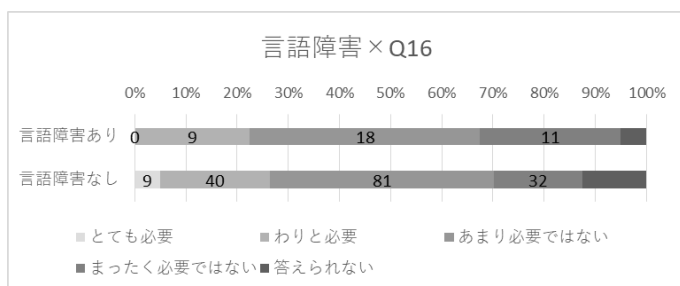
n.s.



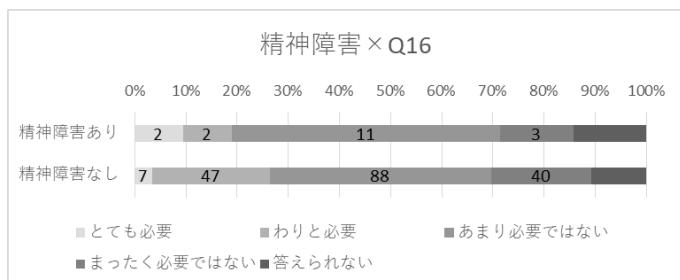
n.s.



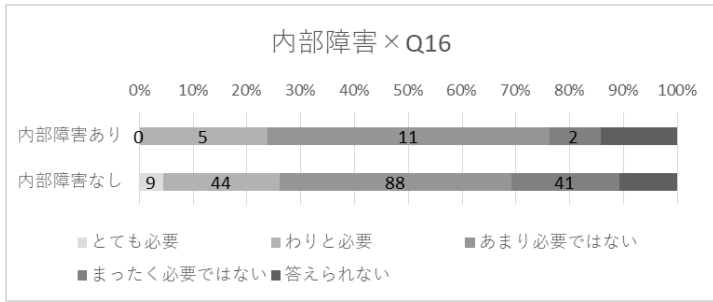
n.s.



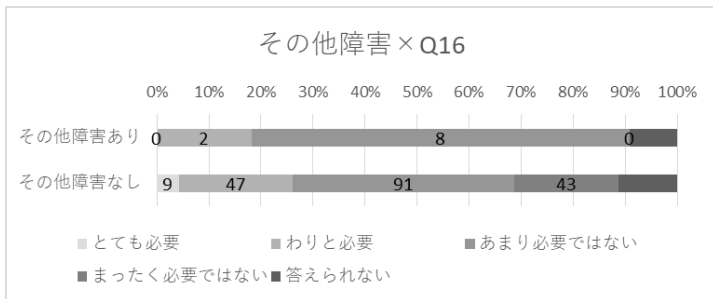
n.s.



n.s.

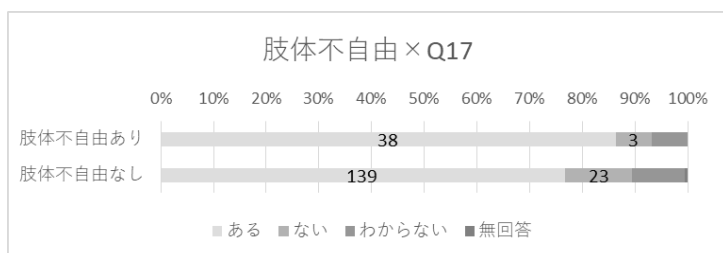


n.s.

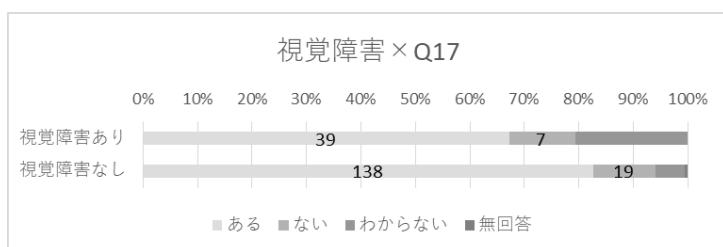


n.s

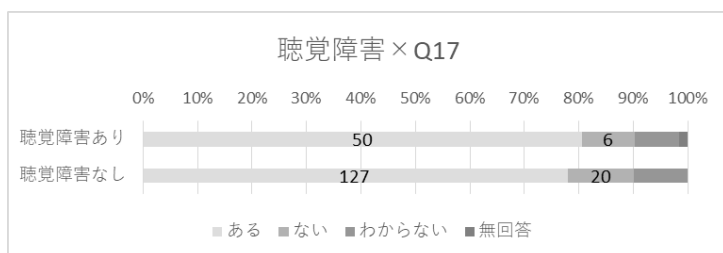
Q17_あなたは障害の「種類」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことがありますか。



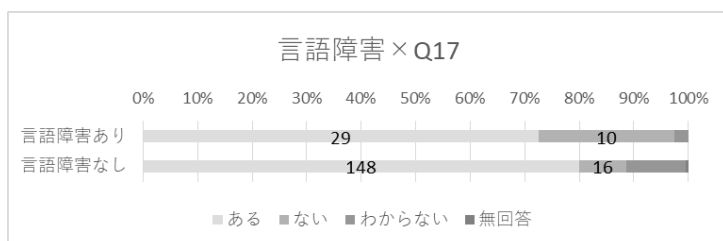
n.s.



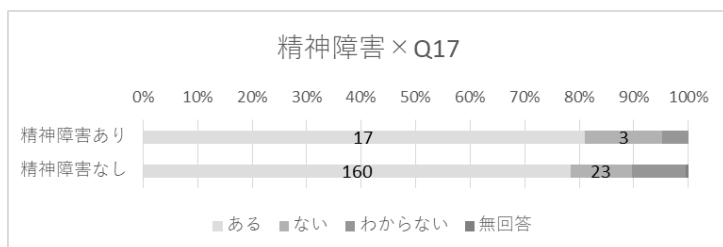
$\chi^2 = 12.1, df=2, p<0.01$



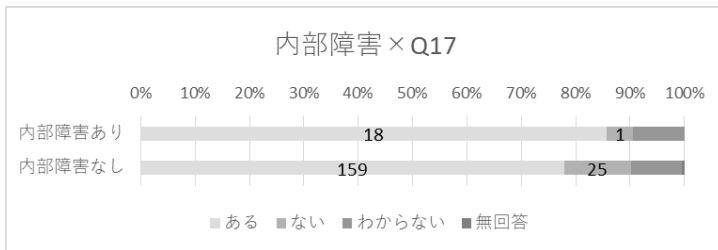
n.s.



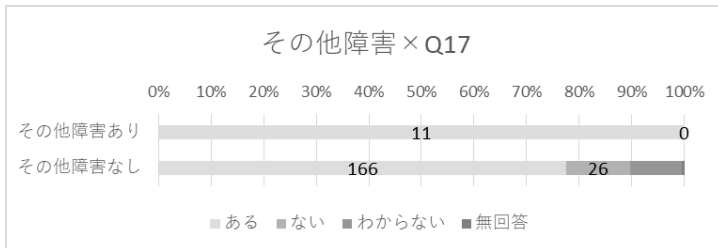
$\chi^2 = 10.2, df=1, p<0.01$



n.s.

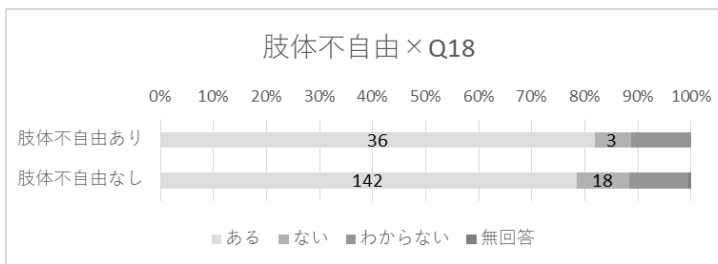


n.s.

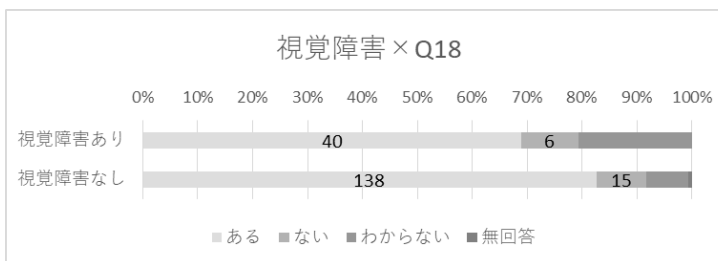


n.s.

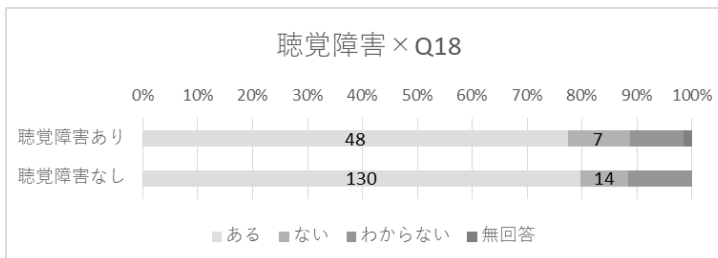
Q18_あなたは障害の「程度」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことはありますか。



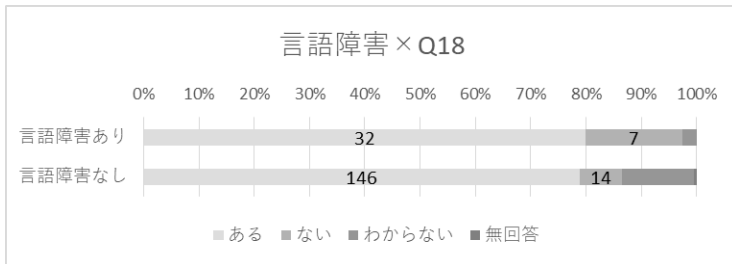
n.s.



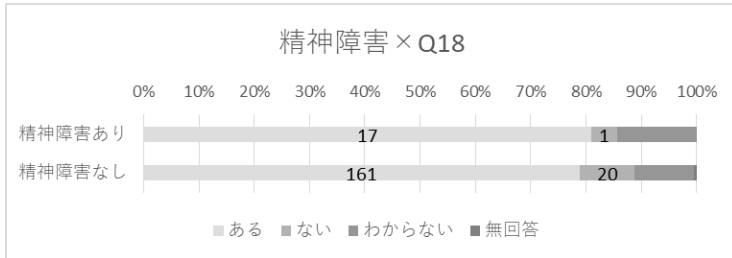
$\chi^2 = 7.5, df=2, p<0.05$



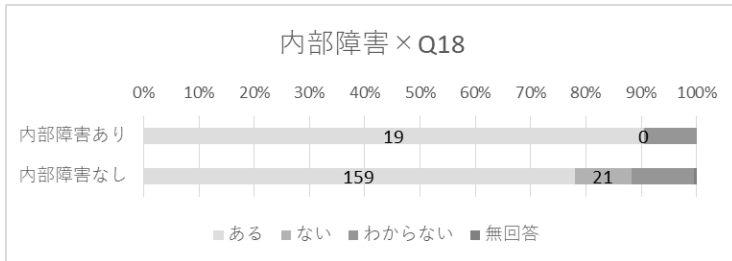
n.s.



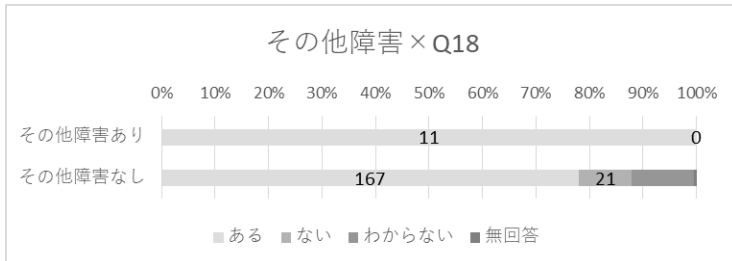
n.s.



n.s.



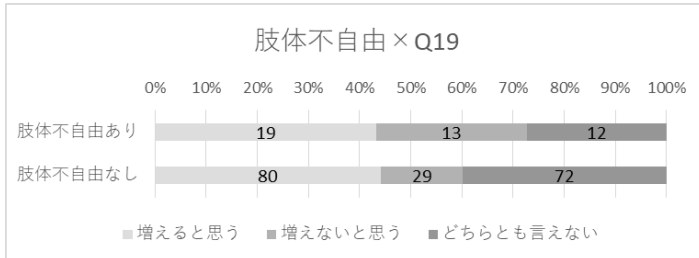
n.s.



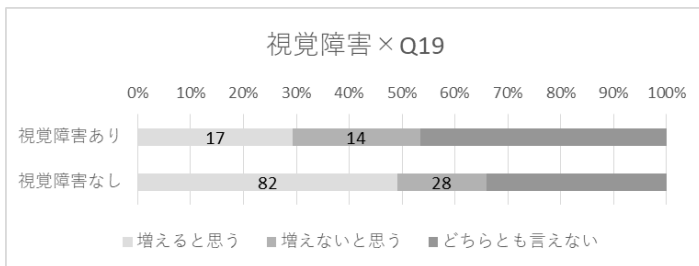
n.s.

5 - 3. 社会資源と障害種別の関係

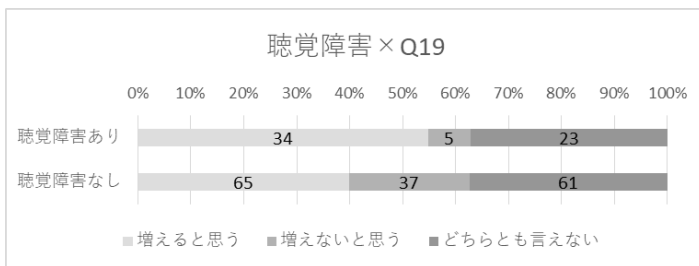
Q19_あなたはバリアフリーが進めば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



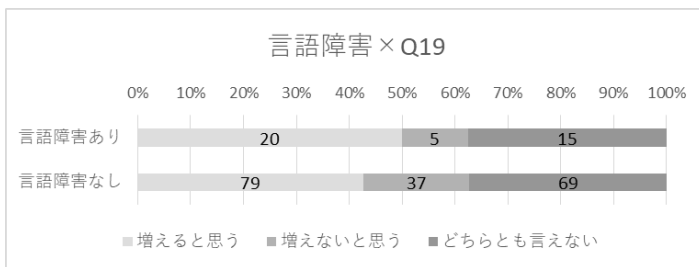
n.s.



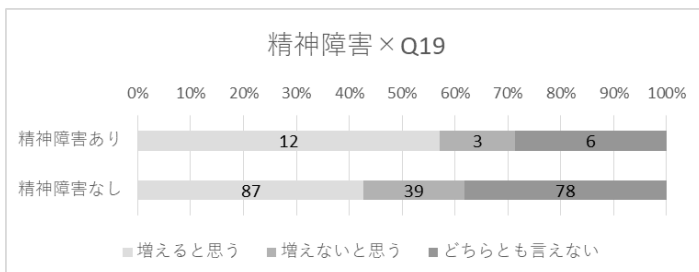
$\chi^2 = 6.9, df=2, p<0.05$



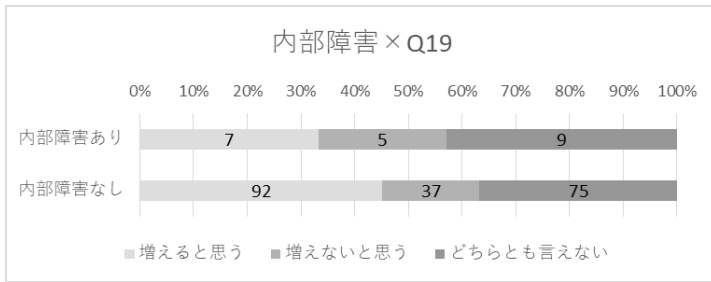
$\chi^2 = 7.4, df=2, p<0.05$



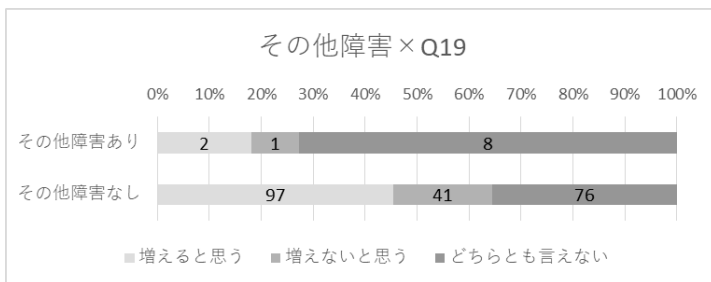
n.s.



n.s.

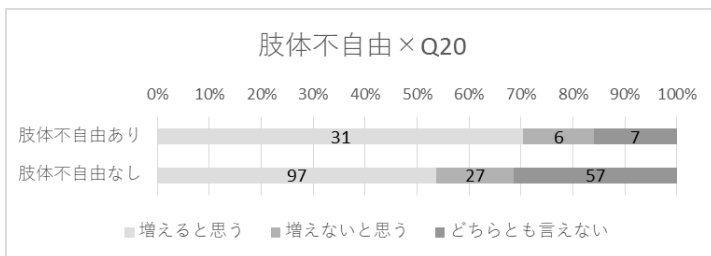


n.s.

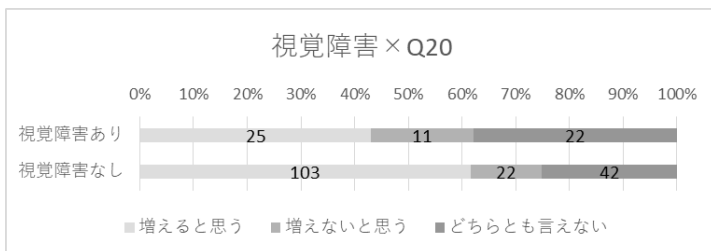


n.s.

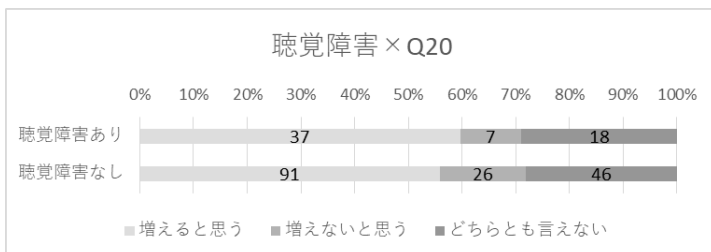
Q20_あなたは障害者雇用が促進すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



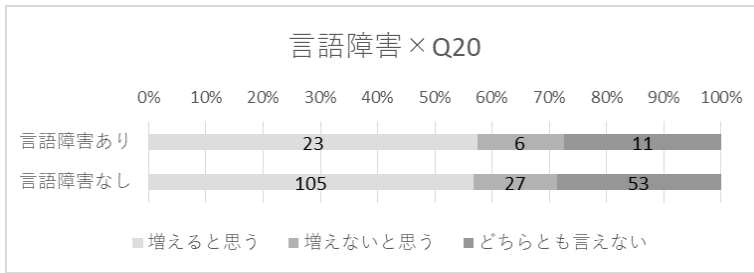
n.s.



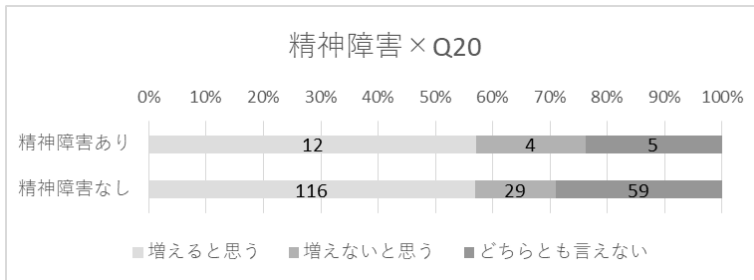
$\chi^2 = 6.1, df=2, p<0.05$



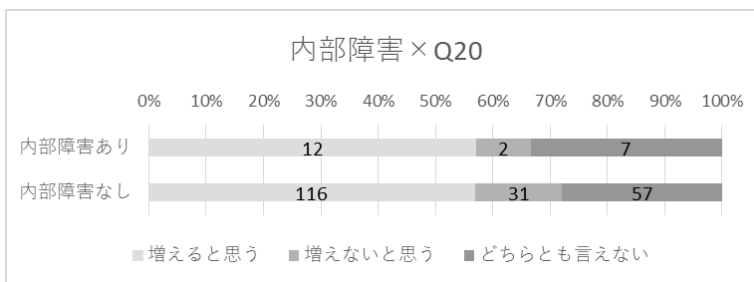
n.s.



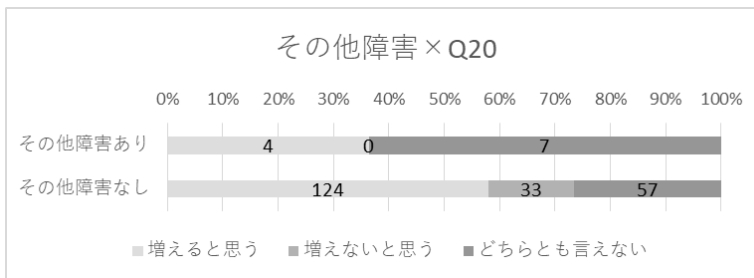
n.s.



n.s.

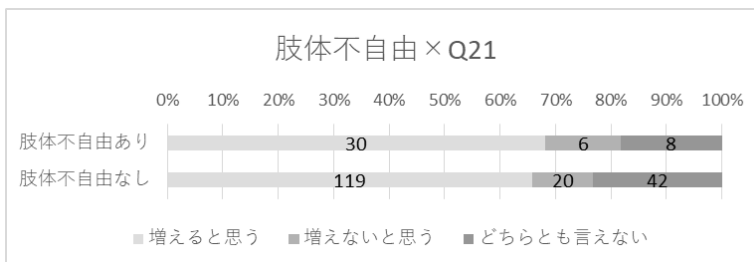


n.s.

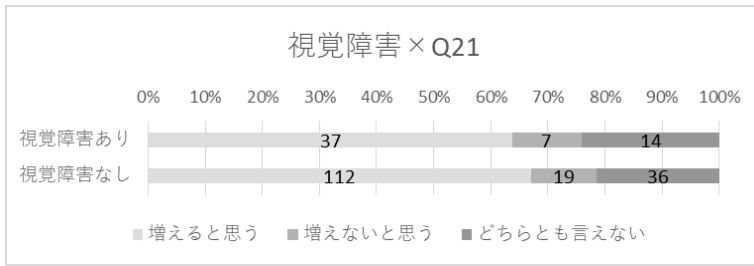


n.s.

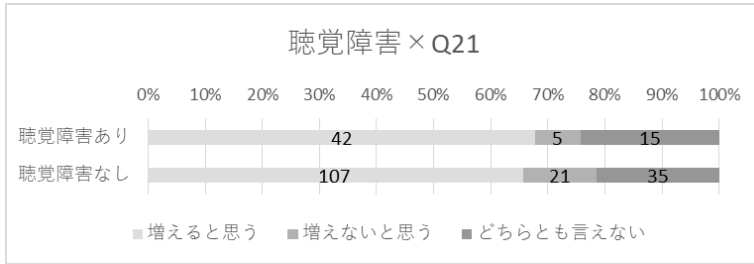
Q21_あなたは障害者福祉が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



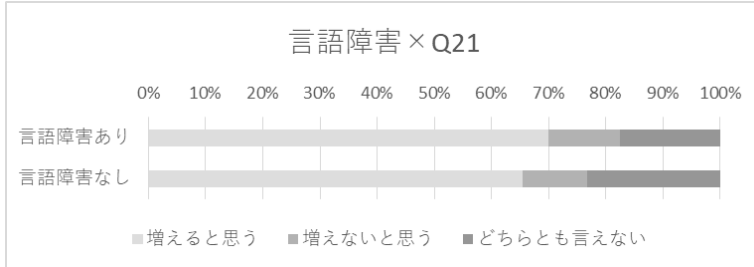
n.s.



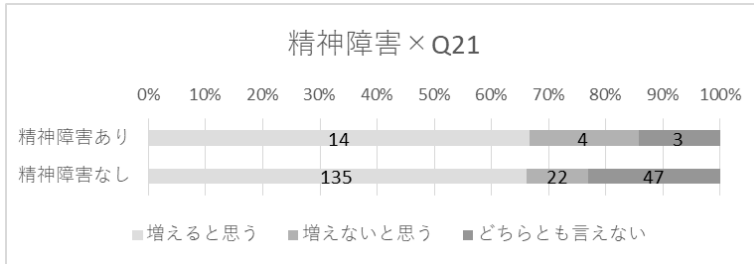
n.s.



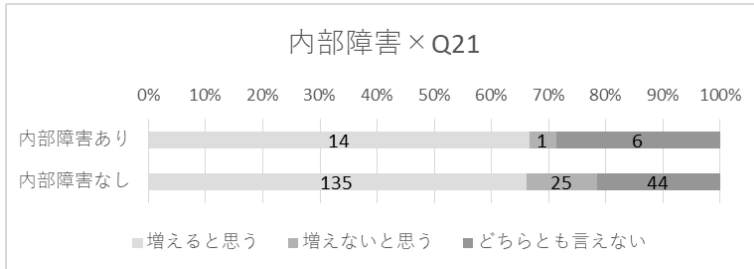
n.s.



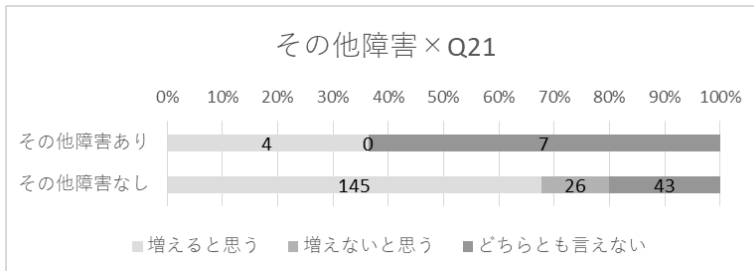
n.s.



n.s.

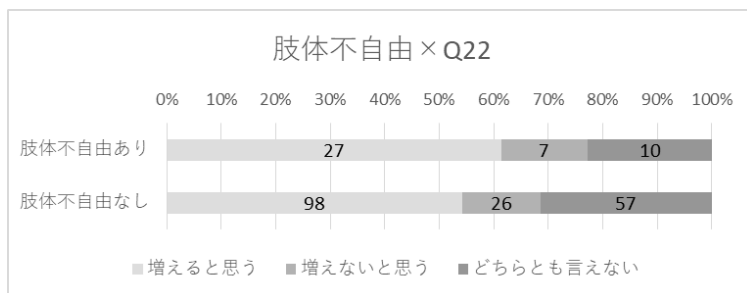


n.s.

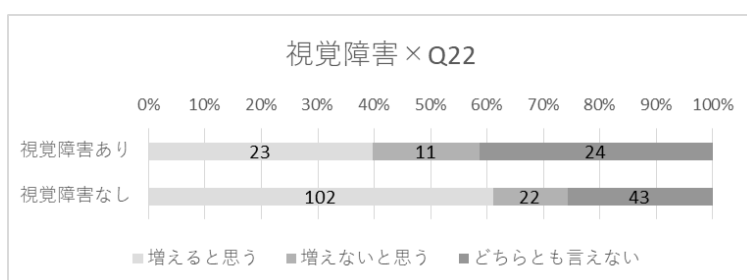


n.s.

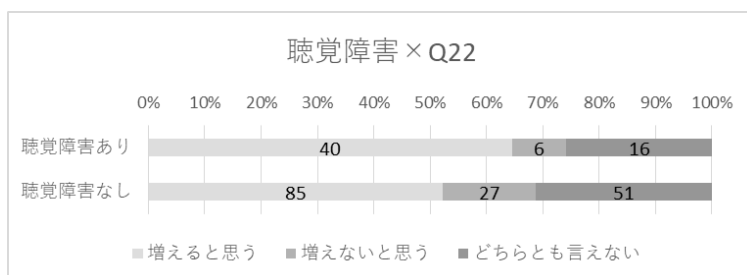
Q22_あなたは医療制度が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



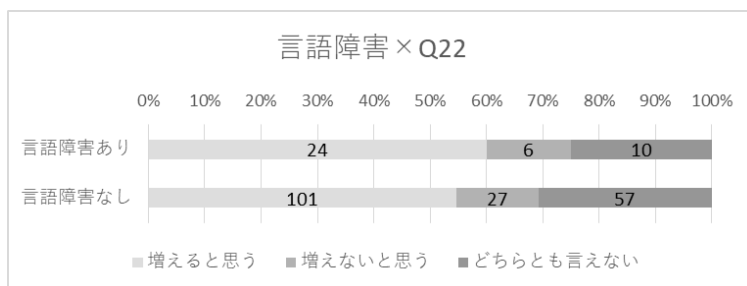
n.s.



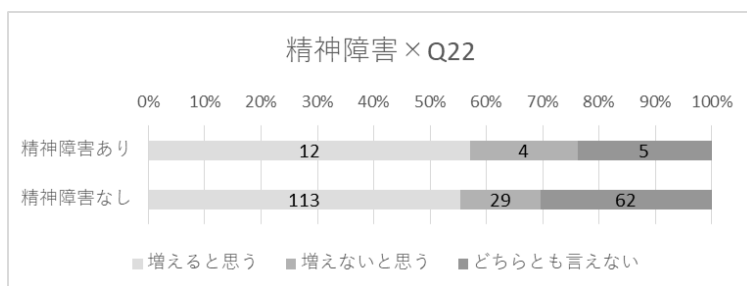
$\chi^2 = 8.1, df=2, p<0.05$



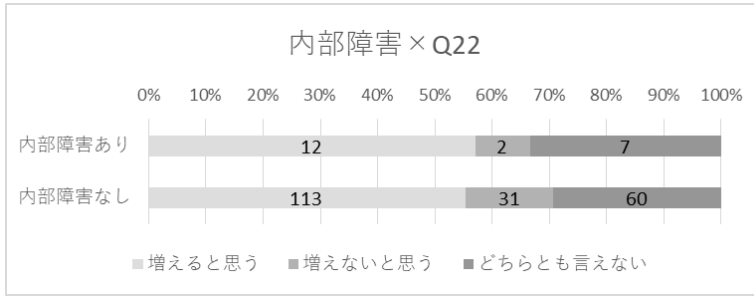
n.s.



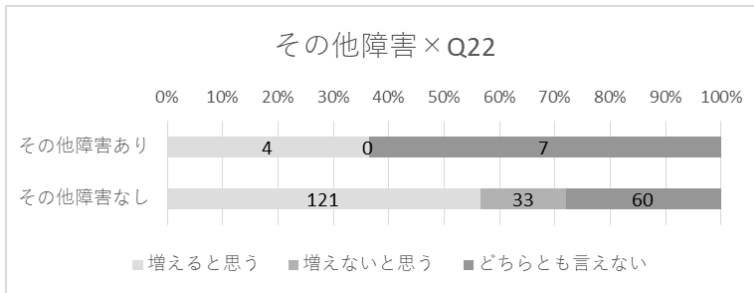
n.s.



n.s.

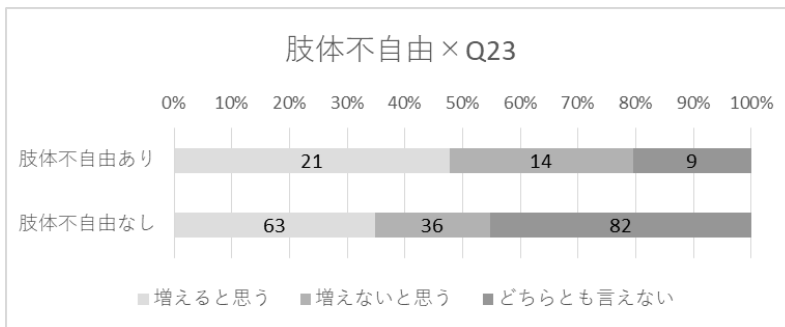


n.s.

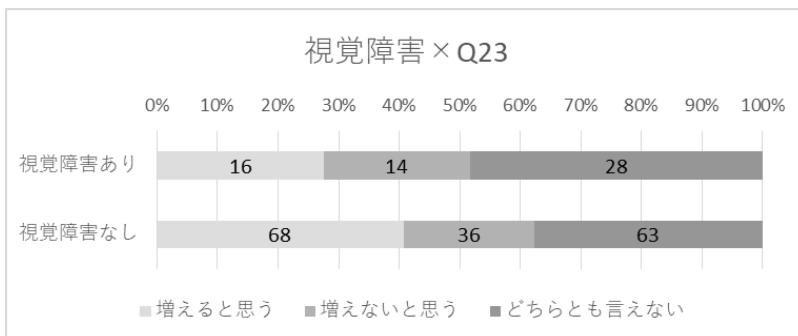


n.s.

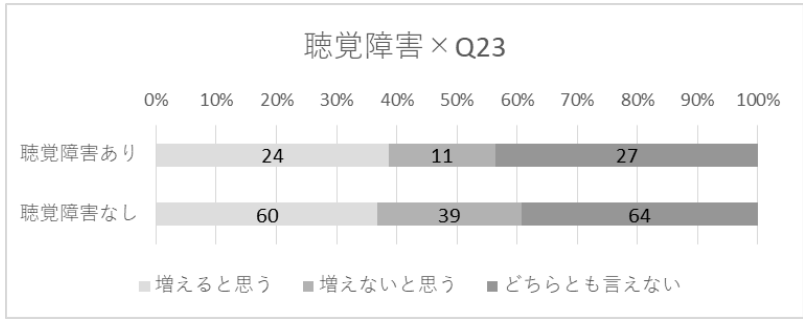
Q23_あなたは統合教育（つまり、障害児と健常児と一緒に教育を受けること）が普及すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



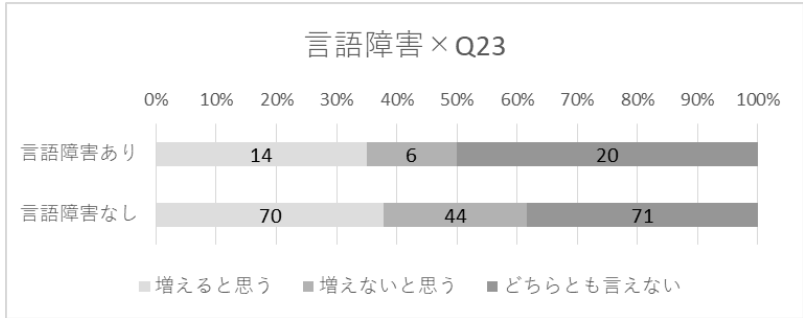
$\chi^2 = 9.3, df=2, p < 0.01$



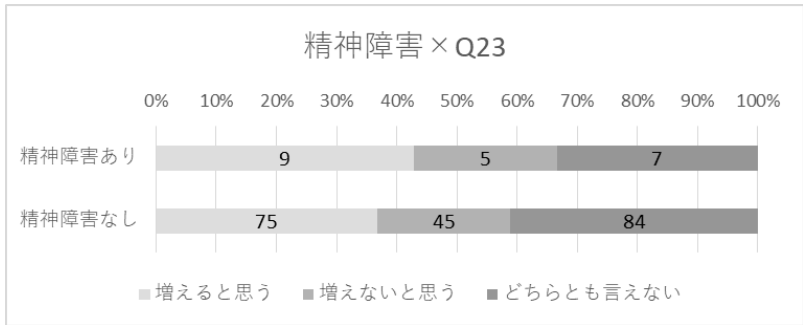
n.s.



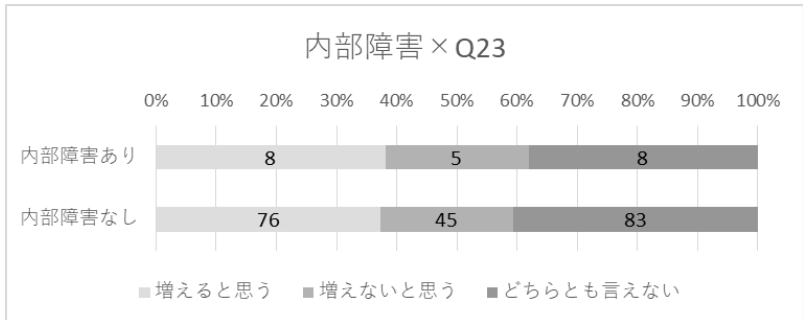
n.s.



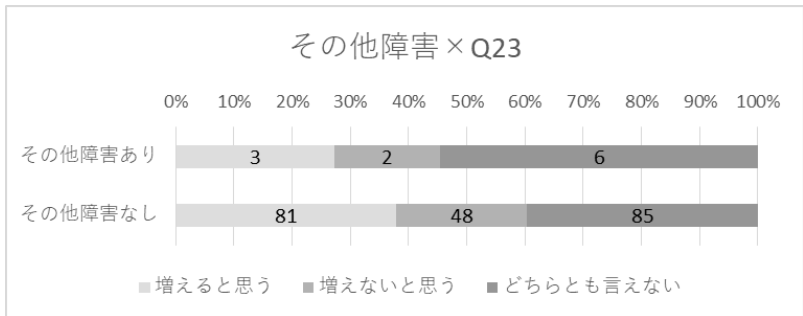
n.s.



n.s.

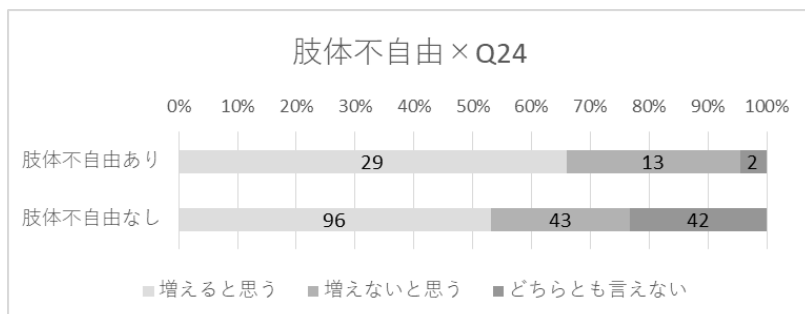


n.s.

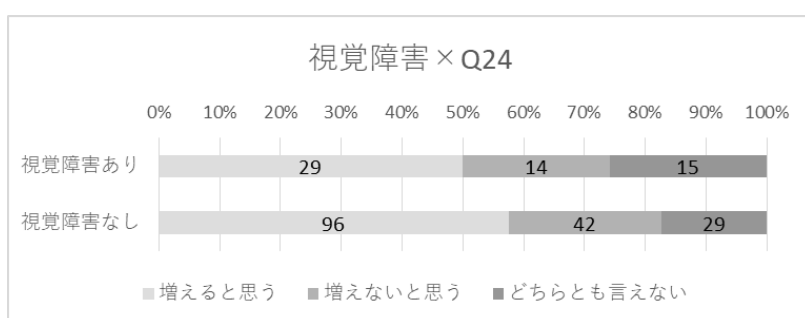


n.s.

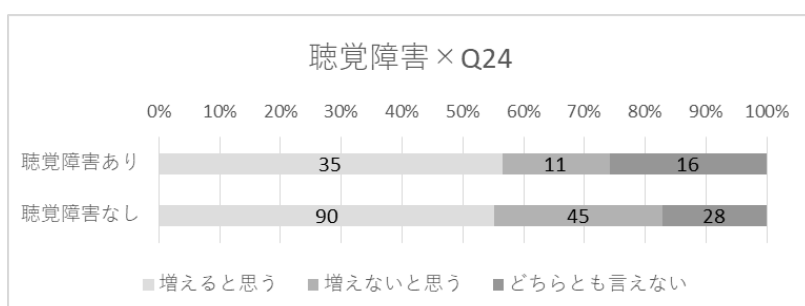
Q24_あなたは、障害者の性と生殖に関する権利（つまり、性と子どもを産むことに関する障害者個人の自由と権利）が守られるようになれば、子どもをもつ障害者が増えると思いますか。



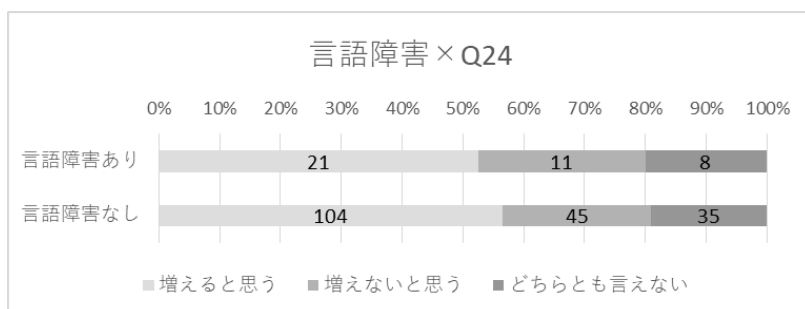
$\chi^2 = 7.8, df=2, p<0.05$



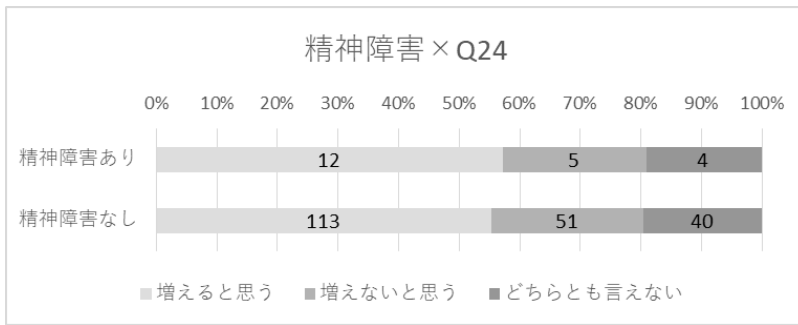
n.s.



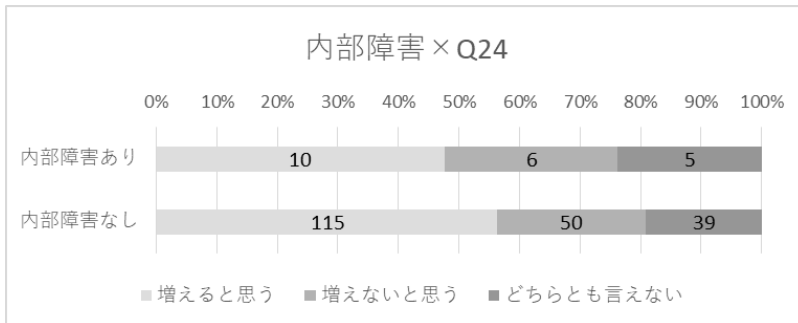
n.s.



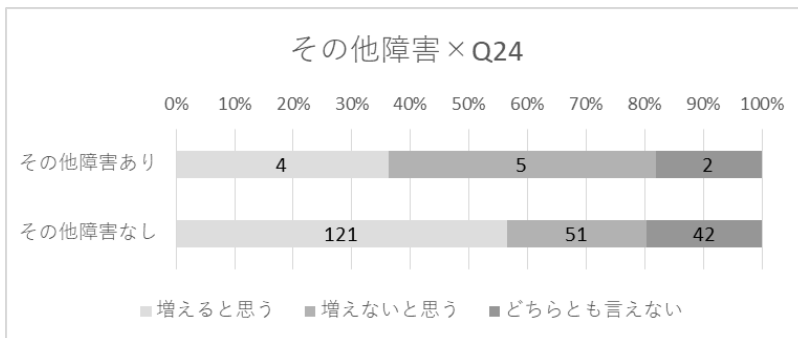
n.s.



n.s.



n.s.



n.s.

5 - 4. 小括

家族形成に関する意識について

- ・ 肢体不自由、視覚障害、言語障害、精神障害、内部障害、その他障害がある者は、「障害が結婚の妨げになると思う」とする者が7割を超える。
- ・ 聴覚障害がある者は、他の障害がある者と比べて「障害が結婚の妨げになると思う」とする者の割合が低い。
- ・ 肢体不自由、言語障害がある者は、他の障害がある者と比べて「いずれ子どもを持ちたい」と考える者の割合が高い。
- ・ 視覚障害、内部障害、精神障害がある者は、他の障害がある者と比べて「子どもを持つつもりはない」と考える者の割合が高い。
- ・ 聴覚障害がある者は、他の障害がある者と比べて「すでに子どもがいる」者の割合が高い。
- ・ 肢体不自由、視覚障害、内部障害がある者は、他の障害がある者と比べて医学的な情報を参考にして子どもを持つかどうか考えたことがある者の割合が高い。
- ・ 聴覚障害、言語障害、その他障害がある者は、他の障害がある者と比べて医学的な情報を参考にして子どもを持つかどうか考えたことがある者の割合が低い。
- ・ 視覚障害、精神障害、内部障害、その他障害がある者は、他の障害がある者と比べて自分の子どもを持つことによって自分の健康が悪化するのではないかと怖れたことがある者の割合が高い。
- ・ 聴覚障害、言語障害がある者は、他の障害がある者と比べて自分の子どもを持つことによって自分の健康が悪化するのではないかと怖れたことがある者の割合が低い。
- ・ 視覚障害、内部障害がある者は、他の障害がある者と比べて自分の障害が子どもに遺伝するのではないかと怖れたことがある者の割合が高い。
- ・ 肢体不自由がある者は、他の障害がある者と比べて自分の障害が子どもに遺伝するのではないかと怖れたことがある者の割合が低い。
- ・ 視覚障害、精神障害、その他障害がある者は、他の障害がある者と比べて、正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことがある割合が高い。
- ・ 肢体不自由、聴覚障害、言語障害がある者は、他の障害がある者と比べて、正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことがある割合が低い。

育児協力者について

- ・言語障害がある者は他の障害がある者と比べて、家族による育児支援を必要とする割合が低い。
 - ・言語障害がある者は他の障害がある者と比べて、友人による育児支援を必要とする割合が低い。その一方で、精神障害ある者は他の障害がある者と比べて、友人による育児支援を必要とする割合が高い。
 - ・肢体不自由、視覚障害がある者は他の障害がある者と比べて、「近隣住民」による育児支援を必要とする割合が高い。その一方で、聴覚障害、言語障害、内部障害ある者は他の障害がある者と比べて、近隣住民による育児支援を必要とする割合が低い。
 - ・肢体不自由、精神障害、内部障害がある者は他の障害がある者と比べて、「職場の人」による育児支援を必要とする割合が高い。その一方で、聴覚障害、言語障害がある者は他の障害がある者と比べて、職場の人による育児支援を必要とする割合が低い。
 - ・視覚障害、言語障害がある者は他の障害がある者と比べて、「医療従事者」による育児支援を必要とする割合が低い。その一方で、内部障害がある者は他の障害がある者と比べて、医療従事者による育児支援を必要とする割合が高い。
 - ・視覚障害がある者は他の障害がある者と比べて、「教育関係者」による育児支援を必要とする割合が高い。その一方で、肢体不自由、言語障害、内部障害がある者は他の障害がある者と比べて、教育関係者による育児支援を必要とする割合が低い。
 - ・視覚障害、その他障害がある者は他の障害がある者と比べて、「福祉支援者」による育児支援を必要とする割合が高い。その一方で、聴覚障害、言語障害がある者は他の障害がある者と比べて、福祉支援者による育児支援を必要とする割合が高い。
 - ・言語障害がある者は他の障害がある者と比べて、「福祉行政に携わる地域窓口の担当者」による育児支援を必要とする割合が低い。
 - ・言語障害、内部障害がある者は他の障害がある者と比べて、「近くに偶然居合わせた人」による育児支援を必要とする割合が低い。
- ・視覚障害がある者は、他の障害がある者と比べて、障害の「種類」や「種類」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことがあるとする割合が低い。

社会資源について

・視覚障害、内部障害、その他障害がある者は、他の障害がある者と比べてバリアフリーが進んでも、子どもを持つ障害者が増えると思わない割合が高い。その一方で、聴覚障害、言語障害、精神障害がある者は、バリアフリーが進めば子どもを持つ障害者が増えると思う割合が高い。

・肢体不自由がある者は、他の障害がある者と比べて、障害者雇用が促進すれば、子どもを持つ障害者が増えると思う割合が高い。その一方で、視覚障害、その他障害がある者は、障害者雇用が促進しても、子どもを持つ障害者が増えると思う割合が低い。

・その他障害がある者は他の障害がある者と比べて、障害者福祉が実情に合うようになっても、子どもを持つ障害者が増えるとは思わない割合が高い。

・肢体不自由、聴覚障害、言語障害がある者は他の障害がある者と比べて、医療制度が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思う割合が高い。その一方で、視覚障害、その他障害がある者は医療制度が実情に合うようになっても、子どもを持つ障害者が増えるとは思わない割合が高い。

・肢体不自由、精神障害がある者は他の障害がある者と比べて、統合教育が普及すれば、子どもを持つ障害者が増えると思う割合が高い。その一方で、視覚障害、その他障害がある者は統合教育が普及しても、子どもを持つ障害者が増えるとは思わない割合が高い。

・肢体不自由がある者は他の障害がある者と比べて、障害者の性と生殖に関する権利が守られるようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思う割合が高い。その一方で、視覚障害、言語障害、内部障害、その他障害がある者は、障害者の性と生殖に関する権利が守られても、子どもを持つ障害者が増えるとは思わない割合が高い。

注) 上記の小括はあくまでグラフから読み取れる傾向である。統計的に有意であるか否かは、各グラフの横に表示した注記を参照のこと。たとえば、「n.s.」は「統計的な有意差はなし」、「 $\chi^2=11.6, df=2, p<0.05$ 」は「5%水準で有意差あり」である。

6. 年金受給による比較

6-1. 家族形成に関する意識と障害年金の受給の関係

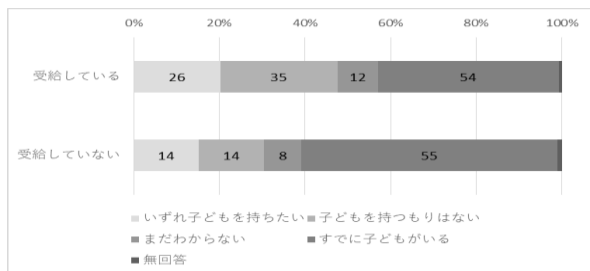
Q1_あなたは、あなたの障害が結婚の妨げになると思ったことはありますか。



棒グラフは上から順に、
 ・受給している
 ・受給していない の度数を表示

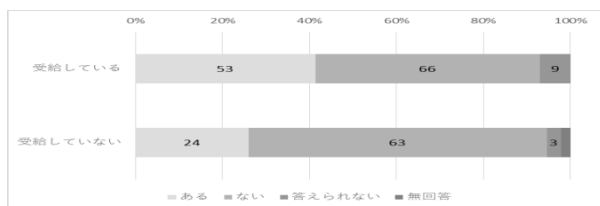
n.s.

Q2_あなたは、自分の子どもを持つことをどうお考えですか。最も近いものを1つ選んでください。



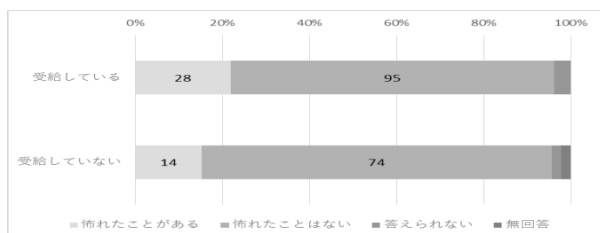
n.s.

Q3_あなたは医学的な情報（本、ウェブサイトの記事、医療従事者の説明など）を参考にし、子どもを持つかどうか考えたことはありますか。



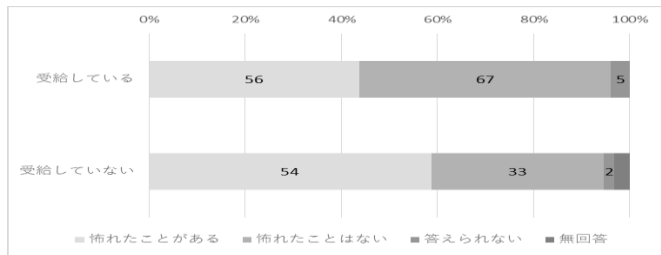
n.s.

Q4_あなたは自分の子どもを持つことによって、「あなた自身の健康が悪化するのではないか」と怖れたことはありますか。



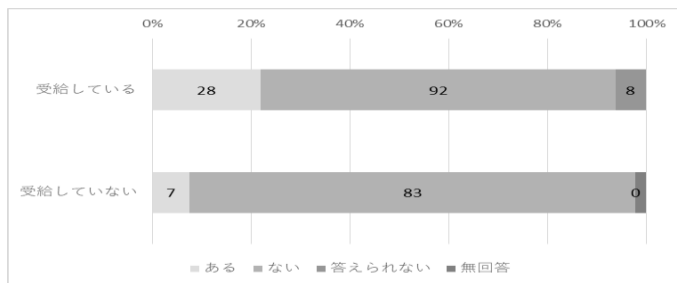
n.s.

Q5_あなたは、「自分の障害が子どもに遺伝するのではないか」と怖れたことはありますか。



$\chi^2 = 5.6, df=1, p<0.05$

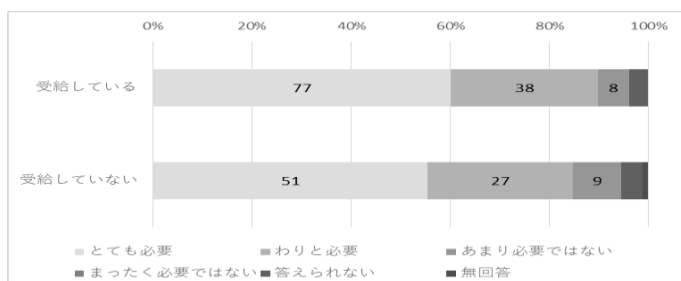
Q6_正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことはありますか。



$\chi^2 = 9.0, df=1, p<0.01$

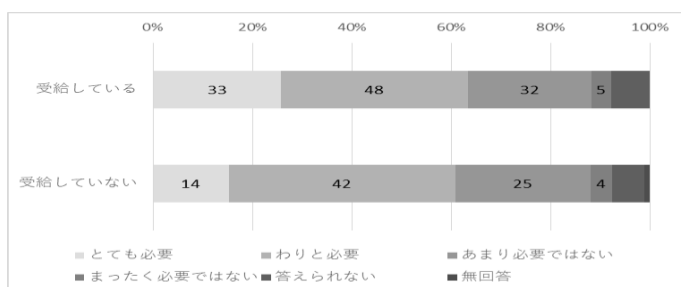
6-2. 育児協力者と障害年金の受給の関係

Q7_障害者が育児するとき、「家族」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



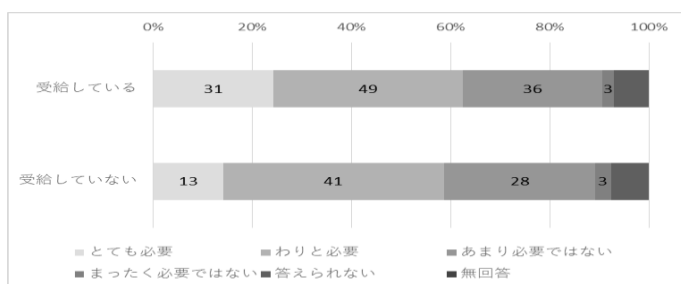
n.s.

Q8_障害者が育児するとき、「友人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



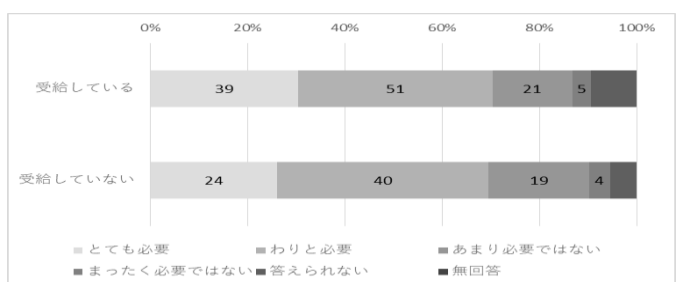
n.s.

Q9_障害者が育児するとき、「近隣住民」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



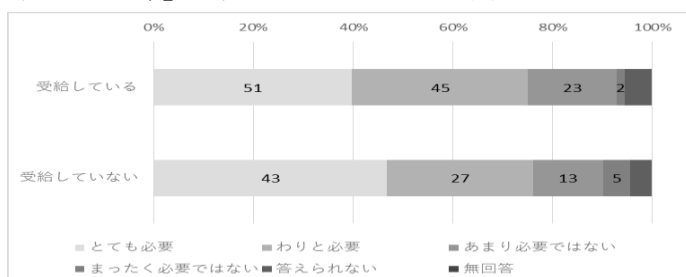
n.s.

Q10_障害者が育児するとき、「職場の人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



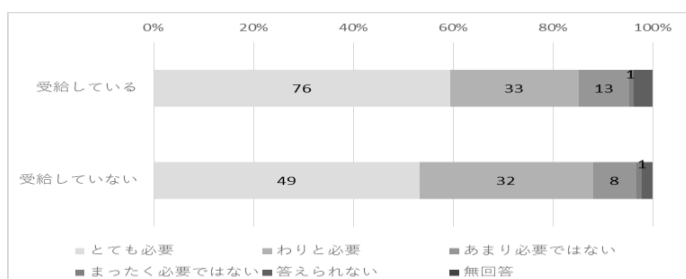
n.s.

Q11_障害者が育児するとき、「医療従事者（つまり、医師、看護師、保健師、薬剤師、理学療法士など）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



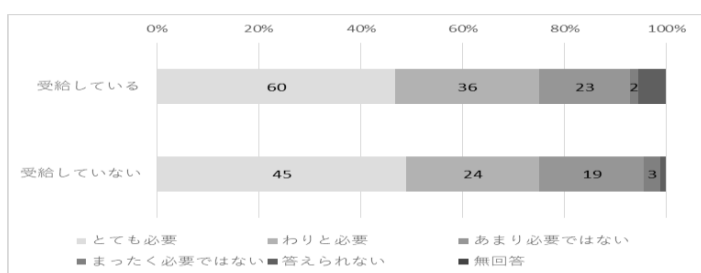
n.s.

Q12_障害者が育児するとき、「教育関係者（つまり、保育園や小中学校などの教職員）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



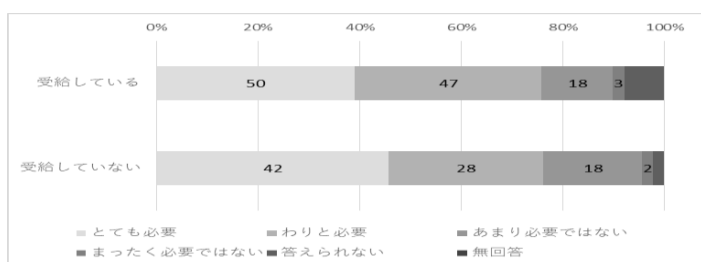
n.s.

Q13_障害者が育児するとき、「福祉支援者（つまり、ヘルパー、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなど）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



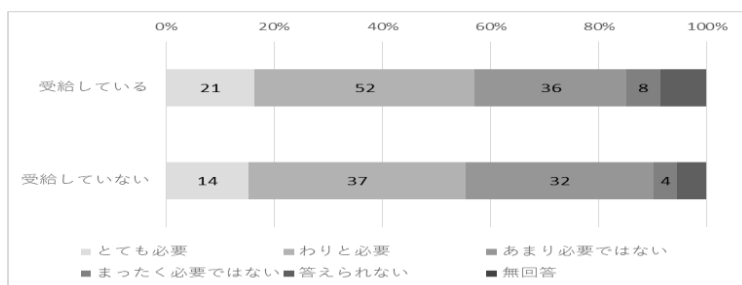
n.s.

Q14_障害者が育児するとき、「福祉行政に携わる地域窓口（つまり、市区町村の保健福祉課など）の担当者」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



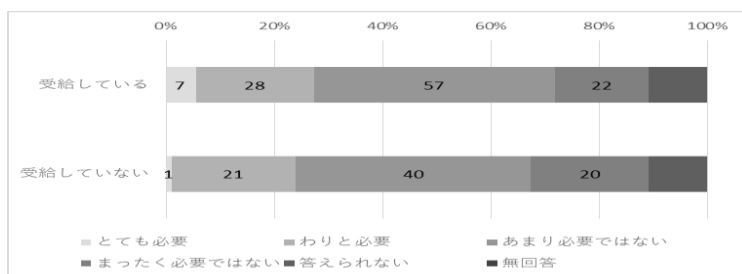
n.s.

Q15_障害者が育児するとき、「近くに偶然居合わせた人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



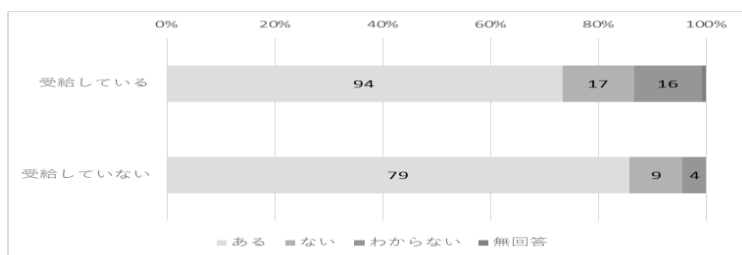
n.s.

Q16_障害者が育児するとき、「インターネットを介して知り合った人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



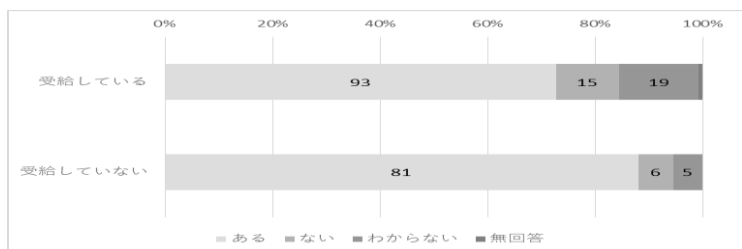
n.s.

Q17_あなたは障害の「種類」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思いますか。



n.s.

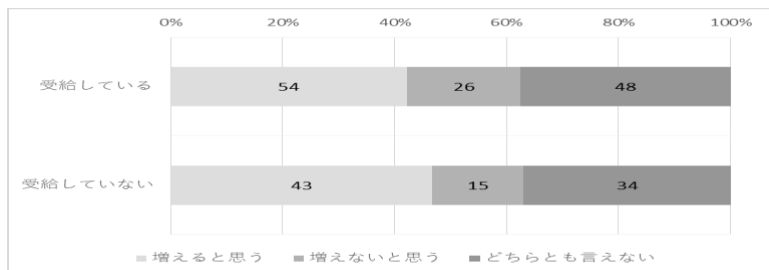
Q18_あなたは障害の「程度」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思いますか。



$\chi^2 = 7.4, df=1, p<0.05$

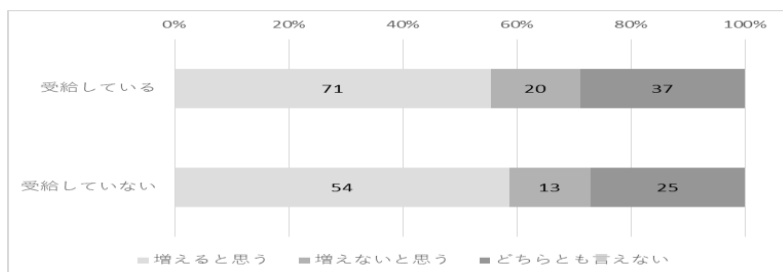
6-3. 社会資源と障害年金の受給の関係

Q19_あなたはバリアフリーが進めば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



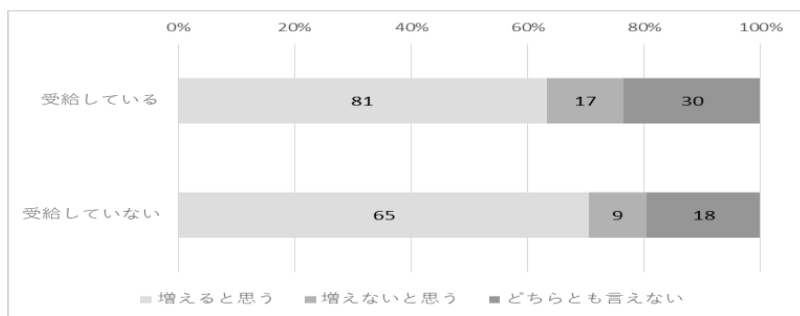
n.s.

Q20_あなたは障害者雇用が促進すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



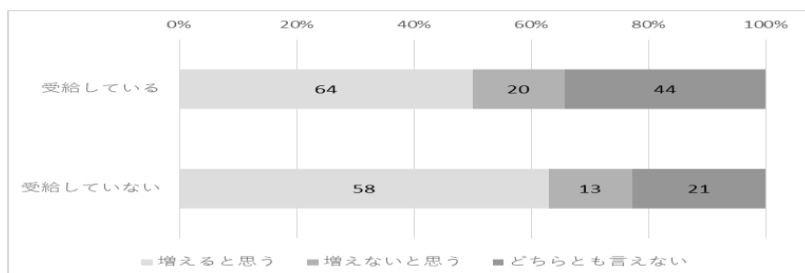
n.s.

Q21_あなたは障害者福祉が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



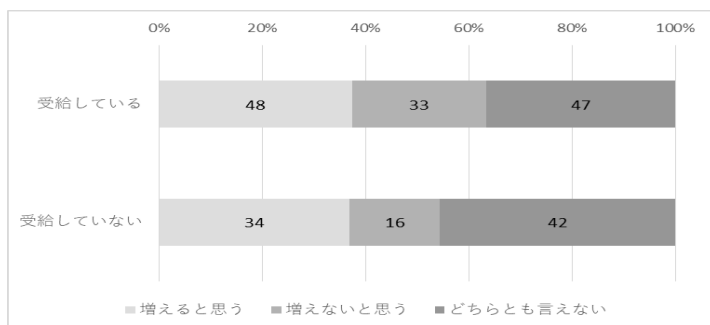
n.s.

Q22_あなたは医療制度が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



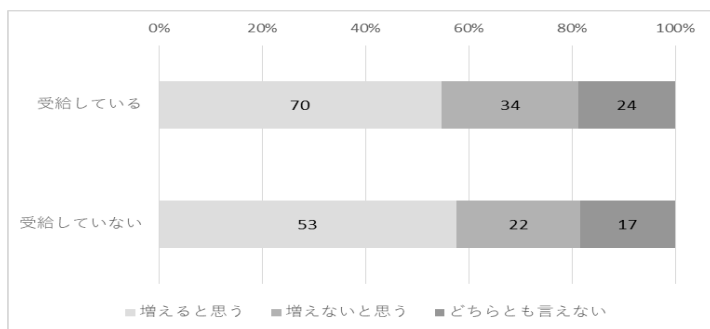
n.s.

Q23_あなたは統合教育（つまり、障害児と健常児と一緒に教育を受けること）が普及すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



n.s.

Q24_あなたは、障害者の性と生殖に関する権利（つまり、性と子どもを産むことに関する障害者個人の自由と権利）が守られるようになれば、子どもをもつ障害者が増えると思いますか。



n.s.

6-4. 小括

家族形成に関する意識について

- ・障害年金を受給している者はそうでない者よりも「自分の子どもを持つつもりはない」とする割合が高い。
- ・「すでに子どもがいる」とするのは、障害年金を受給していない者の方が多い。
- ・医学的な情報を参考に子どもを持つかどうか考えたこともある者の割合は、障害年金を受給している者のほうが高めだった。
- ・自分の子どもを持つことによって、自分の健康が悪化するのではないかと恐れたことがある者の割合は、障害年金を受給している者の方がわずかに高かった。
- ・障害が遺伝するのではないかと恐れた者の割合は、障害年金を受給していない者の方が高かった。
- ・正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことがある者の割合は、障害年金を受給している者の方が高かった。

育児協力者について

- ・障害者が育児するとき、最も協力が期待されていたのは、障害年金の受給の有無にかかわらず「家族」であった。しかし、その次に協力を期待されていたのは、「友人」や「近隣住民」ではなく、「医療従事者」「教育関係者」「福祉支援者」「福祉行政に携わる地域窓口の担当者」などの専門家であった。

社会資源について

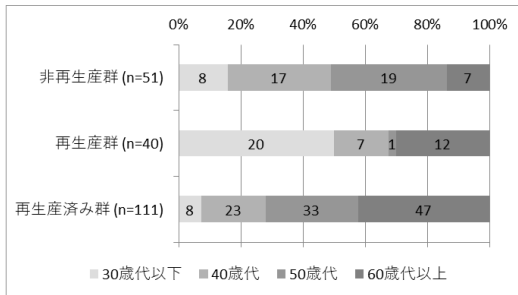
- ・障害者福祉、医療制度が充実すれば、子どもを持つ障害者が増えると考える者の割合は、障害年金を受給していない者のほうが高い傾向にあった。

注) 上記の小括はあくまでグラフから読み取れる傾向である。統計的に有意であるか否かは、各グラフの横に表示した注記を参照のこと。たとえば、「n.s.」は「統計的な有意差はなし」、「 $\chi^2=11.6, df=2, p<0.05$ 」は「5%水準で有意差あり」である。

7. 再生産意識による比較

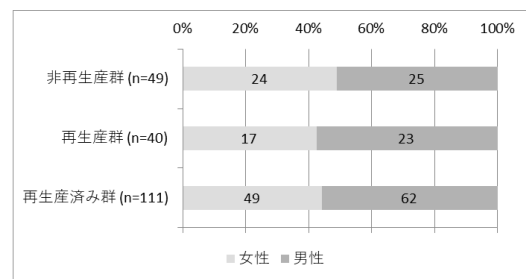
「障害」が家族形成に与える影響を調べるため、子どもを持つことに関する設問（Q2「あなたは自分の子どもを持つことをどうお考えですか」）の回答を手掛かりに、協力者を「子どもを持つつもりはない（非再生産群）」、「いずれ子どもを持ちたい（再生産群）」、「すでに子どもがいる（再生産済み群）」の3群に分け、属性や意識を比較した。

3群の年齢比較



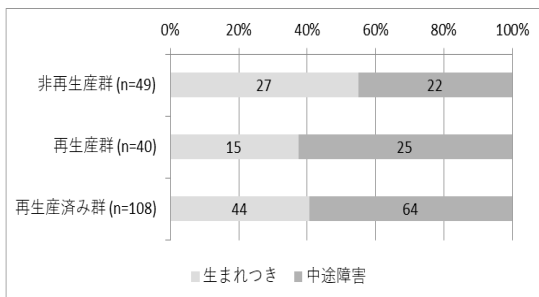
$\chi^2 = 53.8, df=6, p<0.001$

3群の性別比較



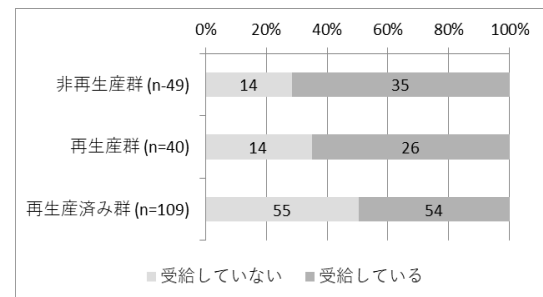
n.s.

3群の障害発生時期構比較



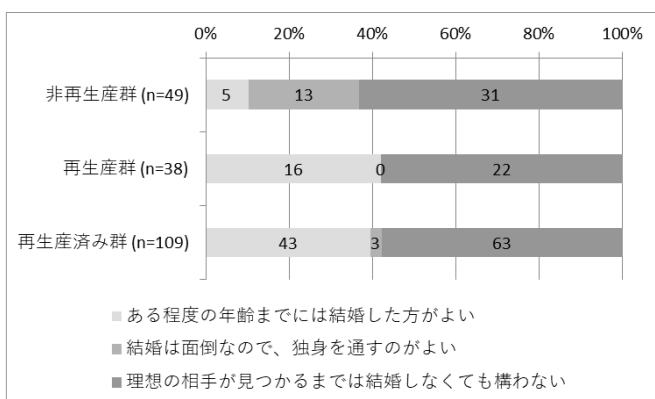
n.s.

3群の障害年金受給比較



$\chi^2 = 7.6, df=2, p<0.05$

3群の結婚に対する意識比較



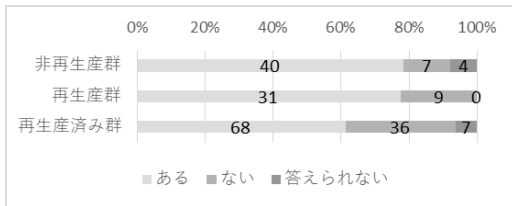
$\chi^2 = 37.6, df=4, p<0.001$

棒グラフは上から順に、

- ・ 非再生産群
- ・ 再生産群
- ・ 再生産済み群 の度数を表示

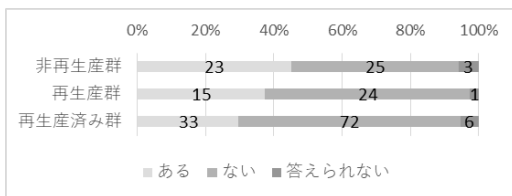
7-1. 家族形成に関する意識と再生産に関する意識の関係

Q1_あなたは、あなたの障害が結婚の妨げになると思ったことはありますか。



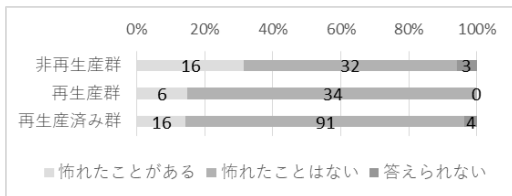
$\chi^2 = 6.9, df=2, p<0.05$

Q3_あなたは医学的な情報（本、ウェブサイトの記事、医療従事者の説明など）を参考にして、子どもを持つかどうか考えたことはありますか。



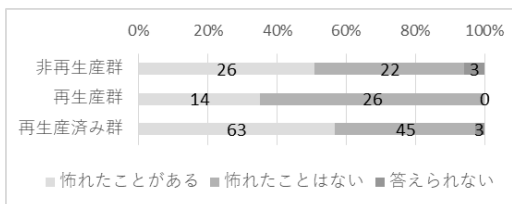
n.s.

Q4_あなたは自分の子どもを持つことによって、「あなた自身の健康が悪化するのではないか」と怖れたことはありますか。



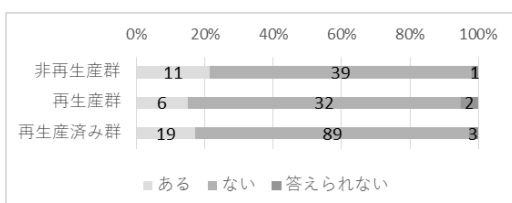
$\chi^2 = 7.8, df=2, p<0.05$

Q5_あなたは、「自分の障害が子どもに遺伝するのではないか」と怖れたことはありますか。



$\chi^2 = 6.4, df=2, p<0.05$

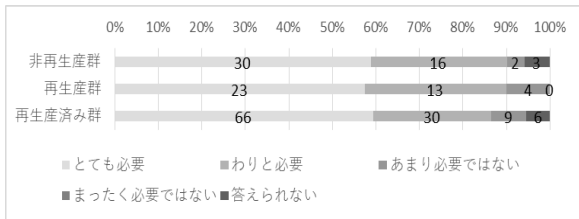
Q6_正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことはありますか。



n.s.

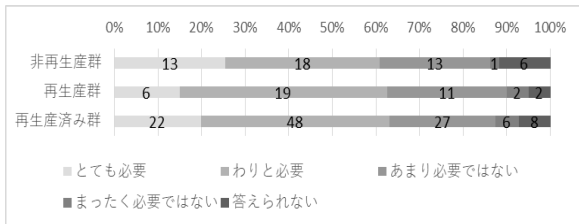
7-2. 育児協力者と再生産に関する意識の関係

Q7_障害者が育児するとき、「家族」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



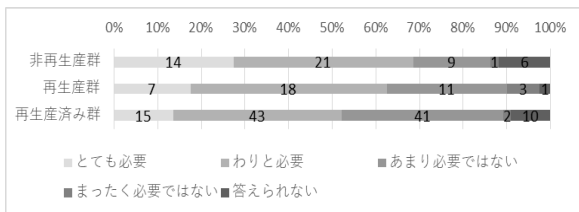
n.s.

Q8_障害者が育児するとき、「友人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



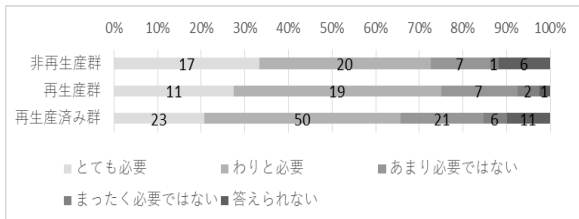
n.s.

Q9_障害者が育児するとき、「近隣住民」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



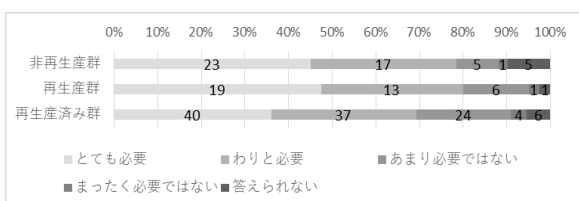
n.s.

Q10_障害者が育児するとき、「職場の人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



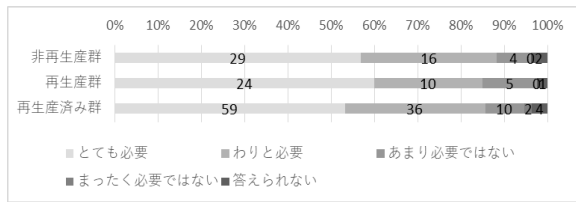
n.s.

Q11_障害者が育児するとき、「医療従事者（つまり、医師、看護師、保健師、薬剤師、理学療法士など）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



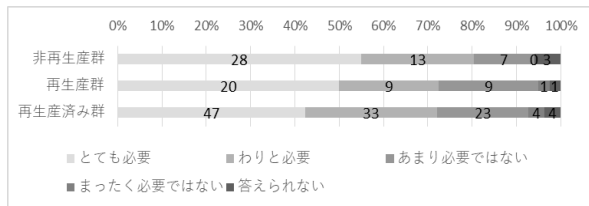
n.s.

Q12_障害者が育児するとき、「教育関係者（つまり、保育園や小中学校などの教職員）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



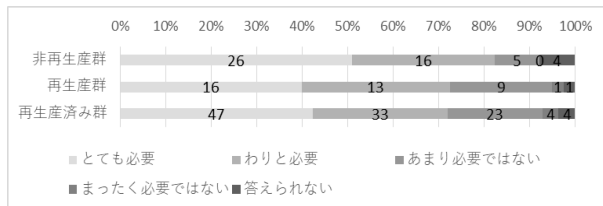
n.s.

Q13_障害者が育児するとき、「福祉支援者（つまり、ヘルパー、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなど）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



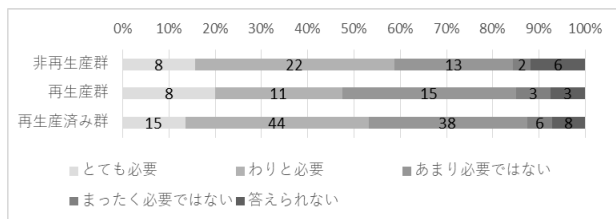
n.s.

Q14_障害者が育児するとき、「福祉行政に携わる地域窓口（つまり、市区町村の保健福祉課など）の担当者」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



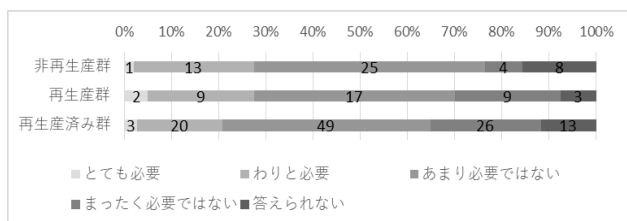
n.s.

Q15_障害者が育児するとき、「近くに偶然居合わせた人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



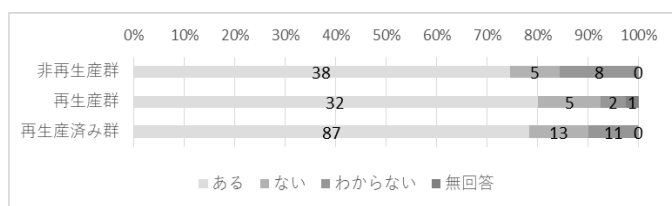
n.s.

Q16_障害者が育児するとき、「インターネットを介して知り合った人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。



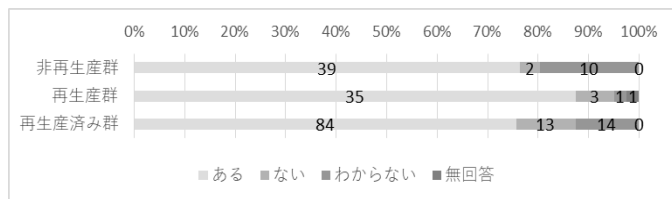
n.s.

Q17_あなたは障害の「種類」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことはありますか。



n.s.

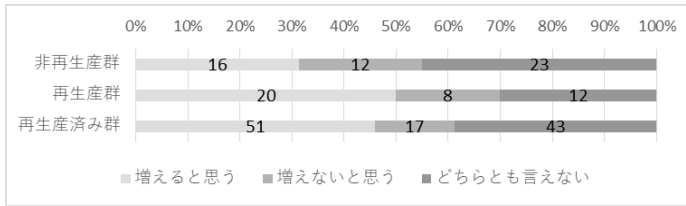
Q18_あなたは障害の「程度」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことはありますか。



n.s.

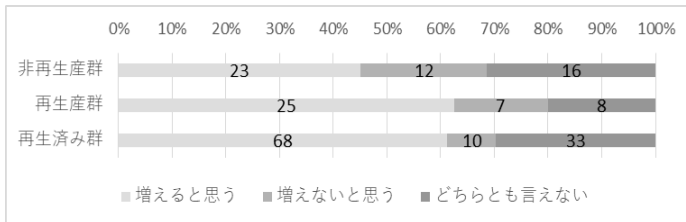
7-3. 社会資源と再生産に関する意識の関係

Q19_あなたはバリアフリーが進めば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



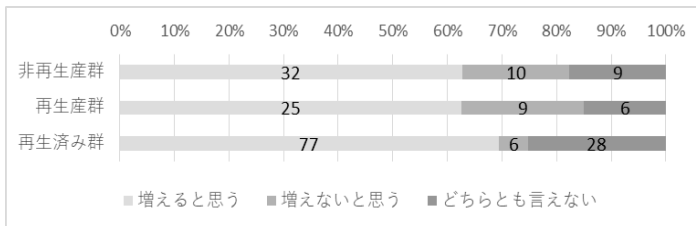
n.s.

Q20_あなたは障害者雇用が促進すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



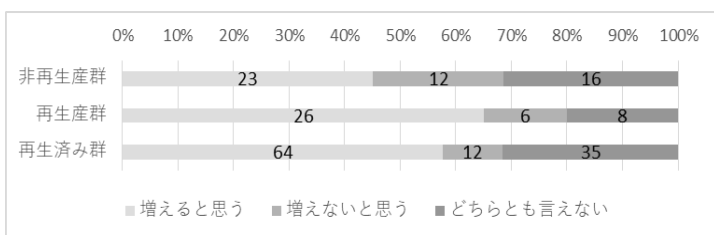
n.s.

Q21_あなたは障害者福祉が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



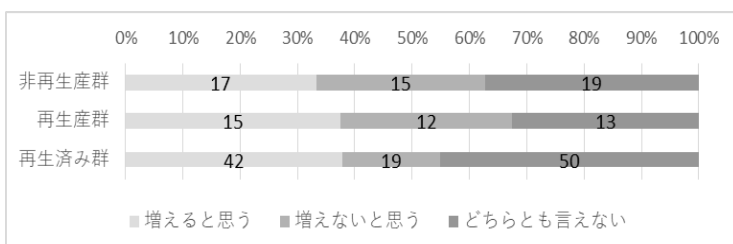
$\chi^2 = 12.0, df=4, p<0.05$

Q22_あなたは医療制度が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



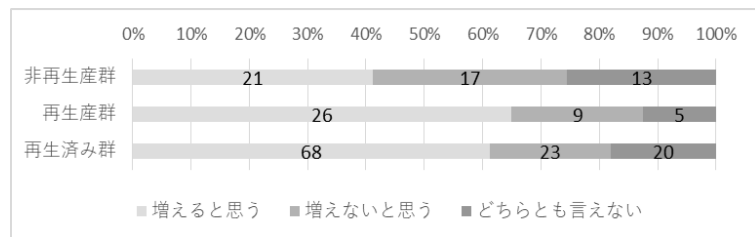
n.s.

Q23_あなたは統合教育（つまり、障害児と健常児と一緒に教育を受けること）が普及すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。



n.s.

Q24_あなたは、障害者の性と生殖に関する権利（つまり、性と子どもを産むことに関する障害者個人の自由と権利）が守られるようになれば、子どもをもつ障害者が増えると思いますか。



n.s.

7-4. 小括

3群の属性比較

- ・再生産群は30歳代以下の若者の割合が高い
- ・非再生産群は生まれつきの障害を持つ者の割合が高く、障害年金を受給している割合も高い
- ・非再生産群は『ある程度の年齢までには結婚した方が良い』と考える者の割合が他群より低く、「結婚は面倒なので、独身を通すのがよい」とする者の割合が高かった。

家族形成に関する意識について

- ・再生産済み群は、自分の障害が結婚の妨げになると考える割合が他群より低い。
- ・非再生産群は、医学的情報を参考に子を持つかどうか考え、子を持つことで自分の健康が悪化すると懸念し、疑わしい医学的情報をもとに子どもを持たない方がよいと言われた経験を持つ割合が他の群よりも多い。

育児協力者について

- ・すべての群で家族の協力は最重視されていたが、その次に重視されていたのは友人や近隣住民ではなく専門家（医療従事者、教育関係者、福祉支援者、福祉行政窓口）であった
- ・非再生産群では、近隣住民や職場の人の協力も必要だと考える者の割合が他群より高かった
- ・再生産済み群では育児協力を周囲のアクターに期待する割合が他群に比べて全般的に低い傾向にあった。

社会資源について

- ・非再生産群は他群に比べて、バリアフリー・障害者雇用・医療制度・障害者の性と生殖の権利が整っても、障害者の家族形成は増えないと考える割合が高かった
- ・再生産済み群では、障害者福祉が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思う割合が高かった

まとめ

家族形成に消極的な非再生産群では、家族形成に先立って周囲からの軋轢が生じ、自らの障害の悪化や育児への懸念を多く持たれる傾向があることが示唆された。これは、非再生産群の属性（生まれつきの障害を持つ者の割合が高く、障害年金を受給している割合も高い）ことも影響していると考えられる。

以上の結果より、「障害」が周囲との軋轢を生み、それが障害者の家族形成を妨げる一因となっている可能性は示された。しかし、非再生産群の家族形成に関する意識は、「障害」ですべてが説明されるわけではなく、近年の非婚化の影響も無視することはできない。ゆえに、障害者の家族形成に関する問題は、「障害」をめぐる諸問題と非婚化を促し子育てを忌避させる近年の社会のあり方の双方から検討を重ねていく必要があると考えられる。

また、専門家（医療従事者、教育関係者、福祉支援者、福祉行政に携わる地域窓口の担当者）の子育て支援が求められていることから、これに応えられる体制作りも必要であろう。

注) 上記の小括はあくまでグラフから読み取れる傾向である。統計的に有意であるか否かは、各グラフの横に表示した注記を参照のこと。たとえば、「n.s.」は「統計的な有意差はなし」、「 $\chi^2=11.6, df=2, p<0.05$ 」は「5%水準で有意差あり」である。

追記：本章は、2022年11月27日の日本子育て学会第14回大会にて、「障害者の結婚・妊娠・育児に影響を与える要因—インタビュー調査による仮説生成の試み—」と題して報告された。

アンケート調査の実施にご協力いただいた当事者団体（あいうえお順）

赤ひげ CLUB

石川言友会

NPO 法人全国精神障害者団体連合会

おおさか結 言友会

かるがもの会

岐阜言友会

京都言友会

北九州言友会

群馬言友会

公益社団法人全国脊髄損傷者連合会

公益社団法人 岡山県難聴者協会

しずおか言友会

全国頸髄損傷者連絡会

全日本視覚障害者協議会

千葉言友会

鶴岡市身体障害者福祉協会

DPI 日本会議

特定非営利活動法人 宮城県・仙台市難聴者中途失聴者協会

特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会

特定非営利活動法人 兵庫県難聴者福祉協会

名古屋言友会

日本二分脊椎症協会

にいがた言友会

パッションフレンズ融和会

福岡言友会

北海道言友会

宮城言友会

よこはま言友会

アンケートへ回答いただいた皆様および上記団体のご協力に感謝いたします

(付録) 質問票

Q1 あなたは、あなたの障害が結婚の妨げになると思ったことはありますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 答えられない

Q2 あなたは自分の子どもを持つことをどうお考えですか。最も近いものを1つ選んでください。

- 1 いずれ子どもを持ちたい
- 2 子どもを持つつもりはない
- 3 まだわからない
- 4 すでに子どもがいる

Q3 あなたは医学的な情報（本、ウェブサイトの記事、医療従事者の説明など）を参考にして、子どもを持つかどうか考えたことはありますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 答えられない

Q4 あなたは自分の子どもを持つことによって、「あなたご自身の健康が悪化するのではないか」と怖れたことはありますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 答えられない

Q5 あなたは、「自分の障害が子どもに遺伝するのではないかと」恐れたことはありますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 怖れたことがある
- 2 怖れたことはない
- 3 答えられない

Q6 正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことはありますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 ある

- 2 ない
- 3 答えられない

Q7 障害者が育児するとき、「家族」の協力はどれくらい必要だと思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 とても必要
- 2 わりと必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 まったく必要ではない
- 5 答えられない

Q8 障害者が育児するとき、「友人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 とても必要
- 2 わりと必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 まったく必要ではない
- 5 答えられない

Q9 障害者が育児するとき、「近隣住民」の協力はどれくらい必要だと思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 とても必要
- 2 わりと必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 まったく必要ではない
- 5 答えられない

Q10 障害者が育児するとき、「職場の人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 とても必要
- 2 わりと必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 まったく必要ではない
- 5 答えられない

Q11 障害者が育児するとき、「医療従事者（つまり、医師、看護師、保健師、薬剤師、

理学療法士など)」の協力はどれくらい必要だと思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 とても必要
- 2 わりと必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 まったく必要ではない
- 5 答えられない

Q12 障害者が育児するとき、「教育関係者（つまり、保育園や小中学校などの教職員）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 とても必要
- 2 わりと必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 まったく必要ではない
- 5 答えられない

Q13 障害者が育児するとき、「福祉支援者（つまり、ヘルパー、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなど）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 とても必要
- 2 わりと必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 まったく必要ではない
- 5 答えられない

Q14 障害者が育児するとき、「福祉行政に携わる地域窓口（つまり、市区町村の保健福祉課など）の担当者」の協力はどれくらい必要だと思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 とても必要
- 2 わりと必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 まったく必要ではない
- 5 答えられない

Q15 障害者が育児するとき、「近くに偶然居合わせた人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 とても必要
- 2 わりと必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 まったく必要ではない
- 5 答えられない

Q16 障害者が育児するとき、「インターネットを介して知り合った人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 とても必要
- 2 わりと必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 まったく必要ではない
- 5 答えられない

Q17 あなたは障害の「種類」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことはありますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 答えられない

Q18 あなたは障害の「程度」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことはありますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 答えられない

Q19 あなたはバリアフリーが進めば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 思う
- 2 思わない
- 3 答えられない

Q20 あなたは障害者雇用が促進すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 思う
- 2 思わない

3 答えられない

Q2 1 あなたは障害者福祉が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 思う
- 2 思わない
- 3 答えられない

Q2 2 あなたは医療制度が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 思う
- 2 思わない
- 3 答えられない

Q2 3 あなたは統合教育（つまり、障害児と健常児と一緒に教育を受けること）が普及すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 思う
- 2 思わない
- 3 答えられない

Q2 4 あなたは、障害者の性と生殖に関する権利（つまり、性や子どもを産むことに関する障害者個人の自由と権利）が守られるようになれば、子どもをもつ障害者が増えると思いますか。選択肢から1つ選んでください。

- 1 思う
- 2 思わない
- 3 答えられない

Q2 5 あなたの年齢を教えてください。

- 1 10 歳代
- 2 20 歳代
- 3 30 歳代
- 4 40 歳代
- 5 50 歳代
- 6 60 歳代以上

Q2 6 あなたの性別を教えてください。

- 1 女性
- 2 男性
- 3 その他
- 4 答えられない

Q27 あなたの障害の種別を教えてください。複数選択していただいて構いません。

- 1 肢体不自由
- 2 視覚障害
- 3 聴覚障害
- 4 言語障害
- 5 精神障害（知的障害と発達障害を含む）
- 6 内部障害（内臓および免疫の障害）
- 7 その他

Q28 あなたの障害は生まれつきですか、それとも中途障害ですか。

- 1 生まれつき
- 2 中途障害
- 3 答えられない

Q29 あなたは現在、障害年金を受給していますか。

- 1 受給している
- 2 受給していない
- 3 答えられない

Q30 あなたの日常の主な過ごし方を教えてください。

- 1 仕事をしている（在宅ワークを含む）
- 2 福祉作業所などにいる
- 3 デイサービスなどを受けている
- 4 家にいる
- 5 その他

Q31 結婚に対するあなたのお考えに近いものを、以下から選んでください。

- 1 理想の相手が見つかるまでは、結婚しなくても構わない
- 2 ある程度の年齢までには、結婚した方がよい
- 3 結婚は面倒なので、独身を通すのがよい
- 4 答えられない

Q32 あなたは今までに、結婚をしたことがありますか（事実婚を含む）。

- 1 はい
- 2 いいえ

(付録) 単純集計表

Q1_あなたは、あなたの障害が結婚の妨げになると思ったことはありますか。

選択肢	度数	%
ある	153	68.0
ない	56	24.9
答えられない	11	4.9
無回答	5	2.2
合計	225	100.0

Q2_あなたは、自分の子どもを持つことをどうお考えですか。最も近いものを1つ選んでください。

選択肢	度数	%
いずれ子どもを持ちたい	40	17.8
子どもを持つつもりはない	51	22.7
まだわからない	20	8.9
すでに子どもがいる	111	49.3
無回答	3	1.3
合計	225	100.0

Q3_あなたは医学的な情報（本、ウェブサイトの記事、医療従事者の説明など）を参考にして、子どもを持つかどうか考えたことはありますか

選択肢	度数	%
ある	79	35.1
ない	130	57.8
答えられない	13	5.8
無回答	3	1.3
合計	225	100.0

Q4_あなたは自分の子どもを持つことによって、「あなた自身の健康が悪化するのではないか」と怖れたことはありますか。

選択肢	度数	%
怖れたことがある	43	19.1
怖れたことはない	171	76.0
答えられない	8	3.6
無回答	3	1.3
合計	225	100.0

Q5_あなたは、「自分の障害が子どもに遺伝するのではないか」と怖れたことはありますか。

選択肢	度数	%
怖れたことがある	113	50.2
怖れたことはない	100	44.4
答えられない	8	3.6
無回答	4	1.8
合計	225	100.0

Q6_正確かどうか疑わしい医学的な情報をもとに、「あなたは子どもを持たない方がよい」と誰かに言われたことはありますか。

選択肢	度数	%
ある	36	16.0
ない	177	78.7
答えられない	9	4.0
無回答	3	1.3
合計	225	100.0

Q7_障害者が育児するとき、「家族」の協力はどれくらい必要だと思いますか。

選択肢	度数	%
とても必要	132	58.7
わりと必要	66	29.3
あまり必要ではない	17	7.6
まったく必要ではない	0	0.0
答えられない	10	4.4
合計	225	100.0

Q8_障害者が育児するとき、「友人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。

選択肢	度数	%
とても必要	49	21.8
わりと必要	91	40.4
あまり必要ではない	59	26.2
まったく必要ではない	9	4.0
答えられない	1	0.4
無回答	16	7.1
合計	225	100.0

Q9_障害者が育児するとき、「近隣住民」の協力はどれくらい必要だと思いますか

選択肢	度数	%
とても必要	45	20.0
わりと必要	91	40.4
あまり必要ではない	66	29.3
まったく必要ではない	6	2.7
答えられない	17	7.6
合計	225	100.0

Q10_障害者が育児するとき、「職場の人」の協力はどれくらい必要だと思いますか

選択肢	度数	%
とても必要	65	28.9
わりと必要	93	41.3
あまり必要ではない	40	17.8
まったく必要ではない	9	4.0
答えられない	18	8.0
合計	225	100.0

Q11_障害者が育児するとき、「医療従事者（つまり、医師、看護師、保健師、薬剤師、理学療法士

選択肢	度数	%
とても必要	97	43.1
わりと必要	73	32.4
あまり必要ではない	36	16.0
まったく必要ではない	7	3.1
答えられない	12	5.3
合計	225	100.0

Q12_障害者が育児するとき、「教育関係者（つまり、保育園や小中学校などの教職員）」の協力は

選択肢	度数	%
とても必要	128	56.9
わりと必要	67	29.8
あまり必要ではない	21	9.3
まったく必要ではない	2	0.9
答えられない	7	3.1
合計	225	100.0

Q13_障害者が育児するとき、「福祉支援者（つまり、ヘルパー、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなど）」の協力はどれくらい必要だと思いますか。

選択肢	度数	%
とても必要	109	48.4
わりと必要	61	27.1
あまり必要ではない	42	18.7
まったく必要ではない	5	2.2
答えられない	8	3.6
合計	225	100.0

Q14_障害者が育児するとき、「福祉行政に携わる地域窓口（つまり、市区町村の保健福祉課など）の担当者」の協力はどれくらい必要だと思いますか。

選択肢	度数	%
とても必要	96	42.7
わりと必要	76	33.8
あまり必要ではない	36	16.0
まったく必要ではない	5	2.2
答えられない	12	5.3
合計	225	100.0

Q15_障害者が育児するとき、「近くに偶然居合わせた人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。

選択肢	度数	%
とても必要	38	16.9
わりと必要	89	39.6
あまり必要ではない	69	30.7
まったく必要ではない	12	5.3
答えられない	17	7.6
合計	225	100.0

Q16_障害者が育児するとき、「インターネットを介して知り合った人」の協力はどれくらい必要だと思いますか。

選択肢	度数	%
とても必要	9	4.0
わりと必要	49	21.8
あまり必要ではない	99	44.0
まったく必要ではない	43	19.1
答えられない	25	11.1
合計	225	100.0

Q17_あなたは障害の「種類」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことはありますか

選択肢	度数	%
ある	177	78.7
ない	26	11.6
わからない	21	9.3
無回答	1	0.4
合計	225	100.0

Q18_あなたは障害の「程度」によっては、障害者が育児をするのは難しいと思うことはありますか

選択肢	度数	%
ある	178	79.1
ない	21	9.3
わからない	25	11.1
無回答	1	0.4
合計	225	100.0

Q19_あなたはバリアフリーが進めば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか

選択肢	度数	%
増えると思う	99	44
増えないと思う	42	18.7
どちらとも言えない	84	37.3
合計	225	100.0

Q20_あなたは障害者雇用が促進すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか

選択肢	度数	%
増えると思う	128	56.9
増えないと思う	33	14.7
どちらとも言えない	64	28.4
合計	225	100.0

Q21_あなたは障害者福祉が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか

選択肢	度数	%
増えると思う	149	66.2
増えないと思う	26	11.6
どちらとも言えない	50	22.2
合計	225	100.0

Q22_あなたは医療制度が実情に合うようになれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか

選択肢	度数	%
増えると思う	125	55.6
増えないと思う	33	14.7
どちらとも言えない	67	29.8
合計	225	100.0

Q23_あなたは統合教育（つまり、障害児と健常児と一緒に教育を受けること）が普及すれば、子どもを持つ障害者が増えると思いますか

選択肢	度数	%
増えると思う	84	37.3
増えないと思う	50	22.2
どちらとも言えない	91	40.4
合計	225	100.0

Q24_あなたは、障害者の性と生殖に関する権利（つまり、性と子どもを産むことに関する障害者個人の自由と権利）が守られるようになれば、子どもをもつ障害者が増えると思いますか

選択肢	度数	%
増えると思う	125	55.6
増えないと思う	56	24.9
どちらとも言えない	44	19.6
合計	225	100.0

Q25_あなたの年齢

選択肢	度数	%
10歳代	4	1.8
20歳代	18	8.0
30歳代	21	9.3
40歳代	53	23.6
50歳代	58	25.8
60歳代以上	71	31.6
合計	225	100.0

Q25_あなたの性別

選択肢	度数	%
女性	101	44.9
男性	122	54.2
その他	0	0.0
無回答	2	0.9
合計	225	100.0

Q27_1_あなたの障害の種別（複数の障害をお持ちの方は、該当するものをすべて選んでください）

選択肢	度数	%
肢体不自由	44	19.6
視覚障害	58	25.8
聴覚障害	62	27.7
言語障害	40	17.8
精神障害	21	9.3
内部障害	21	9.3
その他の障害	11	4.9
付記) 重複した障害を持つ者	31	13.8

※複数回答が含まれているため合計は省略、%はN=225として計算

Q28_あなたの障害は生まれつきですか、それとも中途障害ですか

選択肢	度数	%
生まれつき	97	43.1
中途障害	122	54.2
答えられない	6	2.7
合計	225	100.0

Q29_あなたは障害年金を受給していますか

選択肢	度数	%
受給している	128	56.9
受給していない	92	40.9
答えられない	5	2.2
合計	225	100.0

Q30_あなたの日常の主な過ごし方を教えてください

選択肢	度数	%
仕事をしている（在宅ワークを含む）	141	62.7
福祉作業所などにいる	6	2.7
デイサービスなどを受けている	1	0.4
家にいる	57	25.3
その他	20	8.9
合計	225	100.0

Q31_結婚に対するあなたのお考えに近いものを以下から1つ選んでください

選択肢	度数	%
理想の相手が見つかるまでは、結婚しなくても構わない	131	58.2
ある程度の年齢までには、結婚した方がよい	71	31.6
結婚は面倒なので、独身を通すのがよい	16	7.1
無回答	7	3.1
合計	225	100.0

Q32_あなたは今までに、結婚をしたことがありますか（事実婚を含む）

選択肢	度数	%
はい	152	67.6
いいえ	73	32.4
合計	225	100.0

障害と家族形成に関するアンケート調査報告書

竹田恵子

2023年3月31日発行